



2025 年度

シラバス SYLLABUS

帝京学園短期大学

はじめに

本学が授業の内容や方法の改善を目指す自己点検・自己評価の一環として、シラバスの作成を始めたのは、平成 5 年度のことである。

教職員には、授業に関する学生の評価や意見を取り入れるための資料とし、学生には、講義内容の理解を深められるよう配布している。さらに他大学をはじめ、学外の関係諸機関にも広く配布し、その批正を仰いでいる。

また、現代の保育に必要な内容が講義の中に反映させられるよう、学生の教育・保育実習終了後にアンケートを実施している。それとともに授業についてのアンケートも半期毎に実施し、それらの集計結果をもとに、年 2 回シラバス検討委員会を開催している。

さらに平成 22 年度より、各教科についての学習成果をシラバスに記載し、学生一人ひとりに履修カルテを作成して、各実習の事前事後指導で活用している。

平成 26 年度は、本学全体の学習の成果と各教科におけるシラバスとの関連性を図るとともに、さらに卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連性や授業前後の学生の学修向上を図る課題も盛り込みながら、よりよい保育者の育成に努めていくこととする。

今後多くの意見を取り入れ、一層わかりやすく、利用しやすいシラバスを作成し、教育の充実に努めたいと考えている。

大方のご叱正を賜りたい。

2025 年 4 月 1 日

帝京学園短期大学

学 長 沖 永 莊 八

目 次

はじめに	1
目次	2
I 履修案内	5
1. 授業科目の区分	5
2. 単位制	5
3. 卒業の要件	5
4. 科目ナンバリング（授業科目番号）	6
5. 実務経験のある教員等による授業科目及び単位数一覧	6
6. アクティブ・ラーニング	7
II 履修科目一覧	8
1. 卒業要件	8
2. 幼稚園教諭2種免許	10
3. 保育士資格	12
III 各ポリシーとの関連性	14
IV シラバス	15
教養科目	
LA101B1 英会話	Walters 17
LA102A1 体育理論	井上 20
LA103C1 体育実技	井上 22
LA103C1 体育実技	松野 24
LA103C1 体育実技	上矢 26
LA104A1 日本国憲法	星田 28
LA105A2 自然観察	関根 30
LA106B1 情報機器演習（情報リテラシー含む）	義見 32
LA107A2 児童館・放課後児童クラブの機能と運営	相河 35
LA108A2 児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法 I	河西 37
LA109A2 キャリア教育	澤田 39
LA110A2 アカデミックスキルズ	星田 41
LA111A2 山梨学	清水 43
LA112A2 日本語表現	望月 45
LA113A2 基礎音楽	田川 47

専門科目（基礎）

BO201A2	保育原理 I	清水	49
BO202A1	教育学概論	望月	51
NT203A2	子ども家庭福祉	星田	53
BO204A2	社会福祉	星田	55
NT205A2	子ども家庭支援論	吉田	57
NT206A2	社会的養護 I	星田	59
BO207A1	保育者論	望月	61
BO208A1	発達心理学 I	小野	63
NT209A2	子ども家庭支援の心理学	小野	65
BO210B1	子どもの理解と援助	小野	67
NT211A2	子どもの保健	澤田	69
NT212B2	子どもの食と栄養	澤田	71
BO213A2	保育原理 II	吉田	73
NT214A2	発達心理学 II	小野	75
BO215A2	教育の方法と技術	望月	77
BO216A2	教育相談	小野	79

専門科目（内容・方法）

BO301A1	教育課程・保育の計画と評価	清水	81
BO302B1	保育内容総論	三井	83
BO303B1	保育内容演習（環境）	吉田	85
BO304B1	保育内容演習（健康）	井上	87
BO305B1	保育内容演習（言葉）	望月	89
BO306B1	保育内容演習（人間関係）	小野	91
BO307B2	保育内容演習（表現 I）	田川	93
BO308B2	保育内容演習（表現 II）	三井	95
BO309B1	子どもと環境	吉田	97
BO310B1	子どもと健康	井上	99
BO311B1	子どもと言葉	望月	101
BO312B1	子どもと人間関係	小野	103
BO313B1	子どもと表現	田川・三井	105
NT314A2	乳児保育 I	澤田	107
NT315B2	乳児保育 II	澤田	109
NT316B2	子どもの健康と安全	澤田	111
BO317B1	特別支援教育論	清水	113

NT318B2	社会的養護Ⅱ	星田	115
NT319B2	子育て支援	吉田	117
NT320B2	美術表現	三井	119
BO321B1	保育技術研究Ⅰ	三井	121
BO321B1	保育技術研究Ⅰ	清水	124
BO321B1	保育技術研究Ⅰ	田川	127
NT322B2	保育技術研究Ⅱ	三井	130
NT322B2	保育技術研究Ⅱ	清水	133
NT322B2	保育技術研究Ⅱ	田川	136
NT323B2	基礎技能（器楽）Ⅰ	田川・関口・青木・藤巻	139
NT324B2	基礎技能（器楽）Ⅱ	田川・関口・青木・藤巻	141
NT325B2	基礎技能（器楽）Ⅲ	田川・青木・藤巻	143
NT326B2	基礎技能（器楽）Ⅳ	田川・青木・藤巻	145
OT327B2	子育て支援実践演習		147

専門科目（実習・他）

NT401D2	保育実習Ⅰ（保育所）	井上・小野他	149
NT403B2	保育実習指導Ⅰ（保育所）	井上・小野	151
NT402D2	保育実習Ⅰ（施設）	清水・星田他	153
NT404B2	保育実習指導Ⅰ（施設）	清水・星田	155
NT405D2	保育実習Ⅱ（保育所）	吉田・星田他	157
NT406B2	保育実習指導Ⅱ（保育所）	吉田・星田	159
NT407D2	保育実習Ⅲ（児童館）	三井・澤田他	161
NT408B2	保育実習指導Ⅲ（児童館）	三井・澤田	163
KT409D2	教育実習（幼稚園）	清水・井上他	165
KT410B2	教育実習指導（幼稚園）	清水・井上	167
BO411B2	保育・教職実践演習（幼稚園）	清水・井上	169

I 履修案内

1. 授業科目の区分

本学の授業科目は、以下のように区分される。

(1) 教養科目、専門教育科目等

- ① 教養科目
- ② 保健体育科目
- ③ 専門教育科目

(2) 必修科目、選択必修科目、選択科目

- ① 必修科目 必ず履修しなければならない科目
- ② 選択必修科目 指定された科目の中から、指定された単位数以上を必ず履修しなくてはならない科目
- ③ 選択科目 自由に選択して履修できる科目

2. 単位制

授業科目には単位数が定められている。

単位とは学修に要する時間を表す基準で、1単位は、大学における15時間の講義に加えて30時間の予習・復習からなる自己学習が伴った45時間の学習を行った上で、さらに当該授業科目の行うべき授業回数の3分の2以上出席し、試験その他の方法により成績評価が合格と判定されることで得られるものである。

授業科目の単位数は、1単位を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準としているが、単位を計算する上での1時間は45分とし、授業時間割上の1時限（1コマ）は2時間（90分）としている。

本学の授業科目の単位数は、授業形態により、原則として次の基準による。

- ① 講義 15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- ② 演習 15時間から30時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 実習及び実技 30時間から45時間の授業をもって1単位とする。

3. 卒業の要件

本学を卒業するためには、2年以上在学し、

- ① 教養科目（必修科目） 6単位
- ② 保健体育科目（必修科目） 2単位
- ③ 専門教育科目（必修科目） 23単位

以上の必修科目を含め62単位以上を修得しなければならない。

4. 科目ナンバリング（授業科目番号）

科目ナンバリングとは、本学で開講されているすべての授業科目に適切な番号を付し、分類をすることで、学修の段階、順序等を表し、教育課程の体系的な編成を行うための制度である。

本学の科目ナンバリングの内訳は、下記の例で示す。

例 日本国憲法（LA104A1）

内訳 LA 104 A 1
 ① ② ③ ④

①の分類

教養科目	LA
保育士養成課程科目	NT
幼稚園教諭課程科目	KT
両養成課程科目	BO
その他	OT

②の分類

教養科目	100 番台
専門科目（基礎）	200 番台
専門科目（内容・方法）	300 番台
専門科目（実習・他）	400 番台

③の分類

講義科目	A
演習科目	B
実技科目	C
実習科目	D

④の分類

必修科目	1
選択科目	2

5. 実務経験のある教員等による授業科目及び単位数一覧

科目名	単位	教員名	実務経験
自然観察	2	関根 健吾	自然体験活動総括指導者（主任講師）
児童館・放課後児童クラブの機能と運営	2	相河 竜治	児童センターセンター長（児童館館長）、放課後児童支援員
児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法I	2	河西 美代子	児童厚生員
子ども家庭福祉	2	星田 由哉	児童養護施設 職員
社会福祉	2		
社会的養護 I	2		
社会的養護 II	1		
子どもの保健	2	澤田 由美	保健師
子どもの健康と安全	1		
保育実習 I（保育所）	2	保育士	各保育所の保育士
保育実習 I（施設）	2	施設職員	各施設の職員
保育実習 II（保育所）	2	保育士	各保育園の保育士
保育実習 III（児童館）	2	児童館職員	各児童館の職員
教育実習（幼稚園）	2	幼稚園教諭	各幼稚園の幼稚園教諭
計	26		

6. アクティブ・ラーニング

本学では、下表のような授業形態をアクティブ・ラーニングと定義している。

アクティブ・ラーニングを取り入れている授業においては、下表のいずれかの項目をシラバスの「アクティブ・ラーニング」欄に記載している。内容をよく確認し、主体的・能動的な姿勢での受講を望む。

種別	説明
反転授業	動画教材により講義部分を授業外に事前学習した上で、授業内でその事前学習にもとづく演習を行う方法。
実習・フィールドワーク	実習等、学内外のフィールドに赴き、調査や観察、具体的な参加を通して情報収集・実践学習を行う方法。
グループワーク	学生を少人数のグループに分け、与えられた課題に共同で取り組む方法。2人組によるペアワークも含む。
ディスカッション・ディベート	授業中に特定のテーマについて対話を通して理解を深める方法。特定のテーマについて、異なる立場に分かれて議論を行う方式も含む。
プレゼンテーション	学生がパワーポイント等を用いて発表資料を作成し、他の学生の前で自ら発表を行う方法。
PBL（発見学習・問題解決学習）	テーマに沿ったプロジェクト又は特定の問題を提示し、それらの問題解決を通して、様々な知識・スキルを学ぶ方法。
模擬授業・保育技術発表	教員養成科目等において、自ら授業計画を立て、他の学生の前等で実際に授業の練習を行う方法。また、自ら作成した保育教材や作品を他の学生の前で実際に演じる等の発表をする方法。
その他	調査学習、双方向アンケート、ロールプレイ等

Ⅱ 履修科目一覧

1. 卒業要件

科目区分	教科科目	授業形態	開設単位数		履修	単位取得
			必修	選択		
教養科目	日本国憲法	講義	2			
	自然観察	講義実習		2		
	情報機器演習（情報リテラシー含む）	演習	2			
	英会話	演習	2			
	キャリア教育	講義		1		
	アカデミックスキルズ	講義		1		
	山梨学	講義		1		
	日本語表現	講義		2		
	基礎音楽	講義		2		
	児童館・放課後児童クラブの機能と運営	講義		2		
	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	講義		2		
保健体育科目	体育理論	講義	1			
	体育実技	実技	1			
小 計			8	13		
専門教育科目	教育学概論	講義	2			
	保育原理Ⅰ	講義		2		
	保育原理Ⅱ	講義		2		
	社会的養護Ⅰ	講義		2		
	社会的養護Ⅱ	演習		1		
	子ども家庭福祉	講義		2		
	特別支援教育論	演習	2			
	社会福祉	講義		2		
	子ども家庭支援論	講義		2		
	保育内容総論	演習	1			
	保育内容演習（健康）	演習	1			
	保育内容演習（人間関係）	演習	1			
	保育内容演習（環境）	演習	1			
	保育内容演習（言葉）	演習	1			
	保育内容演習（表現Ⅰ）	演習		1		
	保育内容演習（表現Ⅱ）	演習		1		
	子どもと健康	演習	1			
	子どもと人間関係	演習	1			
	子どもと環境	演習	1			
	子どもと言葉	演習	1			
	子どもと表現	演習	1			
	保育技術研究Ⅰ	演習	2			
	保育技術研究Ⅱ	演習		2		
美術表現	演習		1			

乳児保育Ⅰ	講義		2		
乳児保育Ⅱ	演習		1		
子どもの理解と援助	演習	1			
発達心理学Ⅰ	講義	2			
発達心理学Ⅱ	講義		1		
子ども家庭支援の心理学	講義		2		
子どもの食と栄養	演習		2		
子どもの保健	講義		2		
子どもの健康と安全	演習		1		
教育の方法と技術	講義		2		
教育課程・保育の計画と評価	講義	2			
保育者論	講義	2			
教育相談	講義		2		
子育て支援	演習		1		
教育実習指導（幼稚園）	演習		1		
教育実習（幼稚園）	実習		4		
保育・教職実践演習（幼稚園）	演習		2		
保育実習Ⅰ（保育所）	実習		2		
保育実習Ⅰ（施設）	実習		2		
保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2		
保育実習Ⅲ（児童館）	実習		2		
保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習		1		
保育実習指導Ⅰ（施設）	演習		1		
保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1		
保育実習指導Ⅲ（児童館）	演習		1		
子育て支援実践演習	演習		1		
基礎技能（器楽）Ⅰ	演習		1		
基礎技能（器楽）Ⅱ	演習		1		
基礎技能（器楽）Ⅲ	演習		1		
基礎技能（器楽）Ⅳ	演習		1		
専門教育科目小計			23	58	
合 計			31	71	

2. 幼稚園教諭2種免許

教育職員免許法施行規則		教科科目	授業形態	開設単位数		卒業必修	履修	単位取得
				必修	選択			
第66条の6に定める科目	日本国憲法	日本国憲法	講義	2		●		
	情報機器の操作	情報機器演習（情報リテラシー含む）	演習	2		●		
	外国語コミュニケーション	英会話	演習	2		●		
	体育	体育理論	講義	1		●		
体育実技		実技	1		●			
小計				8				
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	子どもと健康	演習	1		●	
		人間関係	子どもと人間関係	演習	1		●	
		環境	子どもと環境	演習	1		●	
		言葉	子どもと言葉	演習	1		●	
		表現	子どもと表現	演習	1		●	
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）	保育内容演習（健康）	演習	1		●		
		保育内容演習（人間関係）	演習	1		●		
		保育内容演習（環境）	演習	1		●		
		保育内容演習（言葉）	演習	1		●		
		保育内容演習（表現Ⅰ）	演習	1				
	保育内容演習（表現Ⅱ）	演習	1					
	保育内容総論	演習	1		●			
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	講義	2		●		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）							
	教職の意義及び教員の役割、職務内容（チーム学校への対応を含む。）	保育者論	講義	2		●		
	幼児・児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	発達心理学Ⅰ	講義	2		●		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育論	演習	2		●		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程・保育の計画と評価	講義	2		●		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）	教育の方法と技術	講義	2				
	幼児理解の理論及び方法	子どもの理解と援助	演習	1		●		
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	講義	2				
教育実践に関する科目	教育実習（学校インターンシップ（学校体験活動）を2単位まで含むことができる。）（5単位）	教育実習指導（幼稚園）	演習	1				
		教育実習（幼稚園）	実習	4				
	教職実践演習（2単位）	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2				
大学が独自に設定する科目	大学が独自に設定する科目	保育原理Ⅰ	講義		2			
		保育原理Ⅱ	講義		2			

		社会福祉	講義		2			
		保育技術研究 I	演習	2		●		
	小	計		36	6			
	合	計		44	6			

3. 保育士資格

保育士養成課程による系列		教科科目	授業形態	開設単位数			卒業必修	履修	単位取得
				必修	選択必修	選択			
教養科目	外国語、体育以外の科目	日本国憲法	講義		2		●		
		自然観察	講義実習		2				
		情報機器演習（情報リテラシー含む）	演習		2		●		
		キャリア教育	講義				1		
		アカデミックスキルズ	講義				1		
		山梨学	講義				1		
		児童館・放課後児童クラブの機能と運営	講義				2		
		児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法Ⅰ	講義				2		
		日本語表現	講義				2		
		基礎音楽	講義				2		
	外国語	英会話	演習		2		●		
	体育	体育理論	講義	1			●		
		体育実技	実技	1			●		
小 計				2	8	11			
保育の本質・目的に関する科目	保育原理Ⅰ	講義	2						
	教育学概論	講義	2			●			
	子ども家庭福祉	講義	2						
	社会福祉	講義	2						
	子ども家庭支援論	講義	2						
	社会的養護Ⅰ	講義	2						
	保育者論	講義	2			●			
	保育原理Ⅱ	講義		2		※1			
保育の対象の理解に関する科目	発達心理学Ⅰ	講義	2			●			
	子ども家庭支援の心理学	講義	2						
	子どもの理解と援助	演習	1			●			
	子どもの保健	講義	2						
	子どもの食と栄養	演習	2						
	発達心理学Ⅱ	講義		1		※1			
保育の内容・方法に関する科目	教育課程・保育の計画と評価	講義	2			●			
	保育内容総論	演習	1			●			
	保育内容演習（健康）	演習	1			●			
	保育内容演習（人間関係）	演習	1			●			
	保育内容演習（環境）	演習	1			●			
	保育内容演習（言葉）	演習	1			●			

	保育内容演習（表現Ⅰ）	演習		1		※4		
	保育内容演習（表現Ⅱ）	演習		1		※4		
	子どもと健康	演習	1			●		
	子どもと人間関係	演習	1			●		
	子どもと環境	演習	1			●		
	子どもと言葉	演習	1			●		
	子どもと表現	演習	1			●		
	乳児保育Ⅰ	講義	2					
	乳児保育Ⅱ	演習	1					
	子どもの健康と安全	演習	1					
	特別支援教育論	演習	2			●		
	社会的養護Ⅱ	演習	1					
	子育て支援	演習	1					
	美術表現	演習		1		※1		
	保育技術研究Ⅰ	演習		2		●※1		
	保育技術研究Ⅱ	演習		2		※1		
	基礎技能（器楽）Ⅰ	演習		1		※1		
	基礎技能（器楽）Ⅱ	演習		1		※1		
	基礎技能（器楽）Ⅲ	演習		1		※1		
	基礎技能（器楽）Ⅳ	演習		1		※1		
	教育の方法と技術	講義		2		※1		
	教育相談	講義		2		※1		
保育実習	保育実習Ⅰ（保育所）	実習	2					
	保育実習Ⅰ（施設）	実習	2					
	保育実習指導Ⅰ（保育所）	演習	1					
	保育実習指導Ⅰ（施設）	演習	1					
	保育実習Ⅱ（保育所）	実習		2		※2		
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	演習		1		※2		
	保育実習Ⅲ（児童館）	実習		2		※3		
	保育実習指導Ⅲ（児童館）	演習		1		※3		
総合演習	保育・教職実践演習（幼稚園）	演習	2					
保育士資格取得科目ではないが、学校独自の科目として開設されている教科目	教育実習指導（幼稚園）	演習			1			
	教育実習（幼稚園）	実習			4			
	子育て支援実践演習	演習			1			
専門教育科目小計			51	24	6			
合 計			53	32	17			

1. 教養科目の必修科目 2 単位と選択必修科目から 6 単位以上、計 8 単位以上取得のこと。
2. ※1 の選択必修科目から 6 単位以上取得のこと。
3. ※2 又は※3 のどちらか一方の科目を 3 単位取得のこと。
4. ※4 のどちらか一方の科目を 1 単位取得のこと。

Ⅲ 各ポリシーとの関連性

帝京学園短期大学 各ポリシーとの関連性：建学の精神と三つの教育方針、履修カルテ・ポートフォリオ

「学士課程教育の構築に向けて」 (審議のまとめ)	建学の精神 (教育目標/キーワード)	卒業認定・学位授与の方針	教育課程編成、実施の方針	入学者受け入れの方針	ルーブリック評価、カルテ・ポートフォリオ (学習成果の観点)
<p>1. 知識・技能・理解 専攻する特定の学問分野における基本的な知識を体系的に理解するとともに、その知識体系の意味と自己の存在を歴史・社会・自然と関連づけて理解する。 (1)多文化・異文化に関する知識の理解 (2)人類の文化、社会と自然に関する知識の理解</p>	<p>幅広い知識を身につけ、国際的視野に立って判断ができ【(1)責任ある社会人として必要な教養と広い視野を身につけ、社会の変化に対応する人材を育成、(2)幼児教育に関する専門的知識、技能を自ら積極的に修得し、豊かな表現ができる人材を育成】</p>	<p>(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を積極的に身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立て、創造性溢れる発表ができること</p>	<p>(2)〈幼児教育に関する専門的知識、技能の修得〉少人数教育による専門科目の履修と個人の習熟度に応じた保育技能の向上を図る教育課程であること(ルーブリック評価の活用)</p>	<p>(1)保育の分野に関心のあるもの</p>	<p>1.知識 教養教育 幼児教育・保育について子ども・利用者についての理解</p>
<p>2. 汎用的技能 知的活動でも職業生活や社会生活でも必要な技能 (1)コミュニケーション・スキル (2)数量的スキル (3)情報リテラシー (4)論理的思考力 (5)問題解決力</p>	<p>実学を通して創造力および人間味豊かな専門性のある人材の養成を目的とする 【(1)責任ある社会人として必要な教養と広い視野を身につけ、社会の変化に対応する人材、(2)幼児教育に関する専門的知識、技能を自ら積極的に修得】</p>	<p>(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること</p>	<p>(1)〈社会人として必要な教養と広い視野の育成〉豊かな自然環境を活かし、社会人基礎力(ジェネリック・スキル)を修得できる教育課程であること</p>	<p>(2)保育の専門職として必要な知識や技能を学ぼうとするもの</p>	<p>1.技能 保育・教育の指導に関する基礎的な知識</p>
<p>3. 態度・志向性 (1)自己管理能力 (2)チームワーク、リーダーシップ (3)倫理性 (4)市民としての社会的責任 (5)生涯学習力</p>	<p>努力をすべての基とし、偏見を排し 【(1)責任ある社会人、(3)他者に配慮、(2)自ら積極的に、(3)協働して地域社会に貢献できる人材を育成】</p>			<p>(3)向上心のある者</p>	<p>2.ジェネリック・スキル 態度・社会人基礎力</p>
<p>4. 統合的な学習経験と創造的思考力 これまでに獲得した知識・技能・態度等を総合的に活用し、自らが立てた新たな課題にそれらを適用し、その課題を解決する能力</p>	<p>実学を通して創造力および人間味豊かな専門性のある人材の養成を目的とする 【(3)持続可能な社会に向け、(3)地域社会に貢献できる、(2)豊かな表現、(1)社会の変化に対応する人材】</p>	<p>(3)保育の課題を積極的に協働して解決していること。学んだことを工夫して組み合わせ、創造性溢れる発表ができること</p>	<p>(3)〈地域社会に貢献できる人材の育成〉地域の乳幼児や保護者と交流を深め、体験(ボランティア活動など)から学べる教育課程であること</p>		<p>3.実践力 課題探求、実習、ボランティア活動</p>

IV シラバス

科目名	英会話				担当教員	Walters Devin	
科目番号	LA101B1	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	通年
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	保育者として就労した際に想定される、園生活における日常的な英会話の習得を目指す。						
概要	生活会話の宝庫である保育園の生活、なかでも年間行事と子どもの遊びに焦点をあて、保育の現場にも確実に押し寄せてきている国際化の波を実践的に理解させる。またナーサリータイムを中心とした英語の手遊びを数多く紹介し、日本のわらべ歌との相違を比較検討する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者としてマスターしておきたい基礎的な英会話の習得 ・異文化への理解 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 30% (3)態度 10% (4)実践力 10%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)ディスカッション (2)プレゼンテーション						
評価方法	(1)授業内課題 40% (2)授業への取り組み 20% (3)定期試験 40%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	赤松直子・久富陽子『保育の英会話』萌文書林						
参考図書	百々祐利子監修・訳『マザーグースとあそぶ本』ラボ教育センター						
学生へのメッセージ	授業内で、英語圏の子どもたちの手遊びやわらべ歌、行事等を紹介します。高校時代に英語が好きだった学生もそうでなかった学生も、英語にさらに興味を持ってもらえるような授業を心がけます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	自己紹介とイスター
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
2	予習	工作の道具を用意します。
	内容	保育の英会話への第一歩 簡単な質問と答え・保育園で働く人々
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
3	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	みなと保育園によろこそ① 外国人の子どもの入園・あいさつ
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
4	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	みなと保育園によろこそ② デイヴィーの家族紹介・保育室
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
5	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	子どもに人気の英語のうたとゲーム①
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
6	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	子どもに人気の英語のうたとゲーム②
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
7	予習	外側げ着る服
	内容	子どもに人気の英語のうたとゲーム③
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
8	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	地図と道案内 道順・案内
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
9	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	クラスメイトとの出会い① 紹介・子どもの遊び
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
10	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	クラスメイトとの出会い② 園庭の遊具
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
11	予習	工作の道具を用意します。
	内容	子どもと文化
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
12	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	形容詞と気分
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
13	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	英語の表現のポスター①
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
14	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	英語の表現のポスター②
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
15	予習	工作の道具を用意します。
	内容	英語の表現のポスター③
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。

回	授業概要	
16	予習	工作の道具を用意します。
	内容	ハロウィン
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
17	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	排泄に関する会話① 排泄
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
18	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	排泄に関する会話② 連絡帳・英文でのコミュニケーション
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
19	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	英語を学びながら調理(実習)
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
20	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	けんか けんか・文房具・体の部位・命令文
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
21	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	けがと病気 けがと病気・症状・医療機関・応急処置
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
22	予習	工作の道具を用意します。
	内容	クリスマス
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
23	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	電話での対応① 電話での対応・園行事への招待
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
24	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	電話での対応② メッセージを書く・リスニング
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
25	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	遠足① 遠足・交通機関
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
26	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	遠足② IF構文・園からのお知らせ
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
27	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	赤ちゃんのケア① 赤ちゃんへの言葉かけ・育児用品
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
28	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	赤ちゃんのケア② 赤ちゃんの成長・発達
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
29	予習	分からない単語と文法を探して理解してみます。
	内容	卒園① 卒園・祝福
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。
30	予習	発表を用意します
	内容	卒園② 感謝・記念日まとめ 活動発表
	復習	各毎回、授業の復習を行うこと。

科目名	体育理論				担当教員	井上 聖子	
科目番号	LA102A1	科目区分	教養科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	運動発現にかかわる生理学的な知識を把握してもらうことを目的とする。またそのことにより、自己の健康・体力に関心を持ち、日頃から身体活動量を増やす心がけや運動に親しむ姿勢、能力を育てることも目的とする。						
概要	運動不足が心身の健康に弊害をもたらし、生活習慣病の一つの要因になっていることは、周知の通りである。そのため人々は、運動への関心を高めており、教育現場でも生涯体育が重要視されている。本講義では、生体が運動によって受ける機能的、形態的な影響、トレーニング効果、身体活動について、生理学的な観点から学び、自己の健康・体力に対する認識を深めてもらうよう講義を進めていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能の素晴らしさを認識する ・自己の健康に関心を持つ ・日頃から身体活動を行おうという意識を持つ 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 50% (2)技能 10% (3)態度 30% (4)実践力 10%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)実習・フィールドワーク (2)グループワーク						
評価方法	(1)課題レポート 20% (2)定期試験 80%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	配布資料をもとに授業を進めていく。						
参考図書	石川利寛『健康・体力のための運動生理学』杏林書院						
学生への メッセージ	生理学的なことを学びますが、難しい内容ではありませんので、自己の健康・体力についての認識を深めて下さい。 授業で配布するプリントを中心に講義を進めていきます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	からだの構造とはたらき (1)からだの構成 (2)からだの構造とはたらき
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること
2	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	運動と筋の生理① (1)筋の種類と構造 (2)骨格筋の分類と構造
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること
3	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	運動と筋の生理② (3)筋収縮の機構とエネルギー
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること
4	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	運動と筋の生理③ (4)骨格筋の損傷と適応 (5)ウォーミングアップとクールダウン
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること
5	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	運動と神経 (1)神経とは (2)運動と中枢神経 (3)運動と末梢神経
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること
6	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	運動と循環の生理① (1)運動と心拍数 (2)運動と心拍出量
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること
7	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	運動と循環の生理② (3)トレーニングと呼吸循環機能 (4)運動と血圧
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること
8	予習	事前に資料を配布するので、その単元について調べてくること
	内容	運動と健康
	復習	授業内容をまとめ、理解した点、理解できなかった点を明らかにし、学びを深めること

科目名	体育実技				担当教員	井上 聖子	
科目番号	LA103C1	科目区分	保健体育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	実技	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	ニュースポーツを中心に色々な運動種目のルールを理解し、ゲームが実施できるようにする。また、生活の中に定期的に運動を取り入れることにより、体力の向上を図ることを目的とする。						
概要	ニュースポーツであるフリーテニスの特性を知り、技術力の向上を図る。またさまざまな運動をすることにより、身体を動かすことの楽しさを体感し、生涯にわたり計画的に運動に親しむ姿勢や態度を育てる。それらとともに健康の保持増進と体力の向上を図り、豊かな生活を営める態度をも育てる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動することの楽しさを知り、生涯体育につなげていく ・運動することを通じて、活動への意欲を高める ・運動することを通じて、他者と協力することの大切さを学ぶ 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 10% (2)技能 20% (3)態度 30% (4)実践力 40%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)実技 30% (2)学習意欲 70%						
課題へのフィードバック方法	毎回の授業内で、課題解決のための指導を行う。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	特になし						
学生へのメッセージ	ニュースポーツを中心に色々な運動種目の楽しさを体感します。運動のできる服装を用意して下さい。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(1)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
2	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(2)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
3	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(3)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
4	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(4)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
5	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(5)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
6	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(6)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
7	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(7)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
8	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	フリーテニス(8)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
9	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	ドッジボール(1)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
10	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	ドッジボール(2)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
11	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	ソフトバレーボール(1)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
12	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	ソフトバレーボール(2)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
13	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	ソフトバレーボール(3)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
14	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	ソフトバレーボール(4)
	復習	授業内での反省をもとに、次の課題を決めてくること
15	予習	ルールの理解とそれぞれの技術について事前に調べてくること
	内容	ソフトバレーボール(5)
	復習	

科目名	体育実技				担当教員	松野 直也	
科目番号	LA103C1	科目区分	保健体育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	実技	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	生活の中に定期的に運動を取り入れることにより、健康の維持並びに体力の向上を図ることを目的とする。また、身体を動かすことの楽しさを体感し、生涯にわたり運動に親しむ姿勢や態度を育てる。						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムトレーニングを通して、音楽のリズムに乗り、身体を動かしてみよう ・ストレッチ・アイソレーションを通して、ケガの予防、ダンスでの身体の使い方を身に付けよう ・ルーティン(振付)を踊る事で、達成感を味わう事を知りましょう 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動することの楽しさを知り、生涯体育につなげていく ・運動することを通じて、活動への意欲を高める ・運動することを通じて、他者と協力することの大切さを学ぶ 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 10% (2)技能 10% (3)態度 40% (4)実践力 40%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	実施しない						
評価方法	(1)実技 30% (2)学習意欲 70%						
課題へのフィードバック方法	毎回の授業内で、課題解決のための指導を行う。						
使用テキスト・参考図書	特になし						
持ち物・服装	飲み物(お茶か水など)、フェイスタオルか手ぬぐい、動きやすく裸足になれる服装						
学生へのメッセージ	人には個々の能力がそれぞれ異なります。ダンスが踊れても踊れなくてもどちらでも構いません。一生懸命取り組み、楽しく踊る事が出来れば良いじゃないですか。楽しい時間にしていきましょう。						

科目名	体育実技				担当教員	上矢 なぎさ	
科目番号	LA103C1	科目区分	保健体育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	実技	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	生活の中に定期的に運動を取り入れることにより、健康の維持並びに体力の向上を図ることを目的とする。また、身体を動かすことの楽しさを体感し、生涯にわたり運動に親しむ姿勢や態度を育てる。						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・アーサナ(ヨガポーズ)の実技を通して、体の使い方、緊張弛緩のバランス、ケガの予防法を学習する ・プラナーヤーマ(呼吸法)の実践によって、感情のコントロール法、ストレスケア法を身につける ・プラティヤハারা(意識化)を取り入れることで、勉学や日常生活での平常心や集中力、持続力を図る 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・運動することの楽しさを知り、生涯体育につなげていく ・運動することを通じて、活動への意欲を高める ・運動することを通じて、他者と協力することの大切さを学ぶ 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 25% (2)技能 10% (3)態度 40% (4)実践力 25%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	実施しない						
評価方法	(1)実技 30% (2)学習意欲 70%						
課題へのフィードバック方法	毎回の授業内で、課題解決のための指導を行う。						
使用テキスト・参考図書	特になし						
持ち物・服装	飲み物(お茶か水など)、フェイスタオルか手ぬぐい、ヨガマット、ブランケット(必要な人)、動きやすく裸足になれる服装						
学生へのメッセージ	ヨガは、ストレス過多な現代を生きる人にとって必須ともいえる健康的なリラグゼーション法です。体が硬い人も安心して楽しめる授業内容です。社会人になってからも自宅で続けられる様に身につけてみましょう。伝統的なヨガとともに、予防医学の目線からのヨガのお話もしていきます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	オリエンテーション(授業内容の進め方について、ヨガの概要説明) 時間があったら簡単なヨガ
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
2	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:土台の力を身につける
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
3	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:軸の感覚を養う
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
4	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:体の中に空間を作る
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
5	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:自律神経を整える
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
6	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:体と心のつながり
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
7	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:痛みをケアする
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
8	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:感情をコントロールする
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
9	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:自信がないときは
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
10	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:自分や相手に寄り添う
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
11	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:ヨガで有名な「太陽礼拝」をしてみよう
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
12	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:人生の目標を感じる
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
13	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:体を温める方法
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
14	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:心を穏やかに保つ
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する
15	予習	授業の前にその日の体調や心の様子を観察しておく
	内容	ヨガ実技(アーサナ、プラーナーヤーマ、プラティヤハール) テーマ:ヨガの瞑想をしてみましよう
	復習	授業で行ったポーズや呼吸法など気に入ったものを自宅で実践してみる。どんな変化があったのが記録する

科目名	日本国憲法				担当教員	星田 由哉	
科目番号	LA104A1	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	日本という国の基本である憲法を学びながら、国のしくみを理解する。 憲法で保障される人権について理解する。 現代社会の諸問題を個人的立場ではなく、社会という大きな枠組みの中で理解する力を育てる。						
概要	日本の国のあり方を定めた「日本国憲法」について、その基本的な考え方を学びながら、日本の社会、歴史と文化について理解を深める。特に基本的人権について、時間をかけて学んでいく。 なお、学生の関心や問題意識等に応じて、授業構成・内容を柔軟に変更することがある。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・憲法の成立やその特徴と基本原理について理解し、説明できる。 ・人権について、その分類や内容について理解し、説明できる。 ・統治機構について、その構成やしくみについて理解し、説明できる。 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 35% (2)課題 26% (3)授業参加度 39%						
課題へのフィードバック方法	定期試験・レポートについて、実施後解説を行う。						
使用テキスト	高乗正臣『保育者のための法学・憲法入門(第2版)』成文堂 授業で配布する日本国憲法の全文						
参考図書	斎藤一久・城野一憲編著『アクティベート教育学⑮ 教職のための憲法』ミネルヴァ書房 上田健介・尾形健・片桐直人著『憲法判例50! (第3版)』有斐閣 高等学校で使用していた公共(現代社会)や政治・経済の教科書						
学生へのメッセージ	この科目は、教育職員免許法施行規則66条の6に定める科目、および、教養科目の一つです。生活の中でのあらゆる行為はさまざまな法と関連しています。言い換えれば、身の回りの物事は法と隣り合わせと言えます。そして、法や政治までも含めて、この国のすべての基本となっているものが憲法です。授業での学びを通じて、私たちのもつ権利や義務、社会のしくみについて、一緒に考えていきましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	イントロダクション 【憲法総論①】憲法とは何か
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
2	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【憲法総論②】憲法の成立・特徴と基本原理 象徴天皇制
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
3	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【憲法総論③】平和主義 幼児教育・保育関連法
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
4	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【人権概論①】人権とは何か
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
5	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【人権概論②】幸福追求権
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
6	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【人権概論③】法の下での平等
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
7	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【精神的自由①】思想・良心の自由 信教の自由
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
8	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【精神的自由②】表現の自由 学問の自由
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
9	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【経済的自由】職業選択の自由 財産権の保障
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
10	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会権①】生存権 勤労の権利
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
11	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会権②】教育を受ける権利と義務
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
12	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【統治機構①】三権分立 国会のしくみ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
13	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【統治機構②】参政権 内閣のしくみ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
14	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【統治機構③】司法権 裁判所のしくみ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
15	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【統治機構④】地方自治の本旨 地方公共団体 まとめ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する

科目名	自然観察				担当教員	関根 健吾	
科目番号	LA105A2	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義・実習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	自然観察の方法や自然遊びの指導等を実践的に学びながら、自然や生物への関心を高めるとともに、子どもへの自然体験を促進できる保育者として、その心構えや伝え方の手法について理解を深める。						
概要	子どもは自然と親しみ、生物と関わる経験を通して、感性を豊かにし、好奇心や探究心を養っていきます。幼児期における自然体験を促進するためにも、保育者自身が自然に関心を持ち、子どもと自然との橋渡し役になることが求められます。この授業では、野外での実習も取り入れながら、基本的な自然観察の方法や自然遊びの楽しみ方を実践的に学び、自然や生物への知識を広げ、関心を高めるとともに、園庭や園外の公園等での活動を想定した、子どもへの自然の伝え方や安全対策について理解を深めます。(本授業の担当教員は環境教育を専門とする団体に所属し、幼児への環境教育や指導者養成の経験が豊富です。実務を通して得た具体的な視点や技術を、授業に取り入れていきます。)						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの自然体験の重要性を理解する 2. 子どもが楽しめる自然遊びができるようになる 3. 安全に自然観察や自然遊びを行うための方法を身につける 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 30% (3)態度 30% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)実習						
評価方法	(1)授業への取り組み 60% (2)定期試験 40%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	高橋京子『決定版！12か月の自然あそび87』新星出版社 観音崎自然博物館『親子で観察する身近な生きもの図鑑』ナツメ社 大豆生田啓友・出原大・小西貴士『あそびが学びとなる子ども主体の保育実践 こどもと自然』学研						
学生へのメッセージ	野外実習があります。キャンパス周辺の公園など実際に外に出て行きます。動きやすい服装・歩きやすい靴で出席してください。講義や実習は、グループワークを中心に進めます。学生同士で積極的にコミュニケーションを図って、授業に取り組んでください。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	オリエンテーション 授業の目的への理解
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
2	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児期の自然体験
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
3	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	野外実習①
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
4	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	野外実習①
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
5	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	野外実習のふりかえり
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
6	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	自然遊びの指導
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
7	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	NEALリーダー(自然体験活動指導者)とは
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
8	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	自然と造形①
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
9	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	野外実習②
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
10	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	野外実習②
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
11	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	自然遊びにおける安全対策
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
12	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	自然と造形②
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
13	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における自然遊び①
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
14	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における自然遊び②
	復習	配布資料を読み返す、ノートに書く等で、知識の定着を図る
15	予習	予め参考図書等を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	まとめ 子どもと自然をつなぐ保育
	復習	配布資料やノートを読み返す等で、知識の定着を図る

科目名	情報機器演習(情報リテラシー含む)				担当教員	義見 善知	
科目番号	LA106B1	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	通年
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	情報社会において、インターネット利用に関する正しい知識及びマナーの理解、表現メディアの編集と表現に関する知識と技術を習得させ、実際に活用する能力と態度を育てると同時にディプロマポリシーに対応する演習をめざす。						
概要	情報社会において必要とされているコンピュータ利用スキル並びに情報倫理に関する講義を行う。そして、大学内外で必須となる情報処理に関する実践的能力を習得するために、具体的な課題を解決する演習を行う。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・インターネットの正しい利用を理解する(法規・セキュリティ) ・園だより・園案内・児童台帳・ホームページの作成 ・PCの基礎知識・幼児教育現場での活用例の習得 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 20% (3)態度 10% (4)実践力 10%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)ディスカッション (2)プレゼンテーション						
評価方法	(1)定期試験 10% (2)各検定 10% (3)授業態度 10% (4)課題レポート 70%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	阿部正平・阿部和子・二宮祐子『保育者のためのパソコン講座』萌文書林 日本情報処理検定協会問題集 ※授業ごとテキストプリントを配布します						
参考図書	広田正康『Adobe Photoshop 基礎テキスト ACA PhotoshopCS6』ソーテック社 広田正康『Illustratorトレーニングブック』ソーテック社 佐々木京子『IllustratorCS6の本』技術評論社						
学生へのメッセージ	課題制作に対する取り組み、および授業への積極的参加度等をふまえて総合的に判断し評価する。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	受講の説明、PCの基本操作、注意説明
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
2	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	通信文Ⅰ 通信文の書式を学ぶ。文章の位置関係
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
3	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	通信文Ⅱ 通信文の作成 表の挿入、受信者と発信者
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
4	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	通信文Ⅲ 通信文の作成 図形挿入による地図の作成方法
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
5	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	通信文Ⅳ 通信文の応用 線による地図の作成方法、方位記号の作成方法
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
6	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	課題演習 通信文検定 保育園・幼稚園の事例を挙げ時間内に作成
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
7	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	文章デザインⅠ 文章デザインの基礎を学ぶ フォント、サイズ、フォントデザイン、表の挿入
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
8	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	文章デザインⅡ 文章デザインの作成 文字の加工、図形の加工、表の加工、画像の挿入
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
9	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	文章デザインⅢ 文章デザインの応用 レイアウトの加工、特殊文字、ドロップキャップ
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
10	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	課題演習 文書デザイン検定 レイアウト課題を与え時間内に作成
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
11	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	文章デザイン課題制作 「画家ポール・セザンヌについての考察」
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
12	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	画像処理Ⅰ 画像処理の基礎を学ぶ。(Photoshop) ペイント系ブラシによる修復方法
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
13	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	画像処理Ⅱ 画像処理の基礎を学ぶ。(Photoshop) ピクセル(画素)単位の修復方法
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
14	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	画像処理Ⅲ レイヤーの操作方法(Photoshop) レイヤースタイルの適用、画像の合成
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
15	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	画像処理Ⅳ フィルターの操作方法(Photoshop) Creative Cloudの進化の軌跡とトップクリエイターの活用
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること

回	授業概要	
16	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	画像処理Ⅴ アンディウォーホルの世界 課題制作 シルクスクリーン技法での作品を制作(Photoshop)
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
17	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	図形描写Ⅰ 図形処理の基礎を学ぶ。ベクター形式の図形操作(Illustratorオペレーション基礎)
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
18	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	図形描写Ⅱ 図形のハンドリング ベジェ曲線の特性(Illustrator)
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
19	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	図形描写Ⅲ 文字・図形・画像の統合処理(アプリケーションの連携)
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
20	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	課題制作 園だよりの作成Ⅰ マイホルダー画像の編集
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
21	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	課題制作 園だよりの作成Ⅱ 文字・イラスト・地図の編集
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
22	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	課題制作 園だよりの作成Ⅲ 最終仕上げ、校正、印刷
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
23	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	プレゼンテーションⅠ 園案内の作成 発表内容の設計と制作
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
24	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	プレゼンテーションⅡ 園案内の作成 資料の制作
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
25	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	表計算ソフトⅠ 児童台帳の作成 セルの設定 入力規制
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
26	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	表計算ソフトⅡ 児童台帳の作成 並び替え カウント系関数の利用 身体測定データの分析
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
27	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	ホームページ作成Ⅰ CSSを利用した編集
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
28	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	マルチメディアの編集とwebへの活用方法
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
29	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	法規とセキュリティ 情報の管理・保護に関する法律
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること
30	予習	毎回の授業前に前回作業した演習内容を再度理解しておくこと
	内容	まとめ 幼児教育におけるPCの運用 その他 年間既習事項の復習と確認
	復習	授業で学習したテーマを復習して、技術や技能を確実に習得すること

科目名	児童館・放課後児童クラブの機能と運営			担当教員	相河 竜治		
科目番号	LA107A2	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択		
目的	<p>児童福祉の基本理念である「健全育成」の考え方を理解するとともに、現代の子どもの健全育成の課題について学ぶ。 また、その理念を地域で具現する児童館・放課後児童クラブの機能を理解する。</p>						
概要	<p>児童館・放課後児童クラブとはどのような施設であり、どのような理念に基づいて運営されているかを学ぶ。その中で、現状における両施設の動向について概観する。(本講義は、児童センター センター長(児童館館長)と放課後児童支援員の実務活動を基に、児童館の活動内容の実践例などを豊富に紹介し、児童厚生員としての知識を深められるよう授業を展開していく。)</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館について理解する ・放課後児童クラブについて理解する ・児童の健全育成について理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 10% (3)態度 30% (4)実践力 30%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション (3)プレゼンテーション (4)PBL						
評価方法	(1)授業内提出物など 50% (2)定期試験 50%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。定期試験についても添削のうえ返却する。						
使用テキスト	授業時に印刷物として配布する。						
参考図書	児童健全育成推進財団『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』児童健全育成推進財団						
学生へのメッセージ	分からない箇所は、授業内配布物の該当部分を熟読することや、授業担当者に質問することで復習し、学期末に備えてください。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	オリエンテーション(講義内容、評価方法の説明)、児童館の工作について
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
2	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童福祉法の理念と健全育成
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
3	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	健全育成の具体的内容と遊びの健全育成上の意味
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
4	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童館・放課後児童クラブの変遷
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
5	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童館・放課後児童クラブの概要と特性
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
6	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能①
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
7	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童館ガイドラインの内容と児童館に求められる機能②
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
8	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	放課後児童クラブの「基準」「運営指針」「認定資格研修」
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
9	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	運営管理(法令遵守、子どもの権利擁護、要望苦情への対応)
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
10	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	安全対策(安全管理・危機管理、防災・防犯、事故防止活動)
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
11	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童館・放課後児童クラブの環境構成
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
12	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童館・放課後児童クラブにおける障害児支援
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
13	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童厚生員・放課後児童指導員の職場倫理
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
14	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	児童館・放課後児童クラブの課題と展望
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
15	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	まとめ
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する

科目名	児童館・放課後児童クラブの活動内容と指導法 I			担当教員	河西 美代子		
科目番号	LA108A2	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択		
目的	「あそび」を通じて少子化対策の推進、いじめ、児童虐待、不登校、青少年犯罪など、多様化し複雑化する児童問題へ対応する児童館の役割について理解を深める。						
概要	児童館の機能と役割を学習し、児童館における児童健全育成活動の手法を学ぶなかで、児童館における児童健全育成活動の初歩的な手法と運営について包括的に学んでいく。(本講義は、児童厚生員の実務家活動を基に行われる。)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童館の持つ機能と役割の基本を理解する ・健全育成の手段としてのあそびを理解する ・あそびを実践し、その効果を分析する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 10% (3)態度 10% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)授業内課題 50% (2)学習マナー 20% (3)試験 30%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	毎回、授業時にプリントを配布する予定。						
参考図書	児童健全育成推進財団『児童館 理論と実践』全国児童館連合会 児童健全育成推進財団『発達障害のある子どもたちの受け入れのために』全国児童館連合会 児童健全育成推進財団『児童館・放課後児童クラブのための安全対策ハンドブック』全国児童館連合会						
学生へのメッセージ	児童館についてを知識として知るとともに、「健全育成としてのあそび」は、実際に体験する中で実感・理解することが大切です。そのため、授業中に紹介する「あそび」について積極的に参加する姿勢を求めます。野外も想定した「活動しやすい服装・靴」で受講してください。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童福祉法に定められた児童福祉施設としての児童館の役割 課題:「児童館」のイメージを考える
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
2	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	「放課後子どもプラン」と児童館・児童クラブ
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
3	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館の個別援助活動について
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
4	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	個別援助活動と集団援助活動について
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
5	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館の集団援助活動について
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
6	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	グループ遊びについて
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
7	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館における安全管理
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
8	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館における要保護児童の対応について
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
9	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館における地域組織活動について
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
10	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館における工作遊びについて
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
11	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館における自然遊びについて
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
12	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館における表現遊びについて
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
13	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館における体力増進活動について
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
14	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	児童館におけるゲーム運動遊びについて
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める
15	予習	授業に臨む前に下調べをし、児童館について把握しておく
	内容	まとめ
	復習	学習した内容をノート等にて整理し直し、理解を深める

科目名	キャリア教育				担当教員	澤田 由美	
科目番号	LA109A2	科目区分	教養科目	実務経験のある 教員等による授業	該当しない		
単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	履修年次	1年～2年	開講時期	通年
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択		
目的	近年の社会情勢や労働市場の動向について理解を深め、自分らしい生き方・働き方を考える。それらを基に職業観を形成し、自らの力で生き方を選択できるようキャリア形成を行う。また社会人として必要な基礎能力や態度を身に付けることも目的とする。						
概要	ワークシートを作成したり、グループワークを通して、自己や他者の理解を深め、対人関係のスキルも向上させる。園長先生や卒業生等社会に出て働いている方の講演を聞くことにより、働くことの意義や職業観を形成していく。また社会人としてのマナーも身に付けていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 自己や他者の理解を深めることができる 社会人として課題解決する力やコミュニケーション能力を身に付けることができる 自分が自分として生きるためのキャリア形成ができる 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 30% (4)実践力 30%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)PBL						
評価方法	(1)レポート 30% (2)定期試験 70%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。						
使用テキスト	配布資料をもとに授業を進めていきます。						
参考図書	特になし						
学生へのメッセージ	自己理解を深め、社会に出る前の知識や技能について学びます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	事前に配布した資料をもとに、その内容について調べてくること
	内容	オリエンテーション キャリア教育とは何か ワークシート作成 自己理解を深める
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること
2	予習	講演内容について、学生自身の考えをまとめておくこと
	内容	社会や保育で求められる資質とは(園長先生による講演)
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること
3	予習	講演内容について、学生自身の考えをまとめておくこと
	内容	社会や保育で求められる資質とは(卒業生による講演)
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること
4	予習	講演内容について、学生自身の考えをまとめておくこと
	内容	社会や保育で求められる資質とは(園長先生による講演)
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること
5	予習	講演内容について、学生自身の考えをまとめておくこと
	内容	社会や保育で求められる資質とは(卒業生による講演)
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること
6	予習	講演内容について、学生自身の考えをまとめておくこと
	内容	社会人として求められるマナーとは(マナー講師による講演)
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること
7	予習	講演内容について、学生自身の考えをまとめておくこと
	内容	社会人として求められる資質(園長先生による講演)
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること
8	予習	事前に配布した資料をもとに、自分自身のキャリア形成を考えてくること
	内容	自分らしく生きるためのキャリア形成
	復習	授業内容をまとめ、自分自身のキャリア形成に役立てること

科目名	アカデミックスキルズ				担当教員	星田 由哉	
科目番号	LA110A2	科目区分	教養科目	実務経験のある 教員等による授業	該当しない		
単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	通年
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択		
目的	高等教育機関で学ぶための技法について、高校と大学の学び方の違いについて理解し、主体的な学習者となるための基礎を習得する。						
概要	高校と大学の違い／大学での学び方／短期大学卒業者に期待される資質・能力／保育者として身に付けてほしい資質・能力について学び、2年間の学びの見通し、基本的な学び方を習得する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学での学び方を理解し、主体的に学ぶ姿勢を実践することができる ・短期大学卒業時に期待される資質・能力、および保育者として身につけるべき資質・能力について理解し、実践することができる ・言葉遣いや情報の集め方を理解し、レポートの記述についての基本的スキルを実践に活かすことができる 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
		(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 25% (2)技能 25% (3)態度 25% (4)実践力 25%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション・ディベート						
評価方法	(1)グループワーク 30% (2)プレゼンテーション 30% (3)提出物 40%						
課題へのフィードバック方法	各時間の授業内で提示された課題は、翌授業時に解説する。						
使用テキスト	学生生活ハンドブック						
参考図書	特になし						
学生への メッセージ	皆さんが小学生から中学生になった時を思い出してください。担任の先生による授業がほとんどだったのが教科ごとに先生が変わったり、私服で登校していたのが制服が変わったり、様々な変化があったことでしょう。それらの変化は、初等教育機関(小学校)と中等教育機関(中学校・高等学校)という違いによるものと言えます。 なお、大学・短期大学等は高等教育機関と呼ばれています。これまでとはまた違った分類の学校であるため、高等学校での学び方と大学での学び方も異なります。皆さんがスムーズに大学生活を送れるように、一緒に大学での学び方を身につけていきましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	学生生活ハンドブックに目を通す。
	内容	イントロダクション、アイスブレイク、自分が通う大学について知る(建学の精神・教育目標・3つのポリシー等)
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。
2	予習	テキスト等の資料を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。
	内容	自身の将来について考える(到達目標、2年間の学びの計画、カルテ・ポートフォリオ)
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。
3	予習	テキスト等の資料を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。
	内容	大人・社会人らしい言葉遣い(敬語、話し言葉と書き言葉)
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。
4	予習	テキスト等の資料を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。
	内容	メール・レポートの書き方、インターネットの活用方法
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。
5	予習	テキスト等の資料を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。
	内容	情報の集め方(大学図書館・インターネット)
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。
6	予習	テキスト等の資料を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。
	内容	前期の振り返り
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。
7	予習	テキスト等の資料を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。
	内容	後期の見通し
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。
8	予習	テキスト等の資料を読んでおき、授業時に理解を深められるようにする。
	内容	まとめ
	復習	授業で扱った内容について復習し、知識の定着を図る。

科目名	山梨学				担当教員	清水 健	
科目番号	LA111A2	科目区分	教養科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択		
目的	<p>本学が所在する「山梨県」の保育に関する現代的な課題について分析、検討、考察を行うことを通して、問題の解決について学びを深め、今後の自身の保育スタイルを確立していく。</p>						
概要	<p>「山梨県の保育」をテーマに現代的な課題を考察する機会として、卒業後に保育者としてより広い視野を持って保育現場に従事することができるよう、山梨県のような自然や文化、社会資源等、教育資源となりうる環境について幅広く学び、理解を深める。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・山梨県のような自然や文化、社会資源等、教育資源となりうる環境について理解を深める ・自然や文化、社会資源等の教育資源を活用した保育活動計画を立案する 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	<ul style="list-style-type: none"> (1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること (2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること (3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 					
学習成果との 関連	(1)知識 50% (2)技能 10% (3)態度 30% (4)実践力 10%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)実習・フィールドワーク (2)プレゼンテーション (3)PBL						
評価方法	(1)レポート課題等提出物 50% (2)プレゼンテーションの評価 50%						
課題へのフィードバック方法	各時間の授業内で提出された課題を確認後、返却する。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	毎回資料を配布します						
学生への メッセージ	この講義では特に積極的な態度を求めます。履修者は毎回の授業までに必要な資料をまとめておく等、意欲的な姿勢で望んでください。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	各履修学生の居住地に伝わる文化について調べる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境①
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	前回の活動で提示された課題に取り組み、資料をまとめる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境②
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	前回の活動で提示された課題に取り組み、資料をまとめる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境③
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	前回の活動で提示された課題に取り組み、資料をまとめる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境④
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	前回の活動で提示された課題に取り組み、資料をまとめる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑤
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	前回の活動で提示された課題に取り組み、資料をまとめる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑥
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	前回の活動で提示された課題に取り組み、資料をまとめる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑦
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	前回の活動で提示された課題に取り組み、資料をまとめる
	内容	山梨県の自然、文化、社会資源等、教育資源となりうる環境⑧
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	日本語表現				担当教員	望月 之美	
科目番号	LA112A2	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択		
目的	日本語の特性、美しさについて知り、その表現方法について正しい知識、技術を習得する。また、日本語を通じたコミュニケーションを円滑にするためのマナーや配慮について学ぶと同時に、必要な情報を探し、それをもとに考え、自分の力で表現する力を養う。						
概要	さまざまな文学、また各種メディアが発信する文字情報等を教材とし、それらを通じて日本語の特性について学び、ともに考える授業を行う。それとともに、言葉によるコミュニケーションを通じて培われる人間関係を、より円滑にしていけるよう言語的スキルやマナーを向上させるべく練習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語のもつ美しさ、表現の豊かさ、複雑な表現技巧といった特性に気づき、理解する ・日本語の技術(敬語・文章の書き方等)を磨き、正しい日本語の力を習得する ・さまざまなメディアを駆使して情報を多角的かつ正確にとらえ、考え、自ら発信できることをめざす 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 20% (3)態度 10% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)調査学習 (2)ディスカッション (3)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)提出物等 30%						
課題へのフィードバック方法	課題は添削等を行い、返却後の自己評価を行うことができるようにする。筆記試験については採点基準を示す。						
使用テキスト	米田明美、藏中さやか、山上登志美著『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房(ISBN978-4-7599-1777-2) そのほかアカデミックワード・幼児教育の場での必要語彙などの資料を配布する。						
参考図書	授業内で随時提示する。						
学生へのメッセージ	AIやインターネットの普及に伴い、正しい日本語の理解が曖昧になっています。読む・書く・話すの三領域のポイントを学び「心」が伝わる日本語表現力を身につけることを目標にしたいと思います。社会の中で生きていく上で必要な対人関係スキルに関わる日本語の基礎的な事柄をきちんと身につけること、また論理的思考力や非連続テキストなどの言葉以外の読解力も身につけることを大切に学習したいと思います。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	ミニスキル(同音異義語・同訓異義語)テキストP.1~4
	内容	ガイダンス・自己紹介からコミュニケーションへ・場面を考えて使い分ける自己紹介(口語)と自己紹介文(文語)
	復習	授業での体験をふまえ、生活の中で見受けられる日本語表現を意識してとらえる。
2	予習	ミニスキル(熟語)P.5~6
	内容	コミュニケーションスキル・非言語的コミュニケーション
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
3	予習	ミニスキル(慣用表現・ことわざ・故事成語)テキストP.8~9
	内容	ことばと表現を知る・文の構造と論理的な表現 テキストP.13~を使用
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
4	予習	ミニスキル(自分にとって一番大切なものに関する文章のアウトラインを作成してくる)
	内容	話すこと・フリースピーチ・説明をするということ
	復習	周囲の友達との相互評価について考え自己評価をする。
5	予習	ミニスキル(バイト語・サービス用語)
	内容	敬語・敬意表現を使おう・敬語の種類と使用場面
	復習	授業を振り返りながら、自分の身の回りの若者言葉を集めてみる。
6	予習	ミニスキル(若者言葉がもたらす問題について考えてくる)
	内容	敬語・敬語の用法その1・その2
	復習	他の学生が発表した内容を振り返りながら、知識や技術の定着をはかる。
7	予習	ミニスキル(教育の現場や幼児教育の現場での付加語など)
	内容	敬語・使用場面と立場の違い
	復習	実際の実習場面などを考えて敬語の使用・丁寧語の使用・謙譲語の使用について定着を図る。
8	予習	ミニスキル文章の要約について課題文を使って考えてくる。
	内容	「書き言葉と話し言葉」・文章の要約・伝達メモ
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
9	予習	ミニスキル(アカデミックワードを覚えてくる)
	内容	「書き言葉と話し言葉」論作文・レポートの使用語彙・口頭発表文
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
10	予習	ミニスキル(課題文を読んでくる)
	内容	「書き言葉と話し言葉」手紙・案内文・依頼文・礼状
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
11	予習	ミニスキル(保育用語)
	内容	プレゼンテーション能力の獲得
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
12	予習	ミニスキル(保育用語)
	内容	保育現場などでのコミュニケーション能力①子どもたちとのコミュニケーション②信頼関係を結ぶコミュニケーション
	復習	実際の保育現場などでの様子を想定して授業を振り返る。
13	予習	ミニスキル(配布資料を読んでくる)
	内容	非連続テキストの読解分析と考察 分析と考察
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着をはかる。
14	予習	ミニスキル(配布資料を読んでくる)
	内容	非連続テキストの読解分析と考察 分析と考察をレポートに活かす
	復習	内容に関する課題を確認し、修正点を明確にする。
15	予習	ミニスキル(特技・趣味・信条)をまとめてくる
	内容	就職活動などに必要な日本語表現 履歴書・エントリーシート・グループディスカッション
	復習	前期授業内容を確認し、知識、技術の定着をはかる。

科目名	基礎音楽				担当教員	田川 智美	
科目番号	LA113A2	科目区分	教養科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択		
目的	保育における表現活動をするために、音楽の基礎知識を習得すると共に、歌う、聴く、動く、演奏する活動を通して学生自らが音楽の楽しさを感じ、指導するための技能を身に付ける。						
概要	保育内容を理解し展開するために、音楽に関する基本的な知識を習得し技能を身に付け、保育の中で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技能を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児曲をたくさん知る ・基礎知識をもとに、幼児曲の伴奏付けなどが出来るようになる ・音楽表現活動を通して音楽の楽しさや喜びを知る 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 40% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	実施しない						
評価方法	(1)授業への取り組み 40% (2)定期試験 60%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。						
使用テキスト	小林一夫『楽譜の読み方』日東書院 板東貴余子編著『簡易伴奏によるこどもの歌ベストテン』ドレミ楽譜出版社						
参考図書	『リトミックで遊ぼう』全音楽譜出版社 石丸由理編著『子どものリトミック』アド・グリーン企画出版						
学生へのメッセージ	音楽の基礎から学習します。基礎力をつけて音楽の楽しさを学び保育に役立つ実践力を身に付けましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	オリエンテーション
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
2	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・① 音の高さを表す・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
3	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・② 音の長さをあらわす・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
4	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・③ リズムを表す・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
5	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・④ 演奏の順序を表す・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
6	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑤ 音のつながりを表す・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
7	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑥ 音のつながりを表す・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
8	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑦ 音の幅を表す・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
9	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑧ 音の調和を表す・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
10	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑨ コードネームについて・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
11	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑩ 幼児曲の伴奏部分のアナリーゼ・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
12	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑪ 幼児曲の伴奏部分の編曲・発声法と歌唱法 子どもの歌
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
13	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑫ 幼児曲を用いての実践演習
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
14	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	保育者として必要な音楽知識・・・⑬ 幼児曲を用いての実践演習
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる
15	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	まとめ
	復習	復習によってしっかりと知識を定着させる

科目名	保育原理 I				担当教員	清水 健	
科目番号	BO201A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	選択必修	保育士	必修		
目的	乳幼児の保育・教育の本質を捉えて保育の意義及び目的を理解する。また、保育に関わる各種法令・制度を踏まえ、保育所保育指針における保育の基本について理解する。さらに、乳幼児の保育・教育に関する歴史、思想について学ぶことを通じて、保育所・幼稚園における保育・教育の現状と課題について理解する。						
概要	幼児の保育・教育に関する基礎的事項についての理解に加え、保育の歴史に伴う思想の変遷や現在の保育に関わる法令や制度を踏まえ、幼児の保育・教育の意義や目的について明確な認識を持つ中で幼児に対する保育・教育に関する総論を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の保育・教育の本質について、理解する ・歴史や類型の学びを通して、保育所・幼稚園における保育・教育の原理と内容について理解する ・幼稚園、保育所での幼児の保育教育的ニーズを理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)その他(双方向アンケート)						
評価方法	(1)授業レポート 30% (2)定期試験 60% (3)討論・プレゼンテーション 10%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却しフィードバックを行う。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	岡田耕一編著、寺田博行・菊地一晴著『改訂 保育原理 —子どもの保育の基本理論の理解—』萌文書林						
参考図書	保育総合研究会監修『平成30年度施行 新要領・指針サポートブック』世界文化社						
学生へのメッセージ	幼稚園や保育所・施設それぞれの幼児の保育・教育の基礎、原理について学ぶため、毎回の授業終了後、学び得たことをまとめたレポートを提出してもらう予定である。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	オリエンテーション
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育とは何か(本質と原理)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育の場とその役割、保育に関する法令及び制度－保育所－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育の場とその役割、保育に関する法令及び制度－保育所以外の児童福祉施設－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育の場とその役割、保育に関する法令及び制度－幼稚園－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育の場とその役割、保育に関する法令及び制度－こども園－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育の歴史と世界の動向①
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育の歴史と世界の動向②
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児の保育・教育の歴史と世界の動向③
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領等に基づく保育の基本－保育に関する基本原則－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育の基本－保育の目標・内容－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領等における保育の基本－保育の環境・方法－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育の現状と課題－日本－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育の現状と課題－諸外国－
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	まとめ
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	教育学概論				担当教員	望月 之美	
科目番号	BO202A1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	1. 教育の意義、目的及び子ども家庭福祉等との関わりについて理解する 2. 教育の思想と歴史の変遷について学び、教育に関する基礎的な理論について理解する 3. 教育の制度について理解する 4. 教育実践の様々な取り組みについて理解する 5. 生涯学習社会における教育の現状と課題について理解する。						
概要	教育の基本的概念を身に付けるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解し、教育の歴史に関する基礎的知識を身に付け、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 専門性として乳幼児期の教育の特性、教育と子ども家庭福祉の関連性、人間形成と家庭・地域・社会等との関連性などにも考えをひろげ、諸外国の教育の思想と歴史、日本の教育の思想と歴史などを比較検証しながら、子ども観と教育観について深く理解することを目指す。						
到達目標	(1)教育の基本的概念を把握している。 1)教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2)子供・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 (2)教育に関する歴史 1)家族と社会による教育の歴史を理解している。 2)近代教育制度の成立と展開を理解している。 3)現代社会における教育課題を歴史的な視点で理解している (3)教育に関する思想 1)家庭や子供に関わる教育の思想を理解している。 2)学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 3)代表的な教育家の思想を理解している。						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 40% (2)技能 10% (3)態度 40% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)学習内容と現代的な課題に対するグループワークとディスカッション (2)PBL(課題解決学習)						
評価方法	(1)定期試験 50% (2)学習マナー 20% (3)課題レポート 30%						
課題へのフィードバック方法	知識を理解につなげているかどうかのミニテスト(解答を示す)及び定期試験を行う。						
使用テキスト	福元真由美編『はじめての子ども教育原理』有斐閣						
参考図書	公益財団法人児童育成協会監修、矢藤誠慈郎・天野珠路編著『新基本保育シリーズ① 保育原理』中央法規出版						
学生へのメッセージ	「教育の基礎を学ぶ科目」として開講されます。講義では、「教育とは何か」、「学校とは何か」、「教える・学ぶとはどういうことなのか」などの根源的な課題について、教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想など基本事項の理解を深める学習を展開します。受講生同士の討論や、課題追究・発表などができるように、知識を身の回りの出来事と関連付けて考える、実の場にフィードバックさせる形での深化を目指します。ルーズリーフではないノートを必ず用意して参加してください。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	P.1 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	「教育」の意味について・教育の理念とは
	復習	P.1 KEYWORDの説明をノートに書いてまとめる
2	予習	P.13 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子ども教育の系譜・遊びの中での子ども達の学び
	復習	授業で触れた遊びと学びについて復習する
3	予習	配布資料の内容を言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子ども教育の制度(公教育ならびに幼児教育の成立)
	復習	子ども家庭庁の位置づけ・文部科学省・厚生労働省の位置づけを考える
4	予習	P.33KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子どもが育つ環境・学びを紡ぐ環境・「環境を通して行う教育」における教師の役割
	復習	人・もの・こと的环境について復習し、整理する
5	予習	P.51 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子どもの発達・発達に応じた学びとは・社会や文化の中での学び
	復習	発達の段階について復習し、P.5とP.63のColumnを読む
6	予習	P.69 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子ども教育者という仕事・求められる教育者の資質・制度から見る子ども教育者
	復習	制度の中での取得資格と自覚について復習する
7	予習	P.89 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子ども教育の系譜・小学校の成立と展開・幼稚園・保育所・認定こども園
	復習	幼児期の終わりまでに身につけたい3つの資質と10の力について復習する
8	予習	P.111 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子ども教育をめぐる思想Ⅰ(教育思想の変遷)
	復習	時代背景とそこで求められた教育思想を復習する
9	予習	P.131 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子ども教育をめぐる思想Ⅱ(教育と社会)
	復習	教育思想の先人について覚える
10	予習	P.147 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子ども教育を支える仕組み・学校の体系・法から考える「学校」や「教育」
	復習	P.150「日本の学校体系について構造的に理解をする
11	予習	P.169 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	現代社会での教育に関わる問題 虐待・貧困・いじめ
	復習	現代社会の問題を「社会的養護」の視点で考える
12	予習	配布資料を2回以上読んで参加すること
	内容	現代社会での教育に関わる問題 不適応・障害などの問題
	復習	インクルーシブ教育と、「合理的配慮」について考える
13	予習	P.201 KEYWORDを言葉として覚えて参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	教育活動を支える組織と運営(学校と地域との連携・学校安全への対応)
	復習	外部や地位とのつながりの一環である「子育て支援」について考える
14	予習	P.171 Columnを読んで参加する。講義内でその内容について理解できるようにすること
	内容	子どもの育ちと学びをつなぐ(幼小の連携・接続・キャリア発達)
	復習	自身のキャリア発達とプランニングをまとめる
15	予習	授業の中で指定した諸外国の幼児教育の資料を持参すること
	内容	諸外国における子ども観と教育・まとめ
	復習	PBL(課題解決学習)のリフレクションを行う

科目名	子ども家庭福祉				担当教員	星田 由哉	
科目番号	NT203A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	現代の子ども・家庭が置かれている状況、および、子育て環境をめぐる変化・困難さや子どもの人権を理解する。また、子ども家庭福祉の制度と現状、および動向について理解する。						
概要	児童の最善の利益、児童の権利に関する条約、子どもの人権擁護、子ども家庭福祉の制度と実施体系、子育て支援、障害児保育、虐待・DVとその防止、貧困家庭や外国につながる子どもとその家庭への対応、社会的養護、非行少年への対応などについて学ぶ。 なお、学生の関心や問題意識等に応じて、授業構成・内容を柔軟に変更することがある。 (本講義は担当教員の児童養護施設での実務経験を活かし、実際の現場の様子を紹介しながら実践的に授業を行う。)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷について理解し、説明できる ・子どもの人権擁護について理解し、説明できる ・子ども家庭福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる ・子ども家庭福祉の現状と課題について理解し、説明できる ・子ども家庭福祉の動向と展望について理解し、説明できる 						
卒業認定・学位授与の方針との関連		(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 35% (2)課題 26% (3)授業参加度 39%						
課題へのフィードバック方法	定期試験・レポートについて、実施後解説を行う。						
使用テキスト	新保幸男・小林理編『新・基本保育シリーズ③ 子ども家庭福祉(第2版)』中央法規出版						
参考図書	直島正樹・河野清志編著『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉(第2版)』萌文書林 喜多一憲監修・堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 子ども家庭福祉(第2版)』みらい						
学生へのメッセージ	この科目は、保育の本質・目的に関する科目の一つです。社会的な弱者の一部である子どもと、その背景にある家庭に対する支援について学びます。保育実習に向けて、子ども家庭福祉に対する理解を深めていきましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	イントロダクション【現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷①】子ども家庭福祉の理念と概念
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
2	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【現代社会における子ども家庭福祉の意義と歴史的変遷②】子ども家庭福祉の歴史的変遷と諸外国の動向
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
3	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子どもの人権擁護】子どもの人権擁護
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
4	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の制度と実施体系①】子ども家庭福祉の制度と実施体制
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
5	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の制度と実施体系②】子ども家庭福祉の施設と専門職
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
6	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の制度と実施体系③】少子化と地域子育て支援
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
7	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の現状と課題①】母子保健と子どもの健全育成
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
8	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の現状と課題②】多様な保育ニーズへの対応
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
9	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の現状と課題③】子ども虐待・ドメスティックバイオレンスとその防止
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
10	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の現状と課題④】貧困家庭・外国につながる子どもとその家庭への対応
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
11	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の現状と課題⑤】社会的養護
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
12	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の現状と課題⑥】障害のある子どもへの対応
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
13	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の現状と課題⑦】少年非行等への対応
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
14	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の動向と展望①】次世代育成支援と子ども家庭福祉の推進
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
15	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【子ども家庭福祉の動向と展望②】地域における連携・協働とネットワーク まとめ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する

科目名	社会福祉				担当教員	星田 由哉	
科目番号	BO204A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	選択必修	保育士	必修		
目的	社会福祉の考え方・概念、および、制度や実施体系、動向等について理解する。また、社会福祉における重要な概念である相談援助や利用者保護のしくみについて理解する。						
概要	<p>保育所はわが国の社会福祉制度のしくみの一つである。本授業では、保育者の基礎として、社会福祉の法体系と行財政、社会福祉の専門職、社会保障、相談援助の理論・機能・過程・方法、権利擁護、障害者福祉などについて学ぶ。</p> <p>なお、学生の関心や問題意識等に応じて、授業構成・内容を柔軟に変更することがある。 (本講義は担当教員の児童養護施設での実務経験を活かし、実際の現場の様子を紹介しながら実践的に授業を行う。)</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解し、説明できる ・社会福祉の制度や実施体系等について理解し、説明できる ・社会福祉における相談援助について理解し、説明できる ・社会福祉における利用者の保護に関わるしくみについて理解し、説明できる ・社会福祉の動向と課題について理解し、説明できる 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 80% (2)技能 0% (3)態度 20% (4)実践力 0%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 35% (2)課題 26% (3)授業参加度 39%						
課題へのフィードバック方法	定期試験・レポートについて、実施後解説を行う。						
使用テキスト	松原康雄・坪洋一・金子充編『新・基本保育シリーズ④ 社会福祉(第2版)』中央法規出版						
参考図書	直島正樹・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会福祉(第3版)』萌文書林 志濃原亜美編『みらい×子どもの福祉ボックス 社会福祉(第2版)』みらい						
学生へのメッセージ	この科目は、大学が独自に定める科目、および、保育の本質・目的に関する科目の一つです。全ての人の「ふ」だんの「く」らしが「し」あわせになるためには、どのようなことが求められるかについて学びます。教育実習・保育実習に向けて、社会福祉に対する理解を深めていきましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	イントロダクション【現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷①】社会福祉の理念と歴史の変遷
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
2	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷②】子ども家庭支援と社会福祉
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
3	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の制度と実施体系①】社会福祉の制度と法体系
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
4	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の制度と実施体系②】社会福祉行財政と実施機関・社会福祉施設等
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
5	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の制度と実施体系③】社会福祉の専門職
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
6	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の制度と実施体系④】社会保障および関連制度の概要
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
7	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉における相談援助①】相談援助の理論
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
8	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉における相談援助②】相談援助の意義と機能
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
9	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉における相談援助③】相談援助の対象と過程
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
10	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉における相談援助④】相談援助の方法と技術
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
11	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉における利用者の保護に関わるしくみ】利用者保護に関わるしくみ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
12	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の動向と課題①】少子高齢化社会における子育て支援
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
13	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の動向と課題②】共生社会の実現と障害者施策
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
14	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の動向と課題③】在宅福祉・地域福祉の推進
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
15	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会福祉の動向と課題④】諸外国の社会福祉の動向 まとめ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する

科目名	子ども家庭支援論				担当教員	吉田 百加利	
科目番号	NT205A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	1. 家庭・家族の意義やその機能、家庭・家族を取り巻く社会的状況について理解する 2. 子育て家庭への支援体制や関係機関との連携について理解する						
概要	家庭・家族の現代社会における意義や機能を理解し、家庭や家族も含めて現代の保育は成立しているということについて、十分な知識をつける。その中で、保育士としてどのような家庭・家族への支援が行えるかを模索していく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育の対象は子どもだけではなく家庭・家族も含まれることを理解する ・家庭・家族が現代社会においてどのような状況に置かれているかを理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 40% (2)技能 25% (3)態度 25% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション・ディベート						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)学習マナー 30%						
課題へのフィードバック方法	試験は、試験後解答を公表する。						
使用テキスト	守巧『子ども家庭支援論』萌文書林						
参考図書	授業内で適宜紹介する						
学生へのメッセージ	意欲的な態度での受講を期待します。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	オリエンテーション(講義内容、評価方法の説明)
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
2	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	家族支援の必要性
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
3	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	保育士等が行う家庭支援の原理
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
4	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	現代の家庭と地域社会における人間関係
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
5	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	男女共同参画とワーク・ライフ・バランス
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
6	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	少子化対策施策・次世代育成支援施策
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
7	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	子育て家庭の支援体制 I
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
8	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	子育て家庭の支援体制 II
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
9	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	家庭支援の展開の多様性と関係機関との連携 I
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
10	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	家庭支援の展開の多様性と関係機関との連携 II
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
11	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	要保護児童およびその家庭に対する支援 I
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
12	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	要保護児童およびその家庭に対する支援 II
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
13	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	子ども家庭支援の課題と展望 I
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
14	予習	テキストを読み、分からない箇所などの確認を行う
	内容	子ども家庭支援の課題と展望 II
	復習	配布プリントなどにより、授業内容について確認する
15	予習	これまでの学びを振り返り、分らない箇所などの確認を行う
	内容	まとめ
	復習	これまでの学びを振り返り、授業内容について確認する

科目名	社会的養護 I				担当教員	星田 由哉	
科目番号	NT206A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	社会的養護の考え方・概念、社会的養護の基本原則について理解する。また、社会的養護の制度や対象、保育士を含めた専門職、および動向について理解する。						
概要	社会的養護は、虐待などの困難を抱える子どもを社会的に保護・援助するしくみである。子どもの権利擁護、社会的養護の基本、保育士等の倫理と責務、社会的養護の制度・実施体系、ファミリーソーシャルワーク、社会的養護に関わる専門職、被措置児童等虐待の防止などについて学ぶ。 なお、学生の関心や問題意識等に応じて、授業構成・内容を柔軟に変更することがある。 (本講義は担当教員の児童養護施設での実務経験を活かし、実際の現場の様子を紹介しながら実践的に授業を行う。)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷について理解し、説明できる ・こどもの人権擁護を踏まえた社会的養護の基本について理解し、説明できる ・社会的養護の制度や実施体系等について理解し、説明できる ・社会的養護の対象や形態、関係する専門職等について理解し、説明できる ・社会的養護の現状と課題について理解し、説明できる 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との関連	(1)知識 70% (2)技能 10% (3)態度 10% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 35% (2)課題 26% (3)授業参加度 39%						
課題へのフィードバック方法	定期試験・レポートについて、実施後解説を行う。						
使用テキスト	相澤仁・林浩康『新・基本保育シリーズ⑥ 社会的養護 I (第2版)』中央法規出版						
参考図書	原田旬哉・杉山宗尚編著『図解で学ぶ保育 社会的養護 I (第2版)』萌文書林 喜多一憲監修・堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護 I (第2版)』みらい 『最新保育士養成講座』総括編纂委員会編『改訂1版 最新保育士養成講座第5巻 社会的養護と障害児保育』 全国社会福祉協議会						
学生へのメッセージ	この科目は、保育の本質・目的に関する科目の一つです。社会全体で子どもを守り、育てることについて学びます。保育実習に向けて、社会的養護に対する理解を深めていきましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	イントロダクション【現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷①】社会的養護の理念と概念
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
2	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷②】社会的養護の歴史の変遷
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
3	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の基本①】子どもの人権擁護と社会的養護
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
4	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の基本②】社会的養護の基本原則
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
5	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の基本③】社会的養護における保育士等の倫理と責務
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
6	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の制度と実施体系①】社会的養護の制度と法体系
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
7	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の制度と実施体系②】社会的養護のしくみと実施体系
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
8	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の制度と実施体系③】社会的養護とファミリーソーシャルワーク
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
9	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の対象・形態・専門職①】社会的養護の対象と支援のあり方
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
10	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の対象・形態・専門職②】家庭養護と施設養護
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
11	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の対象・形態・専門職③】社会的養護に関わる専門職
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
12	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の現状と課題①】社会的養護に関する社会的状況
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
13	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の現状と課題②】施設等の運営管理の現状と課題
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
14	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の現状と課題③】被措置児童等の虐待防止の現状と課題
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する
15	予習	テキストを読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の現状と課題④】社会的養護と地域福祉の現状と課題 まとめ
	復習	配布プリント等を読み、授業内容について再確認する

科目名	保育者論				担当教員	望月 之美	
科目番号	BO207A1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	保育者の役割が多様化する中で、保育者を目指すために必要な基礎的知識・及び資質能力を学び、自己課題を意識しつつ保育者の在り方を理解する。						
概要	保育者の役割や制度的位置づけなど、基礎的な知識を理解する。事例研究や、グループディスカッションを通して学びを深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者の役割、制度的位置づけを理解した上で、求められる資質・能力について理解する ・保育者の役割の拡大・多様化への理解と園内及び園外の専門機関との連携や協働について理解する ・保育者の職能成長とキャリア形成について理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 20% (3)態度 30% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)意見交流 (2)グループワーク						
評価方法	(1)小テスト・課題シート 25% (2)試験 50% (3)授業態度および積極性 25%						
課題へのフィードバック方法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テストは採点し、解説を行う ・各時間の授業内で提示された課題シートは、確認後返却する 						
使用テキスト	関口はつ江・田中美保子・西隆太朗著『保育者論 共感・対話・相互理解』萌文書林 (ISBN978-4-89347-377-6)						
参考図書	『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『保育所保育指針』						
学生へのメッセージ	「保育者論」というよりは、自分の生き方を考え・自分を見つめ直す時間になると考えています。教えられ導かれてきたこれまでの立場から、「導く人」になるための心構えができるはず。「共感」「対話」「相互理解」「自分探し」これをキーワードにして学んでほしいです。併せて、保育や教育は時代の要請の中で変化するものでもあるので、「今、この時代はどんな時代なのか」もいっしょに考えたいと思います。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	自分の幼少期の保育所・幼稚園などを思い出してくる
	内容	子どもの専門家としての保育者・保育者の専門性の特質
	復習	p.11 1-1を読んで復習する
2	予習	p.16 3-1の前までを読んで参加すること
	内容	保育者の役割と専門性
	復習	全国保育士会倫理綱領と倉橋惣三について概要を調べる
3	予習	配布した資料を眺めて歴史的な出来事との対比をしてくる
	内容	保育思想との対話
	復習	先人の考えた子ども観などを復習し、自分が感銘を受けた先人を一人選んで覚える
4	予習	p.51～52を読んで参加すること
	内容	現代社会における保育者の課題 保育制度と保育者・養護と教育の一体性・保育者の省察
	復習	p.62の演習課題の復習をする
5	予習	現代社会における子どもたちの問題をインターネットなどから拾って参加すること
	内容	保育者に求められる基礎力 心身の安全管理と安全基地・子どものための環境構成
	復習	子どもの心身の発達の流れをつかみ整理する
6	予習	p.78の保育者の一日の職務の表と、p.80の認定こども園の一日の職務を把握して参加すること
	内容	保育の場の実際 保育者の一日の生活・子どもの一日の生活のながれ・園の管理運営
	復習	保育施設の種類が違って共通して基本となる保育者の専門性についてまとめる
7	予習	p.99の事例1-1、p.101の事例1-2を読んで参加すること
	内容	保育者の意識と行為
	復習	意識と行為について把握したことを実践に移せるか考える
8	予習	p.129～130の事例と表を読んで参加すること
	内容	保育者は子どもと生活・遊びを作る
	復習	指定教科書の復習
9	予習	p.150の同僚性ってどんなものか教科書から考えてくる
	内容	保育の場 園の協力体制・保育者の連携・保育における同僚性
	復習	チームで考え行動することの意義を復習する
10	予習	p.164～165の6行目までを読んで参加すること
	内容	家庭との連携・保護者支援
	復習	指定したレジメ及び教科書の復習
11	予習	配布資料を読んで支援の必要な子どもについて考えを深めて参加すること
	内容	個別支援における保育者の専門性・地域における子育て支援のための連携
	復習	多様化・グローバル化について何か記事を選んで問題の所在をつかむこと
12	予習	保育士の資格でできることはどんな仕事か調べてくる
	内容	行政諸機関と各種専門機関との連携・地域の人的・物的・文化的資源との連携
	復習	各種関連機関について復習しておくこと
13	予習	小学校と幼児教育の違いについて自分の経験の中で振り返ってくる
	内容	小学校との連携と「小1プロブレム」の正体
	復習	学びの連続性と学びの方向性について理解を深める
14	予習	保育者の専門性の向上とキャリア形成の意義において授業内で指定した箇所を熟読しておく
	内容	保育者のキャリアアップ・専門性の向上に向けた組織的取り組み
	復習	p.200～201を復習すること
15	予習	p.208～209を読んで参加すること
	内容	これからの保育者像・子どもの傍らにある「私」として生きるということ まとめ
	復習	自分の保育者像をまとめる

科目名	発達心理学 I				担当教員	小野 拳	
科目番号	BO208A1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	本授業の目的は、発達心理学の基礎的な知識を全般的に学ぶことにある。生涯発達としてのヒトの発達を学んだ上で、発達心理学の視点から子どもの育ちにおける保育ならびに教育が担う役割について理解する。						
概要	ヒトの心は、生涯を通じて変化し続けるものである。発達心理学は、認知、感情、社会性など、人間の心理的機能の発達過程を科学的に探究する学問である。本授業では、胎児期から老年期に至るまでの各発達段階における心理的・身体的・社会的特徴について体系的に学ぶ。特に、保育・教育分野に携わる者にとって重要となる乳幼児期の発達の特徴について詳しく理解を深め、保育者・教育者として求められる役割や支援のあり方について考察する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発達概念を理解し、説明できること ・各発達段階における心理的特徴を理解し、体系的に説明できる ・発達心理学の知見を保育場面や教育場面に活用する方法について考察できる 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 20%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション・ディベート						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)レポート提出 30%						
課題へのフィードバック方法	定期試験及びレポートについては、実施後解説を行う。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	藤崎亜由子・羽野ゆつ子・渋谷郁子・網谷綾香編『あなたと生きる発達心理学-子どもの世界を発見する保育の面白さを求めて-』ナカニシヤ出版 渡辺弥生『完全カラー図解 よくわかる発達心理学』ナツメ社						
学生へのメッセージ	ヒトの身体と心はどのように発達するのでしょうか？私たちが当たり前だと思ってきたことを発達心理学の観点から理解していきます。皆さんの日々の生活の中で生じる『なぜだろう？』という気持ちを大事にしながら、受講してください。この講義では、皆さんの探究心と学びへの意欲を大切に、一緒に発達心理学の世界を探求していきたいと思っております。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	自分自身が持つ心理学のイメージについて整理する
	内容	イントロダクション, 心理学とは何か？
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
2	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心理学における発達とは何か？
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
3	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	発達や子どもはどのように理解されてきたのか？—発達理論の変遷—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
4	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	環境と子どもの育ち—保育におけるヒト・モノ・コト—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
5	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもはどのように世界を理解するのか？—ピアジェの認知発達論—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
6	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心はどのように育つのか？—乳児期の発達①—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
7	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心はどのように育つのか？—乳児期の発達②—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
8	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心はどのように育つのか？—幼児前期の発達—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
9	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心はどのように育つのか？—幼児後期の発達—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
10	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心はどのように育つのか？—児童期の発達—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
11	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心はどのように育つのか？—青年期の発達—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
12	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心はどのように育つのか？—成人期の発達から老年期の発達まで—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
13	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	思いやりとは何か？—向社会性の発達—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
14	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	ヒトのやる気とは何か？動機づけ, 自己決定理論
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
15	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	総まとめ
	復習	これまでの配布資料を確認し、本授業の全体像を理解する。

科目名	子ども家庭支援の心理学				担当教員	小野 拳	
科目番号	NT209A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	<p>エリクソンのライフサイクル論を基盤として、生涯発達の見点から各発達段階における特徴、発達課題、および発達危機について体系的に学習する。また、各発達段階における精神保健の諸課題について理解を深める。</p> <p>現代社会における子育て家庭を取り巻く環境の変化と、それが子どもの発達に及ぼす影響について考察する。</p>						
概要	<p>子ども家庭支援の心理学は、子どもの発達過程や心理的特徴を理解し、その発達を取り巻く家族関係や環境要因を包括的に捉えながら、子どもと家庭への適切な支援方法を探求する科目である。</p> <p>本授業では、エリクソンのライフサイクル論を中心に、人間の生涯発達における各段階の特徴と発達課題について学ぶ。また、子どもの発達段階ごとの精神保健についての理解を深めるとともに、現代社会における子育て家庭を取り巻く環境の変化が子どもの発達に与える影響について検討する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯発達の見点から各発達段階の特徴、発達課題、発達危機について説明することができる。 ・各発達段階における代表的な精神保健の課題を理解し、支援の方向性を考えることができる。 ・現代社会における子育て家庭の課題を多角的に分析し、子どもの発達への影響について論じることができる。 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション・ディベート						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)レポート提出 30%						
課題へのフィードバック方法	定期試験及びレポートについては、実施後解説を行う。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	<p>原信夫・井上美鈴編『子ども家庭支援の心理学』北樹出版</p> <p>服部祥子『生涯人間発達論—人間への深い理解と愛情を育むために—』医学書院</p> <p>馬場禮子・永井徹編『ライフサイクルの臨床心理学』培風館</p>						
学生へのメッセージ	<p>子どもの心の強さやしなやかさは、いつ・どのように育まれていくのでしょうか？本授業では、各発達段階における心の育ちを理解するとともに、子どもを取り巻く社会的環境の変化について学んでいきます。子どもに寄り添う保育者として、子どもの心の健やかな発達をどのように支援できるのか、共に考えていきましょう！</p>						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	既習の各発達段階の発達特徴について確認する
	内容	イントロダクション, 生涯発達とライフサイクル論
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
2	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	エリクソンのライフサイクル論(1) 乳児期・幼児期
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
3	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	エリクソンのライフサイクル論(2) 遊戯期・児童期
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
4	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	エリクソンのライフサイクル論(3) 青年期
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
5	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	エリクソンのライフサイクル論(4) 成人期・老年期
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
6	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	家族と家庭の理解
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
7	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	特別な配慮を要する家庭の理解と対応
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
8	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子育て家庭を取り巻く社会的状況の理解と対応
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
9	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもの生活・生育環境とその影響
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
10	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもの心の健康
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
11	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	発達と精神保健(1) 乳児期から児童期
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
12	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	発達と精神保健(2) 青年期から老年期
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
13	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	日常的な相談支援(1) 相談支援の理論
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
14	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	日常的な相談支援(2) 相談支援の方法
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
15	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	まとめ
	復習	これまでの配布資料を確認し、本授業の全体像を理解する。

科目名	子どもの理解と援助				担当教員	小野 拳	
科目番号	BO210B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	発達心理学、臨床心理学ならびに保育学の知見を基盤に、保育における子ども理解の重要性と方法について理解をする。その上で、保育現場で見られる様々な場面における子ども理解と保育者の支援のあり方について考察する。						
概要	子ども理解は保育の出発点と言われる。本授業では子ども理解の理論、考え方及び基礎的態について理解し、幼児理解の方法について具体的に理解する。また、保育現場の様々な状況における子ども理解の方法や保育者の支援のあり方についてケーススタディやグループ討議等の活動を通して、保育者としての子ども理解の知識ならびに実践力を養うことを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育における子ども理解の重要性について理解し、子どもの発達や内面を捉える基礎的態度を身につける。 ・保育の様々な状況における子ども理解の方法や保育者の関わり方について論じることができる。 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 30% (4)実践力 30%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション・ディベート						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)レポート 30%						
課題へのフィードバック方法	定期試験及びレポートについては、実施後解説を行う。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	堂本真実子『子ども理解と援助ーより深い専門性の獲得へー』わかば社 請川滋大『子ども理解ーこと集団の育ちを支える理論と方法ー』萌文書林						
学生へのメッセージ	私たちは、言葉にならない思いをたくさん抱えて生きていますが、それらは目には見えません。では、そんな「こころ」をどうやって理解していけばよいのでしょうか？この授業では、心理学をもとに子どもの心にアプローチする方法と一緒に探ります。ケーススタディやグループワークを通じて、皆さんが多様な「こころ」に触れる場面をたくさん用意しています。仲間と意見を交わす中で、様々な心のあり方に出会い、それぞれの個性に気づく機会が増えるはず。皆さんの積極的な参加を楽しみにしています！						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	特になし
	内容	こども理解の意義
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
2	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子ども理解の方法(1) 共感的理解
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
3	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子ども理解の方法(2) 職員間の対話, 保護者との情報共有
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
4	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子ども理解の方法(3) PDCAサイクル
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
5	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	保育環境の理解と構成
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
6	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	日々の生活の中のこども理解と援助—養護と教育の一体的展開—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
7	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	一人一人の子どもへの対応と子ども理解
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
8	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	人的環境としての保育者と子どもの発達
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
9	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	個と集団を大切にする保育の関わり(1) 3歳未満児, ケーススタディ
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
10	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	個と集団を大切にする保育の関わり(2) 3歳以上児, ケーススタディ
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
11	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	発達の課題に応じた援助と関わり
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
12	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	特別な支援を要する子どもの理解と援助, ケーススタディ
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
13	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	葛藤やつまずきの理解と子どもの自律的な動機づけに基づく援助, ケーススタディ
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
14	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	発達の連続性と就学への支援, ケーススタディ
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
15	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	学習の総まとめ, 保育の質が左右する子ども理解と援助
	復習	これまでの配布資料を確認し、本授業の全体像を理解する。

科目名	子どもの保健				担当教員	澤田 由美	
科目番号	NT211A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	<p>子どもの心身の発育・発達を理解し、健康増進を図る保健活動の重要性について理解する。 また、子どもの疾病とその予防法及び他職種間との連携、協働の下での適切な対応について理解できるようにする。</p>						
概要	<p>現代の子どもをとりまく社会的状況や背景を理解するとともに、保健活動の重要性について理解を深める。子どもの心身の健康状態の把握方法について理解し、子どもの疾病や病態を知り、疾病の予防や早期発見に努め、適切な対応がとれるよう解説する。(本講義は、保健師の実務経験を基に、実際の乳幼児健診や保健指導の事例を示しながら、子どもの発育・発達に応じた健康増進、疾病予防また保護者支援について理解が深められるよう授業を展開していく。)</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもの心身の発育・発達を理解し、健康増進を図る保健活動の意義を理解する 2. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解する 3. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 30%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)ディスカッション (2)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 80% (2)学習マナー 20%						
課題へのフィードバック方法	課題に対して、授業内で解説を行う。						
使用テキスト	森脇千夏, 緒方美津子, 是松聖悟, 徳野裕子, 西岡征子, 宮崎貴美子, 宮原恵子, 室井由起子, 脇本麗 著『イラスト子どもの保健・健康と安全』東京教学社						
参考図書	鈴木美枝子『子どもの保健 I』創成社 松田博雄、金森三枝編『子どもの保健』中央法規出版						
学生へのメッセージ	自分自身の健康にも関心を持ちましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの健康と保健活動の意義と目的
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
2	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	健康の概念と健康指標 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
3	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	身体発育および運動機能の発達と保健
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
4	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	生理機能の発達と保健
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
5	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	健康状態の観察 不調等の早期発見
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
6	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	発育・発達の把握と健康診断
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
7	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保護者との情報共有
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
8	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	主な疾病の特徴① 感染症
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
9	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	主な疾病の特徴② 新生児の病気、先天性の病気
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
10	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	主な疾病の特徴③ アレルギー、循環器、呼吸器の病気
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
11	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	主な疾病の特徴④ 血液、消化器、腎泌尿器、内分泌の病気
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
12	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	主な疾病の特徴⑤ 神経系の病気、その他の疾患
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
13	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの疾病の予防と適切な対応
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
14	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	地域における保健活動と子ども虐待防止
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
15	予習	今までの学びを振り返り、疑問点や理解できなかった点をまとめてくること
	内容	まとめ
	復習	今までの学びを振り返り、知識を確実にする

科目名	子どもの食と栄養				担当教員	澤田 由美	
科目番号	NT212B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	<p>健康な生活の基本としての食生活の意義や基礎的知識を学び理解を深め、発育・発達過程を踏まえた食育実践を行う力を身につける。 家庭や地域、関係機関と連携した食育活動の展開について理解する。</p>						
概要	<p>乳幼児期は食への関心が高まる大切な時期であり、発達段階に応じた栄養と食生活の重要性について理解を深めることが重要である。そのために、子どもの健康と食生活の意義、栄養に関する基礎知識、子どもの発育・発達と食生活の関係、食育の重要性、家庭や児童福祉施設における食事と栄養、配慮を要する子どもの食と栄養に関する基礎的知識の習得と実践について学ぶ。</p>						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 健康な生活の基本としての食生活の意義や栄養に関する基本的知識を習得する 2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について理解することができる 3. 保育における食育の意義・目的、基本的考え方、その内容等について理解できる 4. 家庭や児童福祉施設における食生活の現状と課題について理解する 5. 配慮を要する子どもの食と栄養について理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 30%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)試験 80% (2)学習への積極的な参加(課題への取り組み)等 20%						
課題へのフィードバック方法	課題に対して、授業内で解説を行う。						
使用テキスト	太田百合子, 堤 ちはる/編 『子どもの食と栄養 第3版 保育現場で活かせる食の基本』羊土社						
参考図書	厚生労働省『保育所におけるアレルギー対応ガイドライン』 厚生労働省編『保育所保育指針解説 平成30年3月』フレーベル館						
学生へのメッセージ	子どもの心身の健やかな発育には、毎日の食生活が大きく関わります。 積極的な姿勢で取り組みましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの健康と食生活
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
2	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの食生活の現状と課題
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
3	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	栄養に関する基礎的知識(基礎的概念と栄養素)
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
4	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	献立作成・調理の基本
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
5	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児期の授乳の意義と食生活
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
6	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児期の離乳の意義と食生活
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
7	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児期の心身の発達と食生活
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
8	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	学童期・思春期の心身の発達と食生活・生涯発達と食生活
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
9	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における食育の意義・目的と基本的考え方
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
10	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	食育の内容と計画および評価、食育のための環境
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
11	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	関係機関や職員間の連携
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
12	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	食を通じた保護者への支援
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
13	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	家庭や児童福祉施設における食事と栄養
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
14	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (疾病、障害のある子どもへの対応)
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
15	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 (アレルギーのある子どもへの対応)
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする

科目名	保育原理Ⅱ				担当教員	吉田 百加利	
科目番号	BO213A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	選択必修	保育士	選択必修		
目的	保育所と家庭、地域との連携、保育所における相談援助活動の基本原理と実践、保育サービスの評価と苦情解決の方法などについて学び、保育士の資質と任務についての理解を深める。						
概要	保育に関する基礎的事項をふまえ、より専門的な保育方法について学ぶ。						
到達目標	・グループ討議を通して、相談援助活動を含め、保育士の資質と任務について考え、自分の意見を発表する						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること						
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 40% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)フィールドワーク (2)模擬体験活動						
評価方法	(1)課題レポート 30% (2)実習(討論含) 10% (3)学習マナー 60%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	必要に応じて資料を提示、配付する。						
参考図書	必要に応じて参考文献を紹介する。						
学生へのメッセージ	集中講義となります。就職を踏まえ、保育士の資質と任務について自分の意見を発表できることを目指します。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	オリエンテーション
	復習	授業内容を振り返り整理する
2	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	保育の現状
	復習	授業内容を振り返り整理する
3	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	保育の課題
	復習	授業内容を振り返り整理する
4	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	相談援助活動(1) 心構え
	復習	授業内容を振り返り整理する
5	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	相談援助活動(2) 個別
	復習	授業内容を振り返り整理する
6	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	相談援助活動(3) 集団
	復習	授業内容を振り返り整理する
7	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	相談援助活動(4) 地域
	復習	授業内容を振り返り整理する
8	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	フィールドワーク(1) 個別
	復習	授業内容を振り返り整理する
9	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	フィールドワーク(2) 集団
	復習	授業内容を振り返り整理する
10	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	保育における連携(1) 家庭との連携
	復習	授業内容を振り返り整理する
11	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	保育における連携(2) 他機関との連携
	復習	授業内容を振り返り整理する
12	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	保育士の資質と任務(1) 子ども
	復習	授業内容を振り返り整理する
13	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	保育士の資質と任務(2) 保護者
	復習	授業内容を振り返り整理する
14	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	保育士の資質と任務(3) 地域
	復習	授業内容を振り返り整理する
15	予習	配布プリントより授業内容について確認する
	内容	まとめ
	復習	授業内容を振り返り整理する

科目名	発達心理学Ⅱ				担当教員	小野 拳	
科目番号	NT214A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(15)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	<p>・青年期の発達特徴や発達課題, 精神保健等についての理解を深める。 ・カウンセリングや関連する心理学の理論方法について学習し、教育・福祉・保育などの実際場面で人とかかわるために必要な力を身につける。</p>						
概要	<p>“Peer”は「仲間」、「Helper」は「助ける人」であり、ピアヘルパーは直訳すれば仲間を助ける人という意味となる。つまり様々な現場において、多様化する問題に直面する仲間の手助けをすることがピアヘルパーの活動許容範囲となる。ピアヘルパーの資格取得に向け、ピアヘルパーの役割や活動内容、意義について学習する。また、さまざまな演習を通してカウンセリングの技法を学ぶことで、より心の理解ならびに他者理解に基づいた手助けができるよう学習を深める。</p>						
到達目標	<p>・ピアサポートをする上で、知っておくべき基本事項を学習し、さらに応用的な内容についても学習する</p>						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 20% (3)態度 10% (4)実践力 20%						
自己学習	合計8時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)その他(ロールプレイ)						
評価方法	(1)課題 70% (2)学習マナー 30%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパー・ハンドブック』図書文化社 日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパー・ワークブック』図書文化社						
学生へのメッセージ	ピアヘルパー資格取得のために頑張りましょう!						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	既習の心理分野および福祉分野の相談支援に関する授業の内容を確認する
	内容	オリエンテーションと導入、ピアヘルパーの活動と役割
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する
2	予習	前回の授業時に配布された資料を確認する
	内容	カウンセリング概論①(グループエンカウンター)
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する
3	予習	前回の授業時に配布された資料を確認する
	内容	カウンセリング概論②(カウンセリングの理論)
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する
4	予習	前回の授業時に配布された資料を確認する
	内容	カウンセリングスキル①(カウンセリングの技法)
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する
5	予習	前回の授業時に配布された資料を確認する
	内容	カウンセリングスキル②(ロールプレイ)
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する
6	予習	前回の授業時に配布された資料を確認する
	内容	青年期の課題とピアヘルパーの留意点①
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する
7	予習	前回の授業時に配布された資料を確認する
	内容	青年期の課題とピアヘルパーの留意点②
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する
8	予習	前回の授業時に配布された資料を確認する
	内容	まとめ
	復習	配布資料の確認ならびに課題を通して授業内容を確認する

科目名	教育の方法と技術				担当教員	望月 之美	
科目番号	BO215A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	<p>1. これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育(保育)の方法及び実践と技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技術を身につける</p> <p>2. 計画と実践の間で、絶えず省察を行いカリキュラムや保育の計画などについてマネージメントが行えるようにする</p>						
概要	<p>(1)教育(保育)の方法:これからの社会を担う子どもたちに求められる資質・能力を育成するために必要な教育の方法を理解する</p> <p>(2)教育(保育)の技術:教育の目的に適した指導技術を理解し、身に付ける</p> <p>(3)情報機器を活用した効果的な保育や情報活用能力の育成を視野に入れた教材の作成活用に関する基礎的な能力を身に付ける</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義について、学習指導要領・幼稚園教育要領の性格及び位置付け並びに教育課程編成の目的を理解している。 ・教育の流れの中で学習指導要領・幼稚園教育要領の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解し、時代の流れの中でのカリキュラムの変遷を理解している。また、その運用に関しては、教科・領域を横断して教育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 ・年間、期、単元・学期・学年をまたいだ長期的な視野から、また幼児、児童及び生徒や学校・地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。 ・幼稚園教育要領や保育所保育指針に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解し、カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<p>(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること</p> <p>○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること</p> <p>○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること</p>						
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 30% (3)態度 30% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)その他(体験学習)						
評価方法	(1)試験 50% (2)指導計画の立案・教材作成 50%						
課題へのフィードバック方法	授業内で課題を提示し、提出を求める。						
使用テキスト	田中卓也・村松 齊・小島千恵子編著『幼児教育方法論』学文社						
参考図書	関口はつ江編集『自分を活かす保育実習ハンドブック』大学図書出版 文部科学省編『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』フレーベル館						
学生へのメッセージ	<p>子どもが健やかに育つためには、きちんとした計画が必要になります。子どもが主体的に活動するためには、その活動が発展するような人的環境や物的環境が必要だからです。どの幼児が育つ場でも保育者が、どのような子どもに育ってほしいかという願いをこめて、園の方針(理念)を掲げ、保育の全体計画・教育課程、年齢ごとに長期計画(年間指導計画や月案)を作成しています。その計画を具体的な子ども達との生活の中でどのように展開すべきかということについて楽しく学習します。</p> <p>配布資料もたくさん使います。</p>						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	授業の全体計画を見ておく
	内容	オリエンテーション 保育の基本と方法について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
2	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	西洋の教育思想について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
3	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	日本の保育の内容と方法(戦前)について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
4	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	日本の保育の内容と方法(戦後)について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
5	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	教育要領 保育指針 保育要領 について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
6	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	子どもの発達と特性について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
7	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	幼児理解の方法について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
8	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	環境を通じた保育活動について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
9	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	遊びとコミュニケーションについて
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
10	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	メディアの活用について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
11	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	保育計画の意味について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
12	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	指導案作成について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
13	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	発達障害について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
14	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	幼保小連携について
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する
15	予習	進捗状況によりテキスト及び事前配布資料にて指示する
	内容	全体の振り返りとまとめ
	復習	配布したレジメ及びテキストについて当日指示する

科目名	教育相談				担当教員	小野 拳	
科目番号	BO216A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	<p>本授業の目的は、保育における教育相談(相談支援)に必要な臨床心理学の基礎理論および実践手法を習得することである。相談支援に必要な知見を得た上で、教育ならびに保育における相談支援を必要とする状況について、適切かつ効果的に対処する方法について考察する。</p>						
概要	<p>一般的にカウンセリングは心理士(心の専門家)が行うものである。しかし、子どもや保護者に寄り添い、発達支援を行う保育者も、カウンセリングの基本姿勢や技法を活用することができる。本授業では、これまで学んできた『子どもの理解と援助』の理論や方法を基盤に、子どもの心に寄り添う保育者としてのあり方を探求する。さらに、保育者が身につけるべきカウンセリング技法を習得し、保育現場で直面する多様な状況において、子ども理解を基盤にした相談支援の方法を多角的に考察する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談における保育者の基本的な姿勢について理解する。 ・保育現場の様々な状況に対する理解と保育者としての対応について論じることができる。 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 30% (3)態度 10% (4)実践力 10%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)レポート提出 30%						
課題へのフィードバック方法	定期試験及びレポートについては、実施後解説を行う。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	藤原和政・谷口弘一編『学校現場で役立つ教育相談―教師を目指す人のために―』 亜細亜出版 河合隼雄『カウンセリングの実践問題』 誠信書房						
学生へのメッセージ	人は誰でも悩みや不安を抱えながら生きています。しかし誰かが温かく寄り添ってくれることで、心が少し軽くなる場合があります。本授業では、保育者に必要とされるカウンセリングの基本的な姿勢と態度について学んでいきます。子どもの言葉にならない思いや心の声に耳を傾け、その気持ちに寄り添うための考え方と方法を身につけていきましょう！						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	「子どもの理解と援助」で配布された資料を確認し、子ども理解の理論を復習する。
	内容	イントロダクション, 相談支援における子ども理解の意義
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
2	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	カウンセリングとは何か
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
3	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	心の構造
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
4	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	カウンセラーの態度と理論
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
5	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもを理解する視点
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
6	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもを理解する方法(1) アセスメントツール
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
7	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもを理解する方法(2) 観察, 記録, 省察, 評価
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
8	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもの自己理解を進めるための技法
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
9	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	乳幼児への心理的援助
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
10	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	いじめ問題の理解と対応
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
11	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	特別な支援を必要とする子どもの理解と対応
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
12	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	不登園・虐待問題の理解と対応
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
13	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	ストレスの理解と対応
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
14	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	保護者支援のあり方
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
15	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	まとめ
	復習	これまでの配布資料を確認し、本授業の全体像を理解する。

科目名	教育課程・保育の計画と評価				担当教員	清水 健	
科目番号	BO301A1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	教育・保育課程の意義及び編成の方法を理解するとともに、環境をとおしておこなう教育・保育を基本とする幼児教育における教育・保育課程の役割を明らかにし、幼児の心身の健やかな発達が促される教育・保育課程の編成について学ぶ。						
概要	学校教育において教育課程が有する役割・機能・意義を理解する。教育課程編成の基本原則及び学校の教育実践に即した教育課程編成の方法を理解する教科・領域・学年をまたいでカリキュラムを把握し、学校教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各要領、指針を基に編成される教育課程の意義を理解する ・幼児教育・保育における教育・保育課程の役割を理解する ・各学校の実情に合わせたカリキュラム・マネジメントの意義を理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)プレゼンテーション (3)その他(双方向アンケート)						
評価方法	(1)定期試験 50% (2)課題レポート 30% (3)討論・プレゼンテーション 20%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却しフィードバックを行う。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	村松和子・近藤幹生・椛島香代『就学前教育の計画を学ぶ』ななみ書房 保育総合研究会監修『平成30年度施行 新要領・指針サポートブック』世界文化社						
参考図書	加藤敏子・岡田耕一編『保育課程論 保育の基盤の理解と実習への活用』萌文書林						
学生へのメッセージ	幼稚園や保育所、認定こども園での保育・教育の基礎や、幼稚園教育要領、保育所保育指針の変遷などの原理を学ぶため、毎回の授業終了後、学び得たことをまとめたレポートを提出してもらおう予定である。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	オリエンテーション
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育所保育指針・幼稚園教育要領・幼保連携型認定こども園教育・保育要領の意義及び位置付け
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	各指針・要領の改訂の変遷及び主な改訂内容の社会的背景－保育所保育指針－①
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	各指針・要領の改訂の変遷及び主な改訂内容の社会的背景－保育所保育指針－②
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	各指針・要領の改訂の変遷及び主な改訂内容の社会的背景－幼稚園教育要領－①
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	各指針・要領の改訂の変遷及び主な改訂内容の社会的背景－幼稚園教育要領－②
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	各指針・要領の改訂の変遷及び主な改訂内容の社会的背景－幼保連携型認定こども園教育・保育要領－①
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	各指針・要領の改訂の変遷及び主な改訂内容の社会的背景－幼保連携型認定こども園教育・保育要領－②
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育の計画(全体的な計画・教育課程、指導計画)の基本的な考え方、関連性
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育の計画(全体的な計画・教育課程、指導計画)作成上の留意事項①
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育の計画(全体的な計画・教育課程、指導計画)作成上の留意事項②
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育所における保育の記録及び省察
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育所における保育の評価・PDCAサイクル
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育士及び保育所の自己評価・保育の質向上に向けた改善の取り組み
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	まとめ
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	保育内容総論				担当教員	三井 正人	
科目番号	BO302B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	1. 保育所や幼稚園の保育に関する基本的理解をすすめる 2. 保育所保育指針・幼稚園教育要領等の基本を学ぶ 3. 保育課程・教育課程、保育・幼児教育の実践活動について学び、保育が地域と連携した総合性をもつことを知る						
概要	保育所や幼稚園、認定こども園などに関する基礎的な理解。保育所指針、教育要領等の理解。保育課程、教育課程の理解と実践。保育課題と地域との連携について学習する。						
到達目標	・幼稚園教育要領・保育所指針の5領域のねらい、内容、留意事項を理解する ・児童福祉施設をはじめとするさまざまな施設に対する理解を深める ・保育内容に関するさまざまな技術を指導計画として立て、実践の過程で保育が直面する課題について総合的に学ぶ						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 40%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)模擬授業 (2)グループワーク (3)ディスカッション						
評価方法	(1)グループ発表 50% (2)ポートフォリオとして提出 50%						
課題へのフィードバック方法	課題発表の後、質疑応答時間を設け、意見交換、教員のアドバイスをを行う。そののちに再度課題を見直して、ポートフォリオとして提出。						
使用テキスト	中村恵・水田聖一・生田貞子編『新・保育実践を支える 保育内容総論』福村出版 文部科学省編『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館 厚生労働省編『保育所保育指針解説 平成30年3月』フレーベル館 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月』フレーベル館						
参考図書	その他設置基準など関係法令をインターネットより検索						
学生へのメッセージ	保育内容のまとめです。5領域をはじめ、関係法令、子どもをめぐる少子化などの様々な問題をインターネットで検索して調べ、パワーポイントでまとめて発表します。さらに学んだ成果をポートフォリオとしてまとめます。自ら子育ての専門家になるための様々な疑問を話し合える科目にしたいと思います。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	教育要領、保育所指針、保育教育要領を読む
	内容	ガイダンス 授業のねらい計画
	復習	教育要領、保育所指針、保育教育要領を確認する
2	予習	学力の3要素、育てたい子どもの姿がどのように要領や指針などに書かれているか調べる
	内容	幼稚園・保育園の保育内容 教育要領と保育指針 5領域
	復習	要領や指針の目指す育てたい子どもの姿などを確認する
3	予習	幼稚園・保育園・認定こども園・児童福祉施設について理解する
	内容	さまざまな保育の形態 幼稚園 認定子ども園 保育所 児童福祉施設 グループ研究①
	復習	各施設を担当に分け、それぞれの施設について、根拠となる法令、設置の基準を調べる
4	予習	各施設を担当に分け、それぞれの施設について、根拠となる法令、設置の基準をインターネットで調べる
	内容	さまざまな保育の形態 幼稚園 認定子ども園 保育所 児童福祉施設 グループ研究②
	復習	それぞれの施設についてパワーポイントにまとめる
5	予習	それぞれの施設についてパワーポイントにまとめる
	内容	さまざまな保育の形態 幼稚園 認定子ども園 保育所 児童福祉施設 グループ研究③
	復習	それぞれの施設についてパワーポイントにまとめる/ポートフォリオとしてまとめる
6	予習	それぞれの施設についてパワーポイントにまとめる
	内容	グループ研究発表 質問・意見交換①
	復習	発表された各施設について、疑問点などに回答できるようにする
7	予習	発表された各施設について、疑問点などに回答できるようにするためパワーポイントで書き加える
	内容	グループ研究発表 質問・意見交換②
	復習	全体の施設について理解を深めるため一覧にして掲示する/ポートフォリオとしてまとめる
8	予習	指導案の書き方について事前にしよしきなど理解しておく
	内容	保育技術の理解
	復習	指導案の書き方で注意事項を確認する
9	予習	実際に指導案をもとにグループで模擬授業などを行う準備をする
	内容	保育技術の実践/グループ
	復習	指導案を書く前に事前に保育技術を行ってみる
10	予習	保育技術を盛り込んだ指導案の作成
	内容	保育計画の理解
	復習	指導案作成の際の留意事項を確認しながら指導案の作成
11	予習	指導案をもとに子ども分だけの教材を用意する
	内容	保育の指導法理解
	復習	模擬授業などを行った際の反省点などをもとに完成版の指導案を仕上げる/ポートフォリオとしてまとめる
12	予習	現代の日本で課題となっている保育、福祉の諸課題を見出す
	内容	保育課題について 少子化高齢化 ① グループ研究・発表
	復習	諸課題をパワーポイントにまとめる
13	予習	諸課題をパワーポイントにまとめる
	内容	保育課題について 家族・子育て ② グループ研究・発表
	復習	発表後に全体を振り返り、パワーポイントにまとめ、一覧できるよう掲示する/ポートフォリオとしてまとめる
14	予習	実際のボランティア活動を前提に指導計画を立てる
	内容	地域との連携
	復習	発表後、反省をもとに指導計画を見直す ポートフォリオとしてネット上に公開する
15	予習	発表後、反省をもとに指導計画を見直す ポートフォリオとしてネット上に公開する
	内容	まとめ
	復習	掲示された印刷物、ポートフォリオとしてまとめられたものを振り返る

科目名	保育内容演習(環境)				担当教員	吉田 百加利	
科目番号	BO303B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	保育者として、発達過程に即して子どもを理解することと、総合的に指導・援助が行えるような保育方法の実践的な修得を目指す。						
概要	領域「環境」のねらいと内容を踏まえ、幼児が様々な環境と関わりながら成長を遂げるためにどのような援助を行えばよいのか、子どもの現況を把握し、また、子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用した指導方法を身につけることを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「環境」と他の領域との関連性を理解する ・身近な事物や自然と子どものかかわりを援助する指導案を書くことができる ・教育保育の全体構造の理解に基づいて総合的に指導援助が行えるよう実践的な方法(子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用を含む。)の習得を目指す 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 40% (3)態度 20% (4)実践力 20%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)ディスカッション・ディベート (2)プレゼンテーション (3)その他						
評価方法	(1)定期試験 60% (2)課題 20% (3)発表 20%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	岡 健『演習 保育内容 環境 基礎的事項の理解と指導法』建帛社						
参考図書	授業中に適宜資料を配布する。						
学生へのメッセージ	意欲的に学ぶ姿勢を期待します。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	「環境」のねらい、内容、内容の取扱いへの理解
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児に対する環境教育の指導方法 物を扱う
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	園の実践事例から学ぶ シャボン玉、風車、紙飛行機、虫眼鏡、コマ、磁石、光・影
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児に対する環境教育の指導方法 生物を知る
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	園の実践事例から学ぶ 飼育と栽培、ピオトープ
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児に対する環境教育の指導方法 大きな自然を感じる
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	園の実践事例から学ぶ 野外活動、園外保育
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児に対する環境教育の指導方法 文字や標識
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼児に対する環境教育の指導方法 数量や図形
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	園の実践事例から学ぶ 保育室内環境構成
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	安全対策 自然への配慮
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	指導案の書き方、作成
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	指導案にもとづく模擬保育の実践
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	自己評価の作成と評価の生かし方
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	小学校との連携
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	保育内容演習(健康)				担当教員	井上 聖子	
科目番号	BO304B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	乳幼児期は、生涯にわたる心身の健康の基礎を培う重要な時期である。このことを理解するとともに、乳幼児期の心身の発達や発育について学び、健康で安全に過ごせるための援助の仕方について学ぶ事を目的とする。						
概要	幼稚園教育要領の中での領域「健康」のねらいや内容について理解した上、幼児が主体的に心身の健康と安全な生活を送るための指導の在り方について考察する。また、子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用した模擬授業を通じて、具体的な指導場面における教師のかかわり方や評価の仕方を身に付ける。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「健康」のねらいと内容について理解するとともに、その背景にある専門領域との関連性について理解を深める ・幼児自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うべき子どもの体験との関連を考慮した情報機器及び教材を活用した指導方法や保育を構想する力を身に付ける ・指導場面における教師のかかわり方の評価について理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 30% (3)態度 20% (4)実践力 30%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)ディスカッション・ディベート (2)PBL (3)模擬授業・保育技術発表						
評価方法	(1)定期試験 60% (2)課題 20% (3)発表 20%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	河邊貴子編著『演習 保育内容 健康』建帛社						
参考図書	『幼稚園教育要領』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』『保育所保育指針』 日本保育園保健協議会編『保育保健の基礎知識』日本小児医事出版社 井上勝子編著『運動遊び』建帛社						
学生へのメッセージ	生涯の健康の基礎となる乳幼児期の健康について学ぶことは、保育者として養育者として、とても重要なことです。現代の子どもたちの健康に関心をもつとともに、自分自身の健康にも関心を持ち、意欲的に授業に臨んで下さい。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	幼稚園教育要領の基本の理解と領域「健康」のねらいについて
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
2	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	領域「健康」の内容について
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
3	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	領域「健康」の内容に即した幼児の活動と具体的な指導について ー基本的な生活習慣(食事・排泄・睡眠)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
4	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	領域「健康」の内容に即した幼児の活動と具体的な指導について ー基本的な生活習慣(清潔・衣服の着脱)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
5	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	領域「健康」の内容に即した幼児の活動と指導上の留意点について ー運動遊び
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
6	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	領域「健康」の内容に即した幼児の活動における評価について ー運動遊び
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
7	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	領域「健康」における内容と小学校の教科等の関連性について
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
8	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構成の重要性について
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
9	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	保育を想定した指導案の作成方法につて
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
10	予習	事前に配布する資料をもとに、発表の課題について検討してくること
	内容	模擬授業とその振り返り ー保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(1)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
11	予習	発表の課題について調べておくこと
	内容	模擬授業とその振り返り ー保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(2)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
12	予習	発表の課題について調べておくこと
	内容	模擬授業とその振り返り ー保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(3)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
13	予習	発表の課題について調べておくこと
	内容	模擬授業とその振り返り ー保育構想と改善する視点を身に付けるー 学生発表グループ(4)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
14	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	領域「健康」の特性に応じた現代の課題と保育実践について
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
15	予習	今までの学びを振り返り、疑問点や理解できなかった点をまとめておくこと
	内容	領域「健康」のまとめー幼児教育における領域「健康」の在り方
	復習	今までの学びを保育者として役立てられるようまとめておくこと

科目名	保育内容演習(言葉)				担当教員	望月 之美	
科目番号	BO305B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・前期「子どもと言葉」における知識、技術を、実践の場で生かせるよう、さらなる向上をめざす ・子どもの言葉の発達を促すための文化財を使った援助の方法について実践を通じて工夫し、上達をめざす ・各発達段階に応じ、さまざまな児童文化財を使った指導計画が立てられるよう多くの文化財に接し、それぞれの文化財の活用の仕方を考え、またより効果的に使う技術を習得する 						
概要	<p>絵本、紙芝居、パネルシアター等々、さまざまな児童文化財を使った「言葉」の表現技術を習得し、それぞれの文化財の特徴を体験によって知る。また、各発達段階の特徴を整理し、対象年齢を設定し、それぞれの場面で「言葉」の発達支援に適した児童文化財を使った指導計画が立てられるよう取り組む。グループワークを取り入れながら発表の場を設定し、鑑賞し合いながら、技術や知見の向上をめざす。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児向けの文化財への理解を深める ・子どもの発達段階に応じ、成長を促すことに配慮した「お話ライブ」の計画を作り、実践する ・効果的に伝えるための技術(話術・演出・表現力)を習得する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
		(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 40% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)PBL (3)保育技術発表						
評価方法	(1)授業・発表への取り組み 60% (2)課題に対する達成度 40%						
課題へのフィードバック方法	課題は添削のうえ返却する。発表作品は相互批評をふまえて評価する。						
使用テキスト	内藤知美・新井美保子編著『コンパス 保育内容 言葉[第2版]』建帛社						
参考図書	『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『保育所保育指針』						
学生へのメッセージ	<p>子ども達の世界には、大人が子どもたちのために用意した児童文化財(遊び・お話・玩具・図書・紙芝居・人形劇・音楽・映画・テレビ・ビデオ・デジタル映像)や、子どもが自分の生活をより楽しむためにつくり出した文化財があります。それらはすべて「言葉」と関連しています。みなさんもいくつかの民話やわらべ歌、手遊び歌などを思い出すことでしょう。</p> <p>遊びを中心とした幼児の世界では、まず愛情をもって接してくれる大人との応答的な関りがあること、温かな言葉に包まれて過ごすことが大切です。そのようにして、子どもたちは、日本語としての「言葉」を獲得するのです。では、なぜ、教材としての児童文化財があるのでしょうか。その存在意味などについて一緒に学んでいきたいと思ひます。</p>						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	前期に学修した関連科目「子どもと言葉」で学んだ内容を復習しておく。
	内容	発達段階と言葉の習得過程について
	復習	授業内容を振り返り、ノートを整理しながら、不明な点はないか確認する。
2	予習	設定した発達段階に応じた絵本を選び、表現の仕方を考え、練習する。
	内容	さまざまな児童文化財について(絵本編)
	復習	振り返りシートを使って、発表内容の改善点を考える。
3	予習	設定した発達段階に応じた紙芝居を選び、表現の仕方を考え、練習する。
	内容	さまざまな児童文化財について(紙芝居編)
	復習	振り返りシートを使って、発表内容の改善点を考える。
4	予習	設定した発達段階に応じた児童文化財を選び、表現の仕方を考え、練習する。
	内容	さまざまな児童文化財について(その他) ※ペアワーク等にて練習する
	復習	振り返りシートを使って、発表内容の改善点を考える。
5	予習	前時の練習内容を検討し、発表に向けて練習する。
	内容	さまざまな児童文化財について(その他) ※発表
	復習	振り返りシートを使って、発表内容の改善点を考える。
6	予習	前時の練習内容を検討し、指導案作りに向けた準備をする。
	内容	児童文化財を使った指導案の作成
	復習	指導案の内容を見直し、検討する。
7	予習	発達段階や子どもの母語等を復習し、「お話し会」の企画立案について考える。
	内容	「お話し会」の企画案をつくる
	復習	授業内容をふまえ、企画案を完成させる。
8	予習	「お話し会」の実施に必要な事項について調べる。
	内容	「お話し会」の実施に向けたグループワーク
	復習	グループ内での話し合いの結果をふまえ、発表に向けた準備に取り組む。
9	予習	「お話し会」実施に向けた練習に取り組む。
	内容	「お話し会」企画を実践する ※グループごとに発表する
	復習	実践を振り返り、改善点を整理し、次回に生かせるようまとめる。
10	予習	お気に入りの子ども向けの歌について調べておく。
	内容	子ども向けの「歌詞」の特徴について
	復習	授業内容をふまえ、あらためて子ども向けの歌の歌詞の構成などを確認する。
11	予習	子ども向けの歌作りに向けて、さまざまな歌について調べておく。
	内容	子ども向けの「歌」作り(歌詞編) ※個人作成 → グループ編成
	復習	グループ内で調整して作成した曲の歌詞につけるメロディについて作成してみる。
12	予習	グループ内で考えた曲を共有しておく。
	内容	子ども向けの「歌」作り(曲編)
	復習	作成した曲の表現方法等について研究する。
13	予習	子どもでも踊れる簡単なダンスについて調べておく。
	内容	子ども向けの「歌」に合わせたダンス創作
	復習	発表内容の改善点を整理し、改善策を考える。
14	予習	保育現場で想定される「言葉」のトラブルについて調べておく。
	内容	子どもに声かけをする際の「言葉」選びについて
	復習	授業内容をふまえ、実践の場を想定した練習を重ねる。
15	予習	「子どもと言葉」の関係性や特徴を整理し、不明な点がないかどうか、確認する。
	内容	まとめ
	復習	学修内容を振り返り、ノートなどに整理する。

科目名	保育内容演習(人間関係)				担当教員	小野 拳	
科目番号	BO306B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	本授業の目的は、「子どもと人間関係」で学んだ理論や基礎を応用し、保育者として子どもの他者と関わる力を育む援助・指導法を、実践を通じて身につけることである。また、保育場面で求められる支援上の留意点についても理解を深め、現場で適切に活用できる視点を養うことを目指す。						
概要	本授業では、これまでに学んだ保育や発達に関する知識や経験を活かし、保育場面での子どもたちの多様な関わりや、他者と関わる上で重要となる心の発達のプロセスを理解することを目指す。また、既習の「子どもと人間関係」の知識や保育所保育指針ならびに幼稚園教育要領における領域「人間関係」に関する理解を基盤に、子どもの他者と関わる力を育むための援助や指導の方法、保育者としての留意点等について、実践的な視点から考察を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの他者との関わりやの拡がりについて、乳幼児期の発達特徴や環境要因等に基づき説明ができる。 ・子どもの他者と関わる力を育むための具体的な援助や指導の方法を自ら考案し、保育者として実践することができる。 ・既習の知識や経験等から多様な子どもの姿を仮定し、子どもの他者と関わる力を育むために必要な保育者としての基本的な姿勢や支援上の留意点について自ら考察することができる。 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 50%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)模擬授業・保育技術発表						
評価方法	(1)定期試験 40% (2)レポート 20% (3)模擬保育 40%						
課題へのフィードバック方法	定期試験・レポートについて、実施後解説を行う。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	近喰晴子・小泉裕子『保育内容「人間関係」と指導法—考える・調べる・学び合う—』中央法規出版 浅井拓久也編『保育内容指導法「人間関係」—確かな実践力を身につける—』萌文書林						
学生へのメッセージ	皆さんも、いつしか「教わる立場」から「教える立場」へと変わっていくでしょう。本授業では、保育内容における人間関係の知識や理論を再学習するだけでなく、それらをグループ討議や模擬保育といった実践を通して、さらに深めていきます。これまで学んできたことを活用し、「もし自分が保育者だったらどうするか？」という視点を大切にしながらか授業に取り組んでください。保育にも教育にも「正解」はありません。失敗を恐れず、自分の思い描く保育をこの授業で実践していきましょう！						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	既習の「子どもと人間関係」の資料を確認し、保育内容の人間関係の内容を復習する。
	内容	保育の基本と人間関係—保育所保育指針・幼稚園教育要領における領域「人間関係」の理解—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
2	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	保育における人間関係の育み
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
3	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	保育環境としての保育者のあるべき姿
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
4	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	0歳以上3歳未満児の子どもの人間関係の発達, ケーススタディ【領域「人間関係」における乳児, 1歳以上3歳未満児のねらいと内容】
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
5	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	3歳以上児の子どもの人間関係の発達, ケーススタディ【領域「人間関係」における3歳以上児のねらいと内容】
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
6	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	遊びと人間関係の発達, ケーススタディ
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
7	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	子どもの人と関わる力を育む保育内容(1) 指導計画, 教材研究
	復習	既習の知識を踏まえ模擬保育の指導案を考案する
8	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	特別な配慮を必要とする子どもの保育, ケーススタディ
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
9	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	乳幼児期の人との関わりと社会性の発達口
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
10	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	領域『人間関係』と他領域の関連, 事例検討
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
11	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	領域『人間関係』の現代的課題と動向
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
12	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	領域『人間関係』の展開と小学校教育—接続期における人と関わるカー
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
13	予習	実施する模擬保育の指導案の内容を確認する
	内容	子どもの人と関わる力を育む保育内容(2) 模擬保育①
	復習	教科担当や学生からの模擬保育のフィードバックを活用し、反省点や課題点の克服方法について考える
14	予習	実施する模擬保育の指導案の内容を確認する
	内容	子どもの人と関わる力を育む保育内容(3) 模擬保育②
	復習	教科担当や学生からの模擬保育のフィードバックを活用し、反省点や課題点の克服方法について考える
15	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	まとめ 領域『人間関係』と『主体』の再考
	復習	これまでの配布資料を確認し、本授業の全体像を理解する。

科目名	保育内容演習(表現Ⅰ)				担当教員	田川 智美	
科目番号	BO307B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	表現領域の音楽について、意義やねらい、また内容や留意事項について理解させる。保育実践に向けた、子どもの表現の仕方、活動展開、指導方法を学び、子どもの表現についての認識と理解を深める。						
概要	領域「表現」の音楽について意義やねらい、また内容や指導上の留意点について理解する。保育実践に向けて、子どもの表現の仕方、活動展開、体験との関連を考慮し、情報機器及び教材を活用した指導法を学び、子どもの表現についての認識と理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」を音楽的な視野から理解する ・様々な表現活動を通して子どもの発達に応じた指導援助と実践力を習得する(情報機器及び教材の活用を含む。) ・子どもの体験との関連を考慮した環境構成を学ぶ 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 30% (3)態度 10% (4)実践力 40%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)その他						
評価方法	(1)授業への取り組み 60% (2)発表 40%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。						
使用テキスト	阿部直美編著『0～5歳児 保育の手あそび』ひかりのくに 板東貴余子編著『こどもの歌ベストテン』ドレミ楽譜出版社						
参考図書	長谷川久美子編著『保育のうた・こどものうた120』シンコーミュージック・エンタテイメント 全日本リトミック音楽教育研究会編『ダルクローズシステムによるリトミック指導1、2、3』全音楽譜出版社 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
学生へのメッセージ	責任実習に役立つ実践的な学習に取り組みます。音楽で表現する楽しさとその指導法をしっかりと学び、積極的に取り組んで下さい。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	子どもの表現の仕方(映像を用いる)の特徴と領域「表現」の特徴について
	復習	学習内容を振り返る
2	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	年齢にあった音楽表現について
	復習	学習内容を振り返る
3	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	リトミックについての基礎知識 理論と実践 ……①
	復習	学習内容を振り返る
4	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	リトミックについての基礎知識 理論と実践 ……②
	復習	学習内容を振り返る
5	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	幼児曲の歌唱 楽しく表現しながら歌う歌唱法について……①
	復習	学習内容を振り返る
6	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	幼児曲の歌唱 楽しく表現しながら歌う歌唱法について……②
	復習	学習内容を振り返る
7	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	幼児曲の歌唱 楽しく表現しながら歌う歌唱法について……③
	復習	学習内容を振り返る
8	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	音楽あそび(リズム) 年齢別の音楽あそび
	復習	学習内容を振り返る
9	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	手遊び 年齢ごとの指導法について……①
	復習	学習内容を振り返る
10	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	手遊び 年齢ごとの指導法について……②
	復習	学習内容を振り返る
11	予習	予めテキストを読んでおく
	内容	手遊び 年齢ごとの指導法について……③
	復習	学習内容を振り返る
12	予習	各自指導案の内容を考えておく
	内容	リトミック、歌唱、音楽あそび、手遊びを用いた指導案の作成(グループ研究)
	復習	指導案についての理解を深める
13	予習	指導案作成に取り組む
	内容	作成した指導案の発表と改善点について
	復習	指導案の問題点について改善する
14	予習	指導案発表の練習をする
	内容	作成した指導案の発表と改善点について
	復習	指導案の問題点について改善する
15	予習	これまでの学習をまとめる
	内容	完成させた指導案の提出と領域「表現」のまとめ
	復習	これまでの学習の振り返りまとめる

科目名	保育内容演習(表現Ⅱ)				担当教員	三井 正人	
科目番号	BO308B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	表現領域の造形について、意義やねらい、また内容や留意事項について理解させる。保育実践に向けた、子どもの表現の仕方、活動展開、指導方法を学び、子どもの表現についての認識と理解を深める。						
概要	領域「表現」の造形について意義やねらい、また内容や指導上の留意点について理解する。保育実践に向けて、子どもの表現の仕方、活動展開、体験との関連を考慮し、情報機器及び教材を活用した指導法を学び、子どもの表現についての認識と理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「表現」を造形的な視点から理解する ・様々な表現活動を通して子どもの発達に応じた指導援助と実践力を学ぶ(情報機器及び教材の活用を含む。) ・子どものと体験との関連を考慮した環境構成を学ぶ 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 30% (3)態度 20% (4)実践力 30%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)模擬授業 (2)グループワーク (3)ディスカッション						
評価方法	(1)課題提出 70% (2)発表 30%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。						
使用テキスト	島田由紀子・駒久美子編著『コンパス 保育内容 表現』建帛社						
参考図書	『幼稚園教育要領』 『保育所保育指針』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
学生へのメッセージ	責任実習に役立つ実践的な学習に取り組めます。造形で表現する楽しさとその指導法をしっかり学び、積極的に取り組んで下さい。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	子どもの表現についてインターネットなどを活用し調べておく
	内容	子どもの表現の仕方(映像を用いる)の特徴と領域「表現」の特徴について
	復習	子どもの絵の発達について理解する
2	予習	発達過程の諸理論に目を通す
	内容	年齢にあった造形表現について
	復習	発達に応じて子どものできることなどを確認する
3	予習	0歳児～の体の発達について調べる
	内容	子どもの造形についての基礎知識 理論と実践 3、4歳児・・・①
	復習	0～2歳、3歳、4歳時の年齢に合わせた教材を具体的に考える
4	予習	0～2歳、3歳、4歳時の年齢に合わせた教材を用意する
	内容	子どもの造形についての基礎知識 理論と実践 5歳児・・・②
	復習	5歳時の年齢に合わせた教材を具体的に考える
5	予習	指導案の書式を用意し確認する/先輩の資料をポートフォリオから確認
	内容	楽しく表現するための指導法について(子どもの姿、ねらい)・・・①
	復習	子どもの発達と発達に合わせたねらいを造形教材を考えながら用意する
6	予習	教材材料を用意する
	内容	楽しく表現するための指導法について(導入、環境構成)・・・②
	復習	導入のために手遊び、ペープサートなどを用意する
7	予習	展開のための教材を実際に作製し、注意点をまとめる
	内容	楽しく表現するための指導法について(展開)・・・③
	復習	展開の図の描き方、言葉がけ、多様な子どもへの対応などを指導案に書き込む
8	予習	指導案を完成させる
	内容	楽しく表現するための指導法について(まとめ)・・・④
	復習	発達を踏まえた環境構成、ねらい、導入、展開、まとめに至る指導案の構成を復習する
9	予習	グループごとの指導案作成、準備
	内容	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について 指導計画の立案(グループごと)
	復習	実際に教材研究を行う
10	予習	グループごとの指導案作成、準備
	内容	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について グループごとに模擬授業発表・・・① 反省、振り返り
	復習	反省の内容を指導案に活かし完成させるーポートフォリオ/行った模擬授業をビデオ撮影し振り返る
11	予習	グループごとの指導案作成、準備
	内容	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について グループごとに模擬授業発表・・・② 反省、振り返り
	復習	反省の内容を指導案に活かし完成させるーポートフォリオ/行った模擬授業をビデオ撮影し振り返る
12	予習	グループごとの指導案作成、準備
	内容	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について グループごとに模擬授業発表・・・③ 反省、振り返り
	復習	反省の内容を指導案に活かし完成させるーポートフォリオ/行った模擬授業をビデオ撮影し振り返る
13	予習	グループごとの指導案作成、準備
	内容	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について グループごとに模擬授業発表・・・④ 反省、振り返り
	復習	反省の内容を指導案に活かし完成させるーポートフォリオ/行った模擬授業をビデオ撮影し振り返る
14	予習	グループごとの指導案作成、準備
	内容	手遊び 年齢ごとの手遊びの指導法について グループごとに模擬授業発表・・・⑤ 反省、振り返り
	復習	反省の内容を指導案に活かし完成させる/行った模擬授業をビデオ撮影し振り返る
15	予習	指導案の書き方の注意点をまとめておく
	内容	完成させた指導案の提出と領域「表現」のまとめ
	復習	指導案の書き方をルーブリック表にまとめる

科目名	子どもと環境				担当教員	吉田 百加利	
科目番号	BO309B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	領域「環境」の指導に関連する幼児を取り巻く環境や、幼児と環境との関わりについての専門的事項における感性を養い、知識・技能を身に付ける。						
概要	子どもたちの学びや育ちを支える専門家となるために、映像等の視覚的教材を活用し、多くの具体的な事例から環境による教育に関する学習を深めることを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児を取り巻く環境と、幼児の発達にとっての意義を理解する ・幼児期の思考・科学的概念の発達を理解する ・幼児期の標識・文字等、情報・施設との関りの発達を理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 40%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)ディスカッション・ディベート (2)その他						
評価方法	(1)定期試験 60% (2)課題 20% (3)授業マナー 20%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	岡 健『演習 保育内容 環境 基礎的事項の理解と指導法』建帛社						
参考図書	授業中に適宜資料を配布する						
学生へのメッセージ	意欲的に学ぶ姿勢を期待します。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	「環境」を捉える
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳幼児の発達と環境
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	領域「環境」のねらい、内容および評価
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	身近な生き物や植物に親しみをもって関わる その1
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	身近な生き物や植物に親しみをもって関わる その2
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	季節による生活や自然の変化に気づく その1
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	季節による生活や自然の変化に気づく その2
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	様々な物や道具に触れその性質や仕組みに興味や関心をもつ
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	生活の中で数量や図形などに関心をもつ
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	生活の中で標識や文字などに関心をもつ
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	生活に関係の深い情報や施設などに興味・関心をもつ その1
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	生活に関係の深い情報や施設などに興味・関心をもつ その2
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	生活の中で文化や伝統、行事などに親しむ その1
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	生活の中で文化や伝統、行事などに親しむ その2
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育者の役割
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	子どもと健康				担当教員	井上 聖子	
科目番号	BO310B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	領域「健康」の指導に関する幼児の心身の発達、基本的な生活習慣、安全な生活、運動発達などの専門的事項についての知識を身に着ける。						
概要	幼児における心身の健康について専門的な知識を身に付ける。また幼児の健康に関するデータを分析・検討を行い、課題を見つけ、幼児の健康についての理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の健康課題と健康の発達の意味を理解する ・幼児期の体の諸機能の発達と生活習慣の形成を理解する ・安全な生活と病気の予防を理解する 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 30% (2)技能 25% (3)態度 20% (4)実践力 25%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)ディスカッション・ディベート (2)模擬授業・保育技術発表						
評価方法	(1)定期試験 80% (2)発表 20%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	河邊貴子編著『演習 保育内容 健康』建帛社						
参考図書	井上勝子・高原和子編著『運動遊び』建帛社						
学生へのメッセージ	保育者は、子どもたちが楽しい園生活を送るため、子どもの健康や安全面への配慮を欠かすことはできません。そのため、子どもの健康を守るための視点を日頃から持つようして下さい。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児の健康とは
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
2	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児の発達の理解(1) —身体的な発達
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
3	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児の発達の理解(2) —心の発達
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
4	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児の発達の理解(3) —運動機能の発達
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
5	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	幼児の体力・運動能力に関する現代の問題
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
6	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児期の発達と生活習慣の形成との関わり
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
7	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児の事故の原因と特徴(1)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
8	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児の事故の原因と特徴(2) —グループ討議
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
9	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児期の安全教育とケガの予防(1)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
10	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児期の安全教育とケガの予防(2) —安全教育・安全面での配慮について 学生発表
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
11	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児期での病気の特徴とその予防について(1)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
12	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	乳幼児期での病気の特徴とその予防について(2)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
13	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	運動遊びの意義と多様な動きの獲得
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
14	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	運動遊びの環境構成と指導法
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
15	予習	今までの学びを振り返り課題点や理解できなかった点についてまとめておくこと
	内容	乳幼児の運動指針について
	復習	今までの学びを保育者として役立てられるようまとめておくこと

科目名	子どもと言葉				担当教員	望月 之美	
科目番号	BO311B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちはいかにして言葉を獲得し、考え、表現に漕ぎつけていくか。言葉の発達過程を理解する ・保育における5領域の観点から全体的に子ども理解を深め、とくに言葉領域における支援の仕方を考える ・日本の幼児教育において課題となっている諸課題(例:外国にルーツをもつ子どもたち)にふれ、子ども一人ひとりの言葉の発達を保育者はいかにして促していけるかを考え、言葉に関わる文化財について研究する 						
概要	<p>「言葉」とは何か。そして、私たちはその言葉をどのようにして身につけてきたのか。「言葉」のもつ機能、「言葉」によるコミュニケーション、それにより培われていくアイデンティティ。そうした「言葉」に関する基本的な知識をまず講義し、各発達段階における「言葉」の習得状況やプロセスを確認しながら、適切な児童文化財(絵本、紙芝居等)を使って発達を促すことのできる知識、技術の習得をめざす。また、日本語を母語としない子どもへの対応についても理解を深め、指導計画等を立案する。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・領域「言葉」の内容を理解し、実践に生かせるよう学びを深める ・「言葉」の本質について考え、「豊かな言葉の世界」へのイメージを描き、その世界へ近づくための言葉の習得のプロセスを理解する ・「言葉」の獲得において重要な役割を果たす児童文化財について学び、それぞれの特性を知って、それらを活用した指導計画を立案する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 20% (3)態度 10% (4)実践力 10%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)調査学習 (2)グループワーク (3)ディスカッション						
評価方法	(1)定期試験 80% (2)課題に対する達成度 20%						
課題へのフィードバック方法	課題は可能な限り添削等を行い、返却する。筆記試験については模範解答を明示する。						
使用テキスト	内藤知美・新井美保子編著『コンパス 保育内容 言葉[第2版]』建帛社						
参考図書	『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 『保育所保育指針』						
学生へのメッセージ	子ども達が生活の中から模倣していろいろな言葉を獲得するのをインフォーマル教育と言います。それは無計画で予期しなかった状況の中で出会っていくものです。そして発達年齢に沿って、環境を通して日々著しく成長・発達を遂げていきます。そのような子どもの言葉の育ちを支えるための基礎的な知識を実際の場面を想定しながら考えていきましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	シラバスを理解し、テキスト・第1章をよく読んで内容を理解する。
	内容	「言葉」とは何か ―言葉について考える―
	復習	授業内容をふまえ、ノートに各自必要に応じて補足を加え、整える。
2	予習	テキスト・第2章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	保育における言葉の発達 ―発達段階に応じた言葉の育み方について考える―
	復習	授業内容をふまえ、ノートに各自必要に応じて補足を加え、整える。
3	予習	テキスト・第3章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	0歳児の言葉 ―言葉を育むための環境を知る― ※グループワークにて理解を深めるための演習を行う
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
4	予習	テキスト・第4章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	1歳児の言葉 ―言葉の獲得プロセスを知る― ※グループワークにて理解を深めるための演習を行う
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
5	予習	テキスト・第5章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	2歳児の言葉―「語彙爆発」の時期における適切な対応― ※グループワークにて理解を深めるための演習を行う
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
6	予習	テキスト・第6章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	3歳児の言葉―遊びを通じてのコミュニケーション、言葉の育て方― ※グループワークにて理解を深めるための演習を行う
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
7	予習	テキスト・第7章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	4歳児の言葉―子どもの言葉の世界を広げるために― ※グループワークにて理解を深めるための演習を行う
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
8	予習	テキスト・第8章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	5歳児の言葉 ―文学への興味・関心を育てる― ※グループワークにて理解を深めるための演習を行う
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
9	予習	テキスト・第9章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	領域「言葉」のねらい及び内容を理解する
	復習	テキストおよび参考資料等を確認し、知識の習得をはかる。
10	予習	テキスト・第10章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	気になる子どもに向けての、言葉の発達のサポート ※グループワークにて理解を深めるための演習を行う
	復習	グループワークでの演習内容を確認し、さまざまなケースを想定した対応について考える。
11	予習	テキスト・第11章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	日本語を母語としない子どもの言葉の発達を考える
	復習	授業を振り返り、知識や技術の定着をはかる。
12	予習	テキスト・第12章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	言葉の発達を促す児童文化財(0歳～3歳) ※グループごとに発表する
	復習	児童文化財についてさらに幅広く調べ、さまざまな文化財に接する。
13	予習	テキスト・第13章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	言葉の発達を促す児童文化財(3歳～6歳) ※グループごとに発表する
	復習	児童文化財についてさらに幅広く調べ、さまざまな文化財に接する。
14	予習	テキスト・第14章、第15章をよく読んで内容を理解しておく。
	内容	言葉を育てる指導と指導計画
	復習	授業内容を振り返り、指導案を作成する。
15	予習	指導案の提出に向けて準備する。
	内容	まとめ(指導案の提出)
	復習	前期授業内容を確認し、本授業をより実践的に学ぶ後期授業に向けて準備する。

科目名	子どもと人間関係				担当教員	小野 拳	
科目番号	BO312B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	本授業の目的は保育内容の人間関係の基礎理論について理解することである。子どもの他者と関わる力を育むための保育者としての援助や指導を行えるよう、子どもの人とかかわりに関する知識や理論について発達的特徴や心理的特徴、子どもを取り巻く環境要因等から包括的に理解する。						
概要	人とかかわる力は、子どもの発達とともに少しずつ生まれていくものである。乳児期の親子の絆から始まり、友だちとの出会い、集団での関わりへと、子どもの人間関係は広がっていく。本授業では、発達心理学的視点から子どもの人間関係の発達過程を理解し、それを支える環境や保育実践について学ぶものである。保育の様々な場面における子どもたちの姿を通して、人とかかわる力を育む保育者の役割について考察を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育内容における人間関係の基礎理論について説明できる ・各発達段階における発達特徴と人とかかわりの拡がりの関連について説明ができる ・子どもの人間関係の拡大に伴う保育者としての支援方法や在り方について論じることができる 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 30% (3)態度 10% (4)実践力 30%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)レポート 30%						
課題へのフィードバック方法	定期試験・レポートについて、実施後解説を行う。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	吉川晴美・関口はつ江・義永睦子『保育内容「人間関係」―「共に育つ・創る」をめざして―』ミネルヴァ書房 無藤隆・古賀松香『主体としての子どもが育つ 保育内容「人間関係」』北大路書房						
学生へのメッセージ	保育園や幼稚園、認定こども園で子どもたちはさまざまな環境に出会い、その中で自分や他者の思いに葛藤しながら、少しずつ人と関わる力を育んでいきます。この授業では、そうした環境や発達の中で育まれる「他者とかわる力」について学びます。子どもがどのように人と関わり、自己を調整していくのかを知り、その力を育むために保育者がどんな姿勢を持つべきか、一緒に探求していきましょう！						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	特になし
	内容	イントロダクション, 現代社会を生きる子どもたち
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
2	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	幼児教育の基本
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
3	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	環境の中で育つ子どもたち
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
4	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	領域「人間関係」のねらいと内容
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
5	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	保育者の様々な役割
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
6	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	遊びの中での人とのかかわりと非認知能力
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
7	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	0歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
8	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	1,2歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
9	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	3,4,5歳児における人とのかかわりの発達と保育者の援助
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
10	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	他者との関わりから人間関係を考える(1) 自立心を育む
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
11	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	他者との関わりから人間関係を考える(2) 協同性を育む
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
12	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	他者との関わりから人間関係を考える(3) 道徳性、規範意識を育む
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
13	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	他者との関わりから人間関係を考える(4) 向社会性(思いやり)を育む
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
14	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	人間関係を育む保育の在り方—教材研究・指導計画—
	復習	授業で配布された資料を読み、授業内容を確認する
15	予習	前回授業の配布資料を読み、分からない箇所を確認する
	内容	家族や地域の中で育む人間関係, まとめ
	復習	これまでの配布資料を確認し、本授業の全体像を理解する。

科目名	子どもと表現				担当教員	田川 智美 三井 正人	
科目番号	BO313B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	領域「表現」の指導に関する、幼児の表現の姿やその発達及びそれを促す要因、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な表現遊びや環境の構成などの専門的知識・技能、表現力を身に付ける。						
概要	領域「表現」について子どもの表現の特性、意義やねらい、留意点を理解し、保育実践に向けて活動展開や指導法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児の表現の姿や、その発達を理解する ・身体・造形・音楽表現などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶ ・幼児の表現を豊かにするための指導法を学ぶ 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 30% (2)技能 30% (3)態度 10% (4)実践力 30%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)グループワーク (2)その他						
評価方法	(1)定期試験 70% (2)課題提出・発表 30%						
課題へのフィードバック方法	作成した指導案の提出。添削後再提出。						
使用テキスト	板東貴余子編著『こどもの歌ベストテン』ドレミ楽譜出版社、阿部直美編著『0～5歳児 保育の手あそび』ひかりのくに、印刷資料(田川) 島田由紀子・駒久美子編著『コンパス 保育内容 表現』建帛社、独自印刷資料(三井)						
参考図書	全日本リトミック音楽教育研究会編『ダルクローズシステムによるリトミック指導1、2、3』全音楽譜出版社 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定子ども園教育・保育要領』						
学生への メッセージ	子どもは日常の生活の中で出会う自然や季節、行事などを通して新鮮な驚きや感動を経験します。そしてその思いを声に出して歌ってみたり、絵に描いたり、踊ったりして表現します。子どもたちの様々な思いを素直に表現するためにはどんな環境や指導が必要か学ぶのが、この授業です。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	自分の子ども期の音楽表現に関する体験をまとめておく
	内容	子ども期の音楽表現の特性と領域「表現」について(田川)
	復習	学習内容を振り返る
2	予習	わらべうた について各自調査する
	内容	子どもの遊びや生活に見られる音楽表現 わらべ歌(田川)
	復習	実践練習をする
3	予習	教科書で生活の歌。季節の歌を調べる
	内容	歌による音楽表現①(生活・季節のうた) リズム表現(田川)
	復習	実践練習をする
4	予習	教科書で生活の歌。季節の歌を調べる
	内容	歌による音楽表現②(生活・季節のうた) 音楽表現遊び(田川)
	復習	実践練習をする
5	予習	指導案作成のための題材を考える
	内容	音楽表現に関する指導案の立案(田川)
	復習	指導案の作成について考える
6	予習	自分の子ども期の身体表現の関する体験をまとめる
	内容	子ども期の身体表現の特性と領域「表現」について(田川)
	復習	学習したことをまとめる
7	予習	次の授業の内容について考える
	内容	イメージと動き リズムに合わせた表現(歩く、走る、回る、振る、弾む)(田川)
	復習	授業内容の振り返りをする
8	予習	次の授業の内容について考えてる
	内容	音楽に合わせた表現(スキップ、ツーステップ等リズムカルな動作の習得)(田川)
	復習	授業内容の振り返りをする
9	予習	身体表現遊びについて調べる
	内容	身体表現遊び「〇〇〇になってみよう」(田川)
	復習	授業内容の振り返りをする
10	予習	指導案の内容を考える
	内容	身体表現に関する指導案の立案(田川)
	復習	指導案の作成について考える
11	予習	子どもの絵の発達について調べる
	内容	造形表現の特性 幼児の造形表現とは 発達過程と発達理論(三井)
	復習	発達過程、発達理論を振り返る
12	予習	幼児の造形表現の特徴について調べる
	内容	幼児の造形表現とは 基礎的な造形教育理論と教育要領表現領域の理解(三井)
	復習	幼児の造形理論を振り返る
13	予習	指導案について、先輩のポートフォリオを見ておく
	内容	造形表現に関する指導案の立案(三井)
	復習	指導案の立て方を確認する
14	予習	子どもの造形教材について調べる
	内容	教材／指導案 デカルコマニー、スクラッチ グループごとに研究・模擬授業(三井)
	復習	子どもの造形教材について振り返る
15	予習	さまざまな造形教材について調べる
	内容	教材／指導案 スライム、小麦粉粘土、紙コップを使った教材 グループごとに研究・模擬授業(三井)
	復習	造形教材を指導案にどう盛り込むかまとめる

科目名	乳児保育 I				担当教員	澤田 由美	
科目番号	NT314A2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	講義	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	日々の保育は子どもが豊かに生きていくための力を育むことにつながっている。そのため3歳未満児の発育・発達を理解して乳児保育の基本的な知識や技術を身に付けるとともに、保護者や関係機関との連携・協働について理解することを目的とする。						
概要	乳児保育を歴史的に振り返ることで、その意義や役割を理解し、現代における乳児保育の課題を知る。また、各種施設における3歳未満児の養護と教育を支える理念や実際の取り組み、関係機関との連携を理解する。乳児保育の質の向上を目指し、乳児の発育・発達状況の把握とそれに応じた計画と実践について考え方を学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の意義、目的、役割と歴史的変遷について理解する 2. 多様な保育の場における乳児保育の現状と課題について理解する 3. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育内容と運営体制について理解する 4. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 60% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)授業態度・課題 20% (2)定期試験 80%						
課題へのフィードバック方法	課題は授業内で解説を行う。						
使用テキスト	寺田清美他編『新基本保育シリーズ15 乳児保育 I・II』中央法規出版						
参考図書	小山朝子編『講義で学ぶ 乳児保育』わかば社						
学生へのメッセージ	積極的に授業に参加しましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育の基本(妊娠から出産まで) 乳児保育の意義・目的・歴史の変遷
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
2	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育の役割と機能、養護と教育
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
3	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育の現状と課題 (1)支援をめぐる社会的状況と課題
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
4	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育の現状と課題 (2)保育所における乳児保育 (3)乳児院における乳児保育
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
5	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育の現状と課題 (4)家庭的保育等における乳児保育 (5)乳児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
6	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	3歳未満児の保育 (1)0歳児の生活と環境
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
7	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	3歳未満児の保育 (2)0歳児の遊びと環境(抱っことおんぶ)
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
8	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	3歳未満児の保育 (3)1歳児の生活と環境
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
9	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	3歳未満児の保育 (4)1歳児の遊びと環境
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
10	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	3歳未満児の保育 (5)2歳児の生活・遊びと環境
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
11	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	3歳未満児の保育 (6)移行する時期の保育 (7)保育士等による援助やかかわり、保育における配慮
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
12	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育における記録とその意義
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
13	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育における連携・協働 (1)保護者との連携
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
14	予習	テキストの学習内容に合うところを熟読し、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育における連携・協働 (2)職員間、保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
15	予習	これまでの授業を振り返り、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育の総理解
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする

科目名	乳児保育Ⅱ				担当教員	澤田 由美	
科目番号	NT315B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助やかかわりを理解し、乳児保育における生活や遊びと環境について知識、技術を身に付ける。また、保育の計画作成について理解することを目的とする。						
概要	乳児保育の実際について理解を深めるとともに、乳児モデル(人形)を用いて具体的な援助の仕方を学び、実践につながる保育技術の習得を目指す。乳幼児の発達に応じた保育環境の構成や保育計画・記録について学び、乳児保育への理解を深め、保護者や関係機関との連携について学ぶ。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 3歳未満児の発育・発達を踏まえた援助やかかわりについて理解する 「乳児保育」の養護と教育の一体性を踏まえた保育の方法や環境について具体的に理解する 乳児保育における配慮と援助技術について具体的に理解でき実施できる 「乳児保育」における計画の作成について具体的に理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 20% (3)態度 15% (4)実践力 15%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)授業の取り組み・課題 50% (2)定期試験 50%						
課題へのフィードバック方法	課題に対して、授業内で解説を行う。						
使用テキスト	寺田清美他編『新基本保育シリーズ15 乳児保育Ⅰ・Ⅱ』中央法規出版						
参考図書	厚生労働省編『保育所保育指針解説 平成30年3月』フレーベル館						
学生へのメッセージ	わからないところはそのままにせず、積極的に取り組みましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	乳児保育の基本
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
2	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの生活の流れ(0歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
3	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの保育環境(0歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
4	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの援助の実際(0歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
5	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの生活の流れ(1歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
6	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの保育環境(1歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
7	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの援助の実際(1歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
8	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの生活の流れ(2歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
9	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの保育環境(2歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
10	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの援助の実際(2歳児クラス)
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
11	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
12	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	集団での生活における配慮
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
13	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	環境の変化や移行に対する配慮
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
14	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	長期的な指導計画と短期的な指導計画
	復習	授業を振り返り内容を整理することで知識の定着を図る
15	予習	テキストを利用した予習を行い、授業時に理解を深められるようにする
	内容	個別的な指導計画と集団の指導計画
	復習	全体の復習

科目名	子どもの健康と安全				担当教員	澤田 由美	
科目番号	NT316B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	子どもの健康の保持増進及び心身の安全についての知識、技術や事故防止について理解し、保育現場での具体的な実践方法を学び身に付ける。また、ガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における衛生管理、多様な子どもへの対応について理解する。						
概要	保育士が働く場所は多様であるが、どのような場であっても子どもの命を守り、健やかな成長を支える安全・安心の確保は重要である。授業では保健的観点を踏まえた保育環境や援助、事故防止や安全対策、体調不良や感染症への対応、子どもの健康・安全の管理について各種ガイドラインを踏まえた対策や基本的な対応を演習形式で学習する。(本演習は、保健師としての実務経験を基に、保育者として身に付けておくべき感染症対策や子どもの体調不良などへの対応について、知識、技術が習得できるよう事例を紹介しながら授業を展開していく。)						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について理解する 2. 保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について具体的に理解する 3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に理解する 4. 関連するガイドラインや近年のデータ等を踏まえ、保育における感染症対策について具体的に理解する 5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に理解する 6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる組織的取り組みや保健活動の計画及び評価等について、具体的に理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 10%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)定期試験 80% (2)課題提出 20%						
課題へのフィードバック方法	課題に対して、授業内で解説を行う。						
使用テキスト	森脇千夏, 緒方美津子, 是松聖悟, 徳野裕子, 西岡征子, 宮崎貴美子, 宮原恵子, 室井由起子, 脇本麗 著『イラスト子どもの保健・健康と安全』東京教学社						
参考図書	松田博雄・金森美恵編集『子どもの健康と安全』中央法規出版 高内正子・梶美保編著『保育の場で生きる 子どもの健康と安全』建帛社						
学生へのメッセージ	子どもの安全・安心を考え、実際に活用できる知識・技術を身につけましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保健的観点を踏まえた保育環境と援助 (1)子どもの健康と保育環境 (2)個の健康と集団の保健
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
2	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における健康と安全の管理 (1)衛生管理
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
3	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における健康と安全の管理 (2)事故防止と安全対策、危機管理と災害への備え
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
4	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの特徴 (バイタルサイン、身体計測)
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
5	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの体調不良などへの対応 (1)体調不良や傷害が発生した場合の対応
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
6	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの体調不良などへの対応 (2)応急手当
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
7	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子どもの体調不良などへの対応 (3)一次救命処置
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
8	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	感染症対策 (1)感染症の集団発生の予防
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
9	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	感染症対策 (2)感染症発生時と罹患後の対応
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
10	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における保健的対応 (1)保育における保健的対応の基本的考え方
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
11	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における保健的対応 (2)3歳未満児への対応
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
12	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における保健的対応 (3)個別的な配慮が必要な子どもへの対応(慢性疾患)
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
13	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における保健的対応 (4)個別的な配慮が必要な子どもへの対応(アレルギー性疾患)
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
14	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育における保健的対応 (5)障害のある子どもへの対応
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする
15	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	健康および安全の管理の実施体制
	復習	授業内容の復習を行い、知識を確実にする

科目名	特別支援教育論				担当教員	清水 健	
科目番号	BO317B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	一般の保育・教育と障害児保育・教育との連続性から、様々な障害についての理解を促し、一人一人発達上の課題に対して特別な保育ニーズと支援を学び、保護者を中心とした支援の内容に関して理解を深める。						
概要	特別な支援を必要とする幼児への保育について、理念や歴史の変遷について学び、特別な支援を必要とする幼児及びその保育について理解する。 また、様々な障害や教育的ニーズについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成、障害のある子どもや特別な教育的ニーズのある子どもの保育の計画等についての学びを通して個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ち合う保育実践について理解を深める。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・特別な支援を必要とする幼児への保育についての理念や歴史の変遷を理解する ・様々な障害についての理解を深める ・特別な支援を必要とする幼児の理解や援助の方法、保育の計画等、個別支援について理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 50% (2)技能 10% (3)態度 20% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)プレゼンテーション (3)その他(双方向アンケート)						
評価方法	(1)レポート試験 30% (2)演習課題 30% (3)演習発表 40%						
課題へのフィードバック方法	課題に対して、授業内で解説を行う。						
使用テキスト	前田康弘編著『実践に生かす障害児保育・特別支援教育』萌文書林						
参考図書	尾野明美編著『保育者のための障害児保育－理解と実践』萌文書林 七木田敦編著『キーワードで学ぶ障害児保育入門』保育出版社						
学生へのメッセージ	演習課題・演習発表での取り組みが重要であることを理解し、必要な準備を怠らないよう留意すること。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の捉え方ーノーマライゼーションとICFー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害児保育・教育の歴史的視点ー障害観と処遇の歴史・障害児保育の歴史ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害児の発達とアセスメントー心身の発達と障害児の発達特徴・アセスメントの理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育・療育機関などにおける障害児保育の展開ー就学前の保育の場・障害児保育の形態と実践ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	個別の教育支援計画等、保育の計画作成と実施ー「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と保育における発達の援助①ー視覚障害の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と保育における発達の援助②ー聴覚障害の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と保育における発達の援助③ー肢体不自由の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と保育における発達の援助④ー知的障害の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と保育における発達の援助⑤ー自閉症スペクトラム障害の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と保育における発達の援助⑥ー注意欠陥・多動性障害の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と保育における発達の援助⑦ー学習障害の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	さまざまな障害の理解と個別的配慮ーその他特別な支援を必要とする幼児の理解ー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	家庭への支援ー家庭との協力、支援の場の広がりとながりー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	まとめー授業の到達目標を踏まえた演習の振り返りー
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	社会的養護Ⅱ				担当教員	星田 由哉	
科目番号	NT318B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	社会的養護の内容、社会的養護の実際について理解できる。また、社会的養護における計画と記録、相談援助、虐待防止と家庭支援について理解できる。						
概要	社会的養護は、虐待などの困難を抱える子どもを社会的に保護・援助するしくみである。社会的養護の下で暮らす子どもの家庭の環境、日常生活支援、自立支援、社会的養護の実際、計画・記録・自己評価、社会的養護における相談援助や家庭支援などについて学ぶ(授業は反転授業によって展開される)。なお、学生の関心や問題意識等に応じて、授業構成・内容を柔軟に変更することがある。(本演習は担当教員の児童養護施設での実務経験を活かし、実際の現場の様子を紹介しながら実践的に授業を行う。)						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの理解を踏まえた社会的養護の基礎的な内容について具体的に理解し、説明できる ・施設養護及び家庭養護の実際について理解し、説明できる ・社会的養護における計画・記録・自己評価の実際について理解し、説明できる ・社会的養護に関わる相談援助の方法・技術について理解し、説明できる ・社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解し、説明できる 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との関連	(1)知識 70% (2)技能 10% (3)態度 10% (4)実践力 10%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)反転授業 (2)グループワーク (3)その他						
評価方法	(1)定期試験 35% (2)課題 26% (3)授業参加度 39%						
課題へのフィードバック方法	定期試験・レポートについて、実施後解説を行う。						
使用テキスト	『最新保育士養成講座』総括編纂委員会編『改訂1版 最新保育士養成講座第5巻 社会的養護と障害児保育』全国社会福祉協議会						
参考図書	杉山宗尚・原田旬哉編著『図解で学ぶ保育 社会的養護Ⅱ(第2版)』萌文書林 喜多一憲監修・堀場純矢編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅱ(第2版)』みらい 相澤仁・村井美紀・大竹智『新・基本保育シリーズ⑩ 社会的養護Ⅱ』中央法規出版						
学生へのメッセージ	この科目は、保育の内容・方法に関する科目の一つです。「社会的養護Ⅰ」で学んだ、社会的養護における重要語句等を実践に活かすため、社会的養護の内容や支援方法などについて学びます。保育実習に向けて、社会的養護に対する理解を深めていきましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	「社会的養護Ⅰ」の配布資料を読み、分からない箇所等を確認しておく
	内容	イントロダクション 「社会的養護Ⅰ」での学習内容の再確認
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
2	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の内容①】社会的養護における子どもの理解
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
3	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の内容②】日常生活支援 【社会的養護の内容③】子どもの権利擁護
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
4	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の内容④】心理的支援
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
5	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の内容⑤】自立支援
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
6	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護に関わる専門的技術①】ソーシャルワークの知識・技術とその応用
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
7	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の実際①】乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
8	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の実際②】児童心理治療施設・児童自立支援施設・障害児施設
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
9	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護の実際③】ファミリーホーム・里親
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
10	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価①】アセスメントと自立支援計画の作成
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
11	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護における支援の計画と記録及び自己評価②】社会的養護における記録・自己評価
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
12	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護に関わる専門的技術②】保育の専門性に関わる知識・技術とその実践
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
13	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【社会的養護に関わる専門的技術③】相談援助の知識・技術とその実践
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
14	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【今後の課題と展望①】家庭支援
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する
15	予習	オンデマンド動画を視聴し、分からない箇所等を確認しておく
	内容	【今後の課題と展望②】今後の社会的養護の課題と展望 まとめ
	復習	テキストを読み、授業内容について再確認する

科目名	子育て支援				担当教員	吉田 百加利	
科目番号	NT319B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	現代社会において地域の子育て支援が必要とされる背景を理解し、子育てを支援するための政策・制度及び具体的な地域活動の現状と問題点について学ぶ。						
概要	保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援について、その特性と展開を具体的に理解する。また、保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践事例等を通して具体的に理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会における子育ての現状と課題、子育て支援の意義と必要性を理解する ・支援者の役割を理解し、支援に求められる知識と技術を修得する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 40% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 20%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション・ディベート						
評価方法	(1)定期試験 40% (2)課題・発表 30% (3)学習マナー 30%						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却する。試験は、解答を公表する。						
使用テキスト	小橋明子監修、木脇奈智子編著『子育て支援』中山書店						
参考図書	子育て支援者コンピテンシー研究会編著『育つ・つながる子育て支援』チャイルド本社						
学生へのメッセージ	自分の住んでいる地域の子育て支援に興味を持ちましょう。また、子育て支援現場のボランティアに参加して、保護者との交流等を通して様々な視点から子育てについて考える機会を持ちましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	オリエンテーション（授業内容の説明）
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	子育て支援とは
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	妊娠・出産・乳幼児期・小学生期の支援①
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	妊娠・出産・乳幼児期・小学生期の支援②
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	幼稚園による子育て支援
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育園による子育て支援
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	児童館・保健センターによる子育て支援
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	NPOの取り組み
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	地域の子育て支援の現状①—育児不安の原因と対応
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	地域の子育て支援の現状②—母親以外の育児参加
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育相談と支援の意義
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育相談と支援の基本
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育相談と支援の実践
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	テキストを読み、授業時に理解を深められるようにする
	内容	世界の子育て支援を知る
	復習	授業内容や資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	これまでの学びを振り返り、授業時に理解を深められるようにする
	内容	まとめ
	復習	これまでの学びを振り返り、授業内容について確認する

科目名	美術表現				担当教員	三井 正人	
科目番号	NT320B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	1年次に保育内容演習(表現Ⅱ)で学習した教材研究や指導案、模擬授業の学習を基礎に、より実践的、専門的なスキルアップを目指す。 また美術の楽しさを知り、造形教育指導の視野を広げるため、教育・保育・ボランティアなどの現場で実際に子どもたちに指導を行い、問題点を洗い出し、本番の教育・保育実習での実践につなげられるようにする。						
概要	幼児が楽しみながら行える造形遊びを研究しながら、保育内容演習(表現Ⅱ)で学習した幼児の発達状況、基礎的な教育理論を再確認する。また指導案を作成するとともに、実践的な模擬授業を通して造形遊びの具体的な環境構成や教材研究を学習する。また美術館等での校外授業を行い、美術表現を広い視野で捉える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・1年次に保育内容演習(表現Ⅱ)で学習した教材研究や指導案、模擬授業の学習を基礎に、より実践的、専門的なスキルアップを目指す ・美術の楽しさを知り、造形教育指導の視野を広げるため、美術史や様々な現代の表現の多様性を知る ・ボランティアなどの現場で実際に子どもたちに指導を行い、問題点を洗い出し、本番の教育・保育実習での実践につなげられるようにする 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 20% (3)態度 10% (4)実践力 40%						
自己学習	合計30時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)PBL (2)グループワーク (3)ディスカッション						
評価方法	(1)レポート提出 30% (2)実践発表 70%						
課題へのフィードバック方法	課題発表後は、意見交換し、教員のアドバイスを参考に発表を見直す。						
使用テキスト	島田由紀子・駒久美子編著『コンパス 保育内容 表現』建帛社						
参考図書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 その他インターネットによる検索						
学生へのメッセージ	1年次の保育内容演習(表現Ⅱ)をもとに、講義科目ではありますが、実践的な授業になります。 学外発表、学外授業については、現地までの移動や美術館入館料などの実費がかかる場合があります。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	シラバスを見て表現(造形)関係のまとめしておく
	内容	オリエンテーション ①授業の目的と内容の説明 ②課題説明
	復習	美術(表現)とは？を考える
2	予習	主体的で、対話的で、深い学びについて復習しておく
	内容	幼稚園教育要領、保育指針などでの表現の位置づけ
	復習	表現領域の特色について
3	予習	古代とはどんな時代か
	内容	多様な表現 古代～中世の表現 王、神、宗教
	復習	土偶、壁画、エジプト、メソポタミア、ギリシャ、神の誕生、さまざまな宗教
4	予習	ルネッサンスとは
	内容	多様な表現 美術史 ルネサンス～近代
	復習	近代絵画の特徴～印象派
5	予習	認識、概念
	内容	多様な表現 近代から現代の表現 概念芸術
	復習	見えるものと見えないもの 無意識
6	予習	形や色を組み替えたり、統合したりする
	内容	表現の多様性
	復習	多様な表現を組み合わせる
7	予習	現代美術における制作手法
	内容	美術における手法・・・メタ認知/深い学びとの関連性
	復習	さまざまな美術教育
8	予習	子どもの発達に即した教材研究
	内容	教材研究 グループごとに 計画
	復習	指導計画の作成
9	予習	実際にボランティア活動をする調整
	内容	教材研究 グループごとに 作って遊ぶ 集団、遊び、ルール・展開
	復習	実際の準備
10	予習	事前準備
	内容	教材研究 グループごとに 実践
	復習	整理、片付け、ビデオ撮影、映像記録
11	予習	事前準備
	内容	美術館を巡り造形表現・教材の研究し、子どもたちとの美術体験ボランティアに参加
	復習	整理、片付け、ビデオ撮影、映像記録
12	予習	事前準備
	内容	美術館を巡り造形表現・教材の研究し、子どもたちとの美術体験ボランティアに参加
	復習	整理、片付け、ビデオ撮影、映像記録
13	予習	事前準備
	内容	美術館を巡り造形表現・教材の研究し、子どもたちとの美術体験ボランティアに参加
	復習	整理、片付け、ビデオ撮影、映像記録
14	予習	活動を動画、写真でまとめておく
	内容	幼児の造形遊び・指導のまとめ 幼稚園にて発表した指導研究及び指導案作成・模擬授業の反省
	復習	片づけ、整理
15	予習	活動を動画、写真でまとめポートフォリオとして完成
	内容	まとめ
	復習	ポートフォリオの振り返り

科目名	保育技術研究 I				担当教員	三井 正人	
科目番号	BO321B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	通年
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	<p>子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。</p>						
概要	<p>保育所指針、教育要領、発達の様子を踏まえて保育実践のための特に表現領域の造形製作(平面・立体造形)における教材開発の能力と技術を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育所保育指針、幼稚園教育要領を踏まえた保育技術としての人形劇の意義、学習成果としての実践力について確認する ・人形劇(15分程度の)マリオネットの人形製作を通して、知識、技術を身につける ・子どもたちを前にして舞台製作、発表を行いながら、自主性、協働性を育みながら、さまざまに試行して、実践力を身につける 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 40%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)保育技術発表 (2)グループワーク (3)ディスカッション						
評価方法	(1)製作状況の評価 50% (2)発表時の積極性 50%						
課題へのフィードバック方法	発表後の意見交換を通して改善点を見出しアドバイスする。発表をビデオ撮影し、振り返るとともにyoutubeにアップしてポートフォリオとしてまとめる						
使用テキスト	インターネットでの物語検索、決定。人形作り、舞台づくりについて先輩他の人形劇の映像を参考に学習。						
参考図書	人形や舞台づくりの実際を近隣のマリオネットを公演している絵本村に見学に行く。						
学生へのメッセージ	人形作りでは1つ1つ課題を、乗り越えて造形活動から効果的な表現にいたる流れを学習します。また、子どもたちに発表し子どもたちに見てもらおう喜びを体験しよう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	主体的、対話的で深い学習の一環として保育技術を学ぶ意義を考える
	内容	ガイダンス 課題(劇づくり)の決定
	復習	さまざまな人形劇について調べる
2	予習	さまざまな人形劇から好きなストーリーを選ぶ
	内容	内容の検討 昔話、絵本などからストーリーを選ぶ
	復習	候補に上がったストーリーをビデオなどで見てくる
3	予習	人形劇の様式について調べる
	内容	内容の決定 ストーリーと劇内容の決定
	復習	ストーリーと人形劇が決まったたら、どんな作業が必要か考える
4	予習	先輩の人形劇についてyoutubeなどで見てくる
	内容	役割分担(舞台づくり、背景製作、人形製作、小道具)、台本作り 演じる場所の決定
	復習	役割分担(舞台づくり、背景製作、人形製作、小道具)、台本作り を決定し仕事内容を検討する
5	予習	日程を定め、台本を検討する
	内容	製作①原案検討 子どもの招待(保育園、幼稚園、施設)
	復習	各担当は製作日程を検討する
6	予習	台本を検討する
	内容	製作②原案決定
	復習	台本を見ながら、舞台割、人形の数、種類、背景の描き方を検討する
7	予習	必要なものを購入する予算を立てる
	内容	製作③材料購入
	復習	作業内容を確認し、役割分担が決まったら、製作に必要なものを買ってくる
8	予習	作業効率を考え手順を決める
	内容	製作④製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
9	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑤製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
10	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑥製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
11	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑦製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
12	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑧加工・着色
	復習	時間内でできない作業を継続
13	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑨加工・着色
	復習	時間内でできない作業を継続
14	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑩組立・完成
	復習	時間内でできない作業を継続
15	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作終了 完成品提出
	復習	製作した人形、舞台、背景、音響、案内、進行、手遊びなどの各作ったものを確認し、不足しているものをチェックする

回	授業概要	
16	予習	製作した人形、舞台、背景、音響、案内、進行、手遊びなどの各作ったものを確認し、不足しているものをチェックする
	内容	役者、音響、ライトを交互に担当
	復習	実際に演じてみて不足するものや演技方を工夫する
17	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討①
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する
18	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討②
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する
19	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討③
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する 課題を見つける
20	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討④
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する 課題を見つける
21	予習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
	内容	全体練習① 導入の検討 手遊び 司会進行
	復習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
22	予習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
	内容	全体練習② 導入手遊び決定
	復習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
23	予習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
	内容	全体練習③ 効果的なライト 効果音
	復習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
24	予習	より良い演出のため意見を出し合う
	内容	全体練習④
	復習	不足している準備を協力して補う
25	予習	より良い演出のため意見を出し合う ヴィデオ撮影
	内容	全体練習⑤
	復習	不足している準備を協力して補う ヴィデオ振り返り
26	予習	最終リハーサル準備 ヴィデオ撮影
	内容	発表準備
	復習	不足している準備を協力して補う ヴィデオ振り返り
27	予習	最終 セット
	内容	発表
	復習	発表を振り返る
28	予習	課題を確認する
	内容	片付け
	復習	次回発表のための準備
29	予習	次回発表のための準備
	内容	ビデオ撮影 意見交換
	復習	反省をもとに振り返る 課題を見出す
30	予習	ポートフォリオの下準備
	内容	まとめ
	復習	ポートフォリオを確認する

科目名	保育技術研究 I				担当教員	清水 健	
科目番号	BO321B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	通年
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	<p>子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。</p>						
概要	<p>子どもの発達や絵本の基礎を踏まえ、手作り絵本の製作・発表に取り組む。子どもとの遊び、年中行事への理解を通して保育実践のための技術の修得を目指す。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手作り絵本を製作する ・絵本製作活動を通して絵本に関する基本的な知識をもつ ・対象者の姿(子どもの発達等)に応じた遊びとその工夫・配慮を身につける 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 30% (4)実践力 30%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)PBL (3)その他(調査学習)						
評価方法	(1)活動への取り組み 60% (2)発表 40%						
課題へのフィードバック方法	課題はその都度確認し、返却する。発表作品は映像等を活用し、相互に評価したあと担当が総括する。						
使用テキスト	必要に応じて配布、提示。						
参考図書	余郷 裕次『絵本のひみつ 絵本の知と読み聞かせの心』南日本新聞社						
学生へのメッセージ	学生の主体性、自主性を重視します。責任感を持って取り組んでください。クラスメイトや2年生への協力を求めます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	オリエンテーション
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
2	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本の理解 紙面の構成
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
3	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本の理解 色彩
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
4	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本の理解 絵本モンタージュ
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
5	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
6	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
7	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
8	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
9	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り⑤
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
10	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 キャラクター作り①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
11	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 キャラクター作り②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
12	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 キャラクター作り③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
13	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面構成①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
14	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面構成②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
15	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること

回	授業概要	
16	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
17	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
18	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
19	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
20	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
21	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
22	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
23	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
24	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
25	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
26	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
27	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表練習
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
28	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表練習
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
29	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
30	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表の反省・課題
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること

科目名	保育技術研究 I				担当教員	田川 智美	
科目番号	BO321B1	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	通年
卒業	必修	幼2種免	必修	保育士	選択必修		
目的	<p>子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。</p>						
概要	<p>子どもの音楽活動である歌うこと、合奏すること、リズムに合わせて活動することを主に、実践的な能力と技術、表現力を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの年齢や状況を考え、題材を選択しアレンジすることができる ・本質を理解し、表現活動ができる ・実践活動を通して音楽の楽しさを知り、技術力を高める 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との関連	(1)知識 10% (2)技能 40% (3)態度 10% (4)実践力 40%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)模擬授業・保育技術発表 (2)その他						
評価方法	(1)授業への取り組み 50% (2)発表 40%						
課題へのフィードバック方法	発表作品は映像等を活用し、相互に批評したあと担当が総括する。						
使用テキスト	授業内で配布する						
参考図書	特になし						
学生へのメッセージ	音楽を通して、表現することの楽しさを知り、実践・発表を通して、保育現場で役立つような力をつけていきます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする
	内容	オリエンテーション 題材を考える
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
2	予習	次の授業内容に対して具体的なイメージをしておく
	内容	子どものための音楽表現について研究 題材について
	復習	課題をまとめておく
3	予習	授業内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 役割について
	復習	課題をまとめておく
4	予習	授業内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ①ストーリー編成
	復習	課題をまとめておく
5	予習	授業内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ②ストーリー編成
	復習	課題をまとめておく
6	予習	授業内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ③ストーリー編成
	復習	課題をまとめておく
7	予習	自主練習をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ①実践練習 パート毎の練習
	復習	自主練習をする
8	予習	自主練習をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ②実践練習 パート毎の練習
	復習	自主練習をする
9	予習	自主練習をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ③実践練習 パート毎の練習
	復習	自主練習をする
10	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ④実践練習 パート毎の練習
	復習	自主練習をする
11	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑤実践練習 パート毎の練習
	復習	自主練習をする
12	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑥実践練習 パート毎の練習
	復習	自主練習をする
13	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑦実践練習 パート毎の練習
	復習	自主練習をする
14	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ①実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
15	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ②実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む

回	授業概要	
16	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ③実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
17	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ④実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
18	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑤実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
19	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑥実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
20	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑦実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
21	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑧実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
22	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑨実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
23	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑩実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
24	予習	自主練習をする
	内容	公演練習①
	復習	問題点の改善に取り組む
25	予習	自主練習をする
	内容	公演練習②
	復習	問題点の改善に取り組む
26	予習	自主練習をする
	内容	公演練習③
	復習	問題点の改善に取り組む
27	予習	自主練習をする
	内容	公演練習④
	復習	問題点の改善に取り組む
28	予習	自主練習をする
	内容	公演練習⑤
	復習	問題点の改善に取り組む
29	予習	自主練習をする
	内容	技術の実践発表
	復習	実践発表の振り返りをする
30	予習	
	内容	まとめ
	復習	

科目名	保育技術研究Ⅱ				担当教員	三井 正人	
科目番号	NT322B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	通年
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	<p>子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。</p>						
概要	<p>保育所指針、教育要領、発達の様子を踏まえて保育実践のための特に表現領域の造形製作(平面・立体造形)における教材開発の能力と技術を身につける。</p>						
到達目標	<p>・人形劇(15分程度の)マリオネットの人形製作、舞台製作、発表</p>						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 20% (4)実践力 40%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)保育技術発表 (2)グループワーク (3)ディスカッション						
評価方法	(1)製作状況の評価 50% (2)発表時の積極性 50%						
課題へのフィードバック方法	発表後の意見交換を通して改善点を見出しアドバイスする。						
使用テキスト	インターネットでの物語検索、決定。人形作り、舞台づくりについて先輩他の人形劇の映像を参考に学習。						
参考図書	人形や舞台づくりの実際を近隣のマリオネットを公演している絵本村に見学に行く。						
学生へのメッセージ	人形作りでは1つ1つ課題を、乗り越えて造形活動から効果的な表現にいたる流れを学習します。また、子どもたちに発表し子どもたちに見てもらおう喜びを体験しよう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	主体的、対話的で深い学習の一環として保育技術を学ぶ意義を考える
	内容	ガイダンス 課題(劇づくり)の決定
	復習	さまざまな人形劇について調べる
2	予習	さまざまな人形劇から好きなストーリーを選ぶ
	内容	内容の検討 昔話、絵本などからストーリーを選ぶ
	復習	候補に上がったストーリーをビデオなどで見てくる
3	予習	人形劇の様式について調べる
	内容	内容の決定 ストーリーと劇内容の決定
	復習	ストーリーと人形劇が決まったたら、どんな作業が必要か考える
4	予習	先輩の人形劇についてyoutubeなどで見てくる
	内容	役割分担(舞台づくり、背景製作、人形製作、小道具)、台本作り 演じる場所の決定
	復習	役割分担(舞台づくり、背景製作、人形製作、小道具)、台本作り を決定し仕事内容を検討する
5	予習	日程を定め、台本を検討する
	内容	製作①原案検討 子どもの招待(保育園、幼稚園、施設)
	復習	各担当は製作日程を検討する
6	予習	台本を検討する
	内容	製作②原案決定
	復習	台本を見ながら、舞台割、人形の数、種類、背景の描き方を検討する
7	予習	必要なものを購入する予算を立てる
	内容	製作③材料購入
	復習	作業内容を確認し、役割分担が決まったら、製作に必要なものを買ってくる
8	予習	作業効率を考え手順を決める
	内容	製作④製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
9	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑤製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
10	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑥製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
11	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑦製材・加工
	復習	時間内でできない作業を継続
12	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑧加工・着色
	復習	時間内でできない作業を継続
13	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑨加工・着色
	復習	時間内でできない作業を継続
14	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作⑩組立・完成
	復習	時間内でできない作業を継続
15	予習	時間内でできない作業を継続
	内容	製作終了 完成品提出
	復習	製作した人形、舞台、背景、音響、案内、進行、手遊びなどの各作ったものを確認し、不足しているものをチェックする

回	授業概要	
16	予習	製作した人形、舞台、背景、音響、案内、進行、手遊びなどの各作ったものを確認し、不足しているものをチェックする
	内容	役者、音響、ライトを交互に担当
	復習	実際に演じてみて不足するものや演技方を工夫する
17	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討①
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する
18	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討②
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する
19	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討③
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する 課題を見つける
20	予習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う
	内容	役割に分かれて練習 人形、場面設定 声だし 音楽の検討④
	復習	人形の動かし方、声の出し方、音楽、ライトのつけ方などを話し合う 工夫し、協働する 課題を見つける
21	予習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
	内容	全体練習① 導入の検討 手遊び 司会進行
	復習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
22	予習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
	内容	全体練習② 導入手遊び決定
	復習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
23	予習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
	内容	全体練習③ 効果的なライト 効果音
	復習	全体の大まかな流れができてきたら、実際に子どもの前で演じる時に必要な準備が何か考える
24	予習	より良い演出のため意見を出し合う
	内容	全体練習④
	復習	不足している準備を協力して補う
25	予習	より良い演出のため意見を出し合う ヴィデオ撮影
	内容	全体練習⑤
	復習	不足している準備を協力して補う ヴィデオ振り返り
26	予習	最終リハーサル準備 ヴィデオ撮影
	内容	発表準備
	復習	不足している準備を協力して補う ヴィデオ振り返り
27	予習	最終 セット
	内容	発表
	復習	発表を振り返る
28	予習	課題を確認する
	内容	片付け
	復習	次回発表のための準備
29	予習	次回発表のための準備
	内容	ビデオ撮影 意見交換
	復習	反省をもとに振り返る 課題を見出す
30	予習	ポートフォリオの下準備
	内容	まとめ
	復習	ポートフォリオを確認する

科目名	保育技術研究Ⅱ				担当教員	清水 健	
科目番号	NT322B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	通年
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	<p>子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。</p>						
概要	<p>子どもの発達や絵本の基礎を踏まえ、手作り絵本の製作・発表に取り組む。子どもとの遊び、年中行事への理解を通して保育実践のための技術の修得を目指す。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・手作り絵本を製作する ・絵本製作活動を通して絵本に関する基本的な知識をもつ ・対象者の姿(子どもの発達等)に応じた遊びとその工夫・配慮を身につける 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 30% (4)実践力 30%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)PBL (3)その他(調査学習)						
評価方法	(1)活動への取り組み 60% (2)発表 40%						
課題へのフィードバック方法	課題はその都度確認し、返却する。発表作品は映像等を活用し、相互に評価したあと担当が総括する。						
使用テキスト	必要に応じて配布、提示						
参考図書	余郷裕次『絵本のひみつ 絵本の知と読み聞かせの心』南日本新聞社						
学生へのメッセージ	学生の主体性、自主性を重視します。責任感を持って取り組んでください。クラスメイトや2年生への協力を求めます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	オリエンテーション
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
2	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本の理解 紙面の構成
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
3	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本の理解 色彩
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
4	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本の理解 絵本モンタージュ
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
5	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
6	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
7	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
8	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
9	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 シナリオ作り⑤
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
10	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 キャラクター作り①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
11	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 キャラクター作り②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
12	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 キャラクター作り③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
13	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面構成①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
14	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面構成②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
15	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること

回	授業概要	
16	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
17	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
18	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 場面ごとの作画④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
19	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
20	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
21	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
22	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 文章作成④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
23	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本①
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
24	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本②
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
25	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本③
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
26	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	絵本製作 製本④
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
27	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表練習
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
28	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表練習
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
29	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
30	予習	授業時に検討・討論が進められるよう、次回の活動に向けて準備を整えておくこと
	内容	発表の反省・課題
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること

科目名	保育技術研究Ⅱ				担当教員	田川 智美	
科目番号	NT322B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(60)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	通年
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	<p>子どものあそびには、子どもの成長や発達にとって大きな役割を果たす体験が多く含まれている。保育者には、子どもの成長や発達段階を捉え、具体的な計画のもとにその更なる成長・発達を促す保育活動を展開する「保育技術」が求められる。「保育技術研究」では、保育に関する自発的、科目横断的な学習能力を習得させ、これまでに学んだ知識を基にして保育実践のための計画、教材研究、実践的活動を行い、これを通して保育活動を展開するために必要な知識・技術を習得させる。</p>						
概要	<p>子どもの音楽活動である歌うこと、合奏すること、リズムに合わせて活動することを主に、実践的な能力と技術、表現力を身につける。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの年齢や状況を考え、題材を選択しアレンジすることができる ・本質を理解し、表現活動ができる ・実践活動を通して音楽の楽しさを知り、技術力を高める 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との関連	(1)知識 10% (2)技能 40% (3)態度 10% (4)実践力 40%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)模擬授業・保育技術発表 (2)その他						
評価方法	(1)授業への取り組み 50% (2)発表 40%						
課題へのフィードバック方法	発表作品は映像等を活用し、相互に批評したあと担当が総括する。						
使用テキスト	授業内で配布する						
参考図書	特になし						
学生へのメッセージ	音楽を通して、表現することの楽しさを知り、実践・発表を通して、保育現場で役立つような力をつけていきます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	次回のテーマに向けて工夫点を考え、授業時に理解を深められるようにする
	内容	オリエンテーション 題材を考える
	復習	授業を振り返り、技術や知識の定着を図ること
2	予習	授業の内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現について研究 題材について
	復習	授業内容の振り返りと次回の授業の準備をする
3	予習	授業の内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 役割について
	復習	授業で出た課題をまとめる
4	予習	授業の内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ①ストーリー編成
	復習	授業で出た課題をまとめる
5	予習	授業の内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ②ストーリー編成
	復習	授業で出た課題をまとめる
6	予習	授業の内容に合わせた準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ③ストーリー編成
	復習	授業で出た課題をまとめる
7	予習	各自練習する
	内容	子どものための音楽表現研究 ①実践練習 パート毎の練習
	復習	次回の準備をする
8	予習	各自練習する
	内容	子どものための音楽表現研究 ②実践練習 パート毎の練習
	復習	次回の準備をする
9	予習	各自練習する
	内容	子どものための音楽表現研究 ③実践練習 パート毎の練習
	復習	各自練習する
10	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ④実践練習 パート毎の練習
	復習	各自練習する
11	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑤実践練習 パート毎の練習
	復習	各自練習する
12	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑥実践練習 パート毎の練習
	復習	各自練習する
13	予習	次回の準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑦実践練習 パート毎の練習
	復習	各自練習する
14	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ①実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
15	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ②実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む

回	授業概要	
16	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ③実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
17	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ④実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
18	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑤実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
19	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑥実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
20	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑦実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
21	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑧実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
22	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑨実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
23	予習	全体練習のための準備をする
	内容	子どものための音楽表現研究 ⑩実践練習 全体練習
	復習	問題点の改善に取り組む
24	予習	各自練習をする
	内容	公演練習①
	復習	問題点の改善に取り組む
25	予習	各自練習をする
	内容	公演練習②
	復習	問題点の改善に取り組む
26	予習	各自練習をする
	内容	公演練習③
	復習	問題点の改善に取り組む
27	予習	各自練習をする
	内容	公演練習④
	復習	問題点の改善に取り組む
28	予習	各自練習をする
	内容	公演練習⑤
	復習	問題点の改善に取り組む
29	予習	各自練習をする
	内容	技術の実践発表
	復習	実践発表の振り返りをしておく
30	予習	実践発表の振り返りをしておく
	内容	まとめ
	復習	

科目名	基礎技能(器楽) I				担当教員	田川 智美・関口 和子 青木 陽香・藤巻 都	
科目番号	NT323B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	保育実践において必要なピアノ演奏の基礎的・基本的な技能を習得させ、自らが演奏する喜びや楽しさを体験するとともに、幼児のリトミックや伴奏などの音楽活動を活発に展開するための技能を身に付ける。						
概要	バイエル教則本から演習を始めることにより、ピアノ演奏の基礎的・基本的な演奏技能を習得させる。この演習を通して、音楽に関する基礎的知識を理解することは勿論、音楽的感性を高め、将来保育者として最も必要な幼児の豊かな音楽活動を活発にするための楽器演奏の基礎的スキルを身につけさせる。演習は、それぞれの学習者の進度に合わせて展開する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜力や演奏技術を習得する ・保育実践に必要な伴奏をマスターすることを目標とする ・より高度の技術を身につけさせるため個々にあう教材で展開する 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との 関連	(1)知識 15% (2)技能 35% (3)態度 15% (4)実践力 35%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	実施しない						
評価方法	(1)授業への取り組み 60% (2)実技試験 40%						
課題へのフィードバック方法	個々のレッスン時に指導、コメントする						
使用テキスト	『標準バイエル・ピアノ教則本』全音楽譜出版社 坂東貴余子編著『こどもの歌ベストテン』ドレミ楽譜出版社 その他(進度に応じて担当教員より指示)						
参考図書	個々の進度に応じ担当教員より紹介						
学生への メッセージ	上達するために練習を欠かさないこと。繰り返しの練習により、より高度の技術をつけること。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	
	内容	音楽歴調査によるクラス分け 担当教員によるオリエンテーション
	復習	課題を練習しておく
2	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について①
	復習	課題を練習しておく
3	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について②
	復習	課題を練習しておく
4	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について③
	復習	課題を練習しておく
5	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について④
	復習	課題を練習しておく
6	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑤
	復習	課題を練習しておく
7	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑥
	復習	課題を練習しておく
8	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑦
	復習	課題を練習しておく
9	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑧
	復習	課題を練習しておく
10	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑨
	復習	課題を練習しておく
11	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑩
	復習	課題を練習しておく
12	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑪
	復習	課題を練習しておく
13	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑫
	復習	課題を練習しておく
14	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ①
	復習	課題を練習しておく
15	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ②
	復習	課題を練習しておく

科目名	基礎技能(器楽)Ⅱ				担当教員	田川 智美・関口 和子 青木 陽香・藤巻 都	
科目番号	NT324B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	保育実践において必要なピアノ演奏の基礎的・基本的な技能を習得させ、自らが演奏する喜びや楽しさを体験するとともに、幼児のリトミックや伴奏などの音楽活動を活発に展開するための技能を身に付ける。						
概要	バイエル教則本から演習を始めることにより、ピアノ演奏の基礎的・基本的な演奏技能を習得させる。この演習を通して、音楽に関する基礎的知識を理解することは勿論、音楽的感性を高め、将来保育者として最も必要な幼児の豊かな音楽活動を活発にするための楽器演奏の基礎的スキルを身につけさせる。演習は、それぞれの学習者の進度に合わせて展開する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜力や演奏技術を習得する ・保育実践に必要な伴奏をマスターすることを目標とする ・より高度の技術を身につけさせるため個々にあう教材で展開する 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との 関連	(1)知識 15% (2)技能 35% (3)態度 15% (4)実践力 35%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	実施しない						
評価方法	(1)授業への取り組み 60% (2)実技試験 40%						
課題へのフィードバック方法	個々のレッスン時に指導、コメントする						
使用テキスト	『標準バイエル・ピアノ教則本』全音楽譜出版社 坂東貴余子編著『こどもの歌ベストテン』ドレミ楽譜出版社 その他(進度に応じて担当教員より指示)						
参考図書	個々の進度に応じ担当教員より紹介						
学生への メッセージ	上達するために練習を欠かさないこと。繰り返しの練習により、より高度の技術をつけること。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	
	内容	音楽歴調査によるクラス分け 担当教員によるオリエンテーション
	復習	課題を練習しておく
2	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について①
	復習	課題を練習しておく
3	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について②
	復習	課題を練習しておく
4	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について③
	復習	課題を練習しておく
5	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について④
	復習	課題を練習しておく
6	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑤
	復習	課題を練習しておく
7	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑥
	復習	課題を練習しておく
8	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑦
	復習	課題を練習しておく
9	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑧
	復習	課題を練習しておく
10	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑨
	復習	課題を練習しておく
11	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑩
	復習	課題を練習しておく
12	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑪
	復習	課題を練習しておく
13	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑫
	復習	課題を練習しておく
14	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ①
	復習	課題を練習しておく
15	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ②
	復習	課題を練習しておく

科目名	基礎技能(器楽)Ⅲ				担当教員	田川 智美 青木 陽香・藤巻 都	
科目番号	NT325B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	保育実践において必要なピアノ演奏の基礎的・基本的な技能を習得させ、自らが演奏する喜びや楽しさを体験するとともに、幼児のリトミックや伴奏などの音楽活動を活発に展開するための技能を身に付ける。						
概要	バイエル教則本から演習を始めることにより、ピアノ演奏の基礎的・基本的な演奏技能を習得させる。この演習を通して、音楽に関する基礎的知識を理解することは勿論、音楽的感性を高め、将来保育者として最も必要な幼児の豊かな音楽活動を活発にするための楽器演奏の基礎的スキルを身につけさせる。演習は、それぞれの学習者の進度に合わせて展開する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜力や演奏技術を習得する ・保育実践に必要な伴奏をマスターすることを目標とする ・より高度の技術を身につけさせるため個々にあう教材で展開する 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との 関連	(1)知識 15% (2)技能 35% (3)態度 15% (4)実践力 35%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	実施しない						
評価方法	(1)授業への取り組み 60% (2)実技試験 40%						
課題へのフィードバック方法	個々のレッスン時に指導、コメントする						
使用テキスト	『標準バイエル・ピアノ教則本』全音楽譜出版社 坂東貴余子編著『こどもの歌ベストテン』ドレミ楽譜出版社 その他(進度に応じて担当教員より指示)						
参考図書	個々の進度に応じ担当教員より紹介						
学生への メッセージ	上達するために練習を欠かさないこと。繰り返しの練習により、より高度の技術をつけること。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	
	内容	音楽歴調査によるクラス分け 担当教員によるオリエンテーション
	復習	課題を練習しておく
2	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について①
	復習	課題を練習しておく
3	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について②
	復習	課題を練習しておく
4	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について③
	復習	課題を練習しておく
5	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について④
	復習	課題を練習しておく
6	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑤
	復習	課題を練習しておく
7	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑥
	復習	課題を練習しておく
8	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑦
	復習	課題を練習しておく
9	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑧
	復習	課題を練習しておく
10	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑨
	復習	課題を練習しておく
11	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑩
	復習	課題を練習しておく
12	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑪
	復習	課題を練習しておく
13	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑫
	復習	課題を練習しておく
14	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ①
	復習	課題を練習しておく
15	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ②
	復習	課題を練習しておく

科目名	基礎技能(器楽)Ⅳ				担当教員	田川 智美 青木 陽香・藤巻 都	
科目番号	NT326B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	保育実践において必要なピアノ演奏の基礎的・基本的な技能を習得させ、自らが演奏する喜びや楽しさを体験するとともに、幼児のリトミックや伴奏などの音楽活動を活発に展開するための技能を身に付ける。						
概要	バイエル教則本から演習を始めることにより、ピアノ演奏の基礎的・基本的な演奏技能を習得させる。この演習を通して、音楽に関する基礎的知識を理解することは勿論、音楽的感性を高め、将来保育者として最も必要な幼児の豊かな音楽活動を活発にするための楽器演奏の基礎的スキルを身につけさせる。演習は、それぞれの学習者の進度に合わせて展開する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読譜力や演奏技術を習得する ・保育実践に必要な伴奏をマスターすることを目標とする ・より高度の技術を身につけさせるため個々にあう教材で展開する 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との 関連	(1)知識 15% (2)技能 35% (3)態度 15% (4)実践力 35%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	実施しない						
評価方法	(1)授業への取り組み 60% (2)実技試験 40%						
課題へのフィードバック方法	個々のレッスン時に指導、コメントする						
使用テキスト	『標準バイエル・ピアノ教則本』全音楽譜出版社 坂東貴余子編著『こどもの歌ベストテン』ドレミ楽譜出版社 その他(進度に応じて担当教員より指示)						
参考図書	個々の進度に応じ担当教員より紹介						
学生への メッセージ	上達するために練習を欠かさないこと。繰り返しの練習により、より高度の技術をつけること。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	
	内容	音楽歴調査によるクラス分け 担当教員によるオリエンテーション
	復習	課題を練習しておく
2	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について①
	復習	課題を練習しておく
3	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について②
	復習	課題を練習しておく
4	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について③
	復習	課題を練習しておく
5	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について④
	復習	課題を練習しておく
6	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑤
	復習	課題を練習しておく
7	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑥
	復習	課題を練習しておく
8	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑦
	復習	課題を練習しておく
9	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑧
	復習	課題を練習しておく
10	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑨
	復習	課題を練習しておく
11	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑩
	復習	課題を練習しておく
12	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑪
	復習	課題を練習しておく
13	予習	課題を練習しておく
	内容	グレード別の指導、次回の課題の練習方法について⑫
	復習	課題を練習しておく
14	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ①
	復習	課題を練習しておく
15	予習	課題を練習しておく
	内容	試験曲の個人指導まとめ②
	復習	課題を練習しておく

科目名	子育て支援実践演習				担当教員	未定	
科目番号	OT327B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	—		
目的	子育て支援に関する現代的な課題について、プロジェクトを組みながら保育現場の運営という視点から考察することを通して、子育て支援について学びを深める。						
概要	保育現場において、子育て支援の運営面での心構えや効果的な方法について、プロジェクトを組んで、実際の地域の子ども課や子育て支援施設を見学・参加しながら、そのシーズとニーズを整理し、自分たちで考えられる改善策を探る。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育現場でのさまざまな課題について考察する ・各施設のこれからの役割や運営方法について話し合う 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること						
	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること						
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 30% (2)技能 30% (3)態度 20% (4)実践力 20%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク						
評価方法	(1)課題・発表(反省点や展開の工夫、実践発表) 50% (2)学習マナー(練習) 50%						
課題へのフィードバック方法	確認後、各自に返却する予定である。						
使用テキスト	必要に応じて資料を提示、配布						
参考図書	子育て支援コンピテンシー研究会編著『育つ・つながる子育て支援』チャイルド本社						
学生へのメッセージ	子育て支援の運営に関心があり、積極的にかかわろうとする姿勢を求めます。なお、子育て支援施設の見学を実施する予定ですので、参加できる学生を求めます。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	オリエンテーション
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
2	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	子育て支援施設の現状と役割
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
3	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	園組織論・園経営論
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
4	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	行政サービスの現状と課題
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
5	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	プロジェクト1(実態把握①:地域の子ども課)
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
6	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	プロジェクト1(実態把握②:子育て支援センター他)
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
7	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	プロジェクト1(ニーズ調査:子育て支援者と保護者)
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
8	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	グループディスカッション①
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
9	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	プロジェクト2(実態把握①:地域の子ども課)
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
10	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	プロジェクト2(実態把握②:子育て支援センター他)
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
11	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	プロジェクト2(ニーズ調査:子育て支援者と保護者)
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
12	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	グループディスカッション②
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
13	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	グループディスカッション③
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
14	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	発表準備
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する
15	予習	見学先の施設についてWEB等で調べておく
	内容	発表・まとめ
	復習	毎時間後に授業の成果についてミニレポートを提出する

科目名	保育実習 I (保育所)				担当教員	井上・小野 澤田・清水・星田・三井・吉田	
科目番号	NT401D2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(80)	授業形態	実習	履修年次	1年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	<p>保育所の現場でその機能や生活、保育士の役割等について実際の体験を通して学習し、保育士として学びを深めることを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の概要を把握する 2. 乳幼児と接して発達の特性を知る 3. 子どもの遊びを観察する 4. 担当保育士の指導を受け、デイリープログラムの一部に参加する 5. 安全、疾病予防対策等に対する配慮、処置を学ぶ 						
概要	<p>保育所の現場でその機能や生活、保育士の役割について実際の体験を通して学習し、将来の保育士としての活動の源泉とする。(本実習は、実習現場の職員の指導に基づき行われる。)</p>						
到達目標	<p>保育実習 I (保育所)においては以下の①～⑥についての目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育所保育指針や、施設の方針・特色を理解して実習に取り組む ②施設での一日の流れを理解する ③子どもの発達段階を理解して子どもに対応する ④子どもの健康・安全に配慮する ⑤保育技術(手遊び、読み聞かせ、ピアノ等)を積極的に披露する ⑥実習日誌を適切に記述・提出する 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 30% (4)実践力 30%						
自己学習	合計10時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)実習・フィールドワーク (2)PBL						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して可否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。						
使用テキスト	『学生生活ハンドブック』						
参考図書	相馬和子・中田カヨ子編『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』萌文書林 ミネルヴァ書房編集部編『保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房 教育・保育実習を考える会編『施設実習の常識』蒼丘書林						
学生への メッセージ	実習での学びは、とても重要です。学内での学習をもとに、実習では、目的を持った積極的な行動を心がけましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1～45	予習	具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の習得に努める
	内容	学外実習(1年次10月の2日間・2月の8日間)。実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。
	復習	日誌の記録などから実践を振り返る

科目名	保育実習指導 I (保育所)				担当教員	井上 聖子 小野 拳	
科目番号	NT403B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年	開講時期	通年
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	①これまで学んだ講義の内容を活かして、実習の場において総合的な実践が行える力を養う ②実習の心構えや実習を円滑に行うための事前指導により、実習に対する不安を軽減し、実習の目標を明確にする ③実習での実践を通し、保育士として必要な資質、能力、技術、倫理観等を習得する						
概要	保育実習の意義・目的を理解したうえで、実習における自らの課題を明確にする。また、実習施設における職業倫理について学び、具体的な実習の計画、実践、観察、記録、評価の流れを理解する。さらに、事後指導を通して、実習を振り返り、新たな課題や目標を明確にする。						
到達目標	次の項目について、理論と実践から習得する。 1. 実習施設の役割、機能 2. 保育士の職務(保育指導計画と保育技術等)、倫理観 3. 子どもの理解、援助						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○ (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること						
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 30% (3)態度 20% (4)実践力 30%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)実習・フィールドワーク (2)模擬授業・保育技術発表						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して合否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	課題は、添削のうえ返却をする。						
使用テキスト	特になし						
参考図書	相馬和子・中田カヨ子編『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』萌文書林 ミネルヴァ書房編集部編『保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房 教育・保育実習を考える会編『施設実習の常識』蒼丘書林						
学生へのメッセージ	意欲・積極性に富み、向上心のある保育士を目指しましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	保育所について調べておくこと
	内容	実習日程及び実習全体の説明 実習先の開拓について ①電話の掛け方 ②訪問時の注意事項
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
2	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	保育所の役割、機能、関連法規 ①保育所とは ②保育所保育指針の概略
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
3	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	実習先の把握 実習依頼文書の作成と発送
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
4	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	実習段階について 見学実習・観察実習・参加実習・責任実習
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
5	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	実習の心構えと目標の立て方について
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
6	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	実習日誌の書き方(1)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
7	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	実習日誌の書き方(2)
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
8	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	オリエンテーションについて ①電話の掛け方 ②訪問時の注意事項
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
9	予習	事前に出了課題に取り組んでおくこと
	内容	模擬授業の実施とそれに対する評価(自己紹介)(1)
	復習	発表の反省を次に生かせるようまとめておくこと
10	予習	前の発表からの学びをまとめておくこと
	内容	模擬授業の実施とそれに対する評価(自己紹介)(2)
	復習	発表の反省を次に生かせるようまとめておくこと
11	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	子どもの発育・発達の理解と援助について
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
12	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	I期の実習に関する指導 実習中の諸注意と持参書類配布
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
13	予習	実習の学びをまとめておくこと
	内容	I期実習の振り返りと学び
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
14	予習	事前に配布する資料をもとに、内容について調べてくること
	内容	II期実習に関する指導 実習中の諸注意と持参書類配布 礼状の書き方とレポート指導
	復習	授業内容についてまとめ、理解した点・理解できなかった点を明らかにし、さらに学びを深めること
15	予習	実習の学びをまとめておくこと
	内容	II期実習の振り返りと学び 実習アンケート パネルシアターの課題について
	復習	今までの学びを振り返り次の実習に向けてまとめておくこと

科目名	保育実習 I (施設)				担当教員	清水・星田 井上・小野・澤田・三井・吉田	
科目番号	NT402D2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業	該当する		
単位数(時間)	2(80)	授業形態	実習	履修年次	1年～2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	<p>施設の現場でその機能や生活、保育士の役割等について実際の体験を通して学習し、保育士とし学びを深めることを目的とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習施設の概要を把握する(施設、設備、環境等が利用児(者)の生活のためにどの様に工夫されているのか) ・実習施設の1日の流れ及び利用児(者)の生活の実際を理解する ・実習施設の人的環境、物的環境を理解する(他の専門職職員との交流、保育や生活の準備、環境設定の手伝いを通して現場での配慮や工夫を理解する) ・施設職員としての保育士の職務内容、役割を理解し、担当保育士の補助を行う ・安全、疾病防止などに対する配慮、処置を学ぶ ・家庭、地域社会・関係機関とのかかわりを理解する 						
概要	施設の現場でその機能や生活、保育士の役割等について実際の体験を通して学習し、将来の保育士としての活動の源泉とする。(本実習は、実習現場の職員の指導に基づき行われる。)						
到達目標	<p>保育実習 I (施設)においては以下の①～③について目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①施設の内容と機能を理解する ②施設における入所・利用児(者)の姿や生活を観察し、実践的な接触を通して理解する ③保育士の役割、職務内容や保育の方法を理解する 						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 10% (2)技能 10% (3)態度 60% (4)実践力 20%						
自己学習	合計10時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)実習・フィールドワーク						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して可否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。						
使用テキスト	『学生生活ハンドブック』 駒井美智子編著『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林						
参考図書	相馬和子・中田カヨ子編『幼稚園・保育所実習 実習日記の書き方』萌文書林 ミネルヴァ書房編集部編『保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房 『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい						
学生へのメッセージ	実習での学びは、とても重要です。学内での学習をもとに、実習では、目的を持った積極的な行動を心がけましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1～45	予習	実習のねらい・目標の作成・確認
	内容	学外実習(1年次3月の10日間もしくは2年次8月～12月の10日間)。実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。
	復習	実習日誌の作成。指導計画の作成。

科目名	保育実習指導 I (施設)				担当教員	清水 健 星田 由哉	
科目番号	NT404B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年～2年	開講時期	後期～前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	必修		
目的	①これまで学んだ講義の内容を活かして、実習の場において総合的な実践が行える力を養う ②実習の心構えや実習を円滑に行うための事前指導により、実習に対する不安を軽減し、実習の目標を明確にする ③実習での実践を通し、保育士として必要な資質、能力、技術、倫理観等を習得する						
概要	保育実習の意義・目的を理解したうえで、実習における自らの課題を明確にする。また、実習施設における職業倫理について学び、具体的な実習の計画、実践、観察、記録、評価の流れを理解する。さらに、事後指導を通して、実習を振り返り、新たな課題や目標を明確にする。						
到達目標	次の項目について、理論と実践から習得する。 1. 実習施設の役割、機能 2. 保育士の職務(保育指導計画と保育技術等)倫理観 3. 子どもの理解、援助						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○ (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること						
学習成果との関連	(1)知識 20% (2)技能 10% (3)態度 50% (4)実践力 20%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)グループワーク (2)その他(調査学習)						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して合否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	実習事前指導においては、指導内容について毎時フィードバックする。 実習事後指導においては、実習後面談を通して実習での学生個々の課題や成果をフィードバックする。						
使用テキスト	『学生生活ハンドブック』 愛知県保育実習連絡協議会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい						
参考図書	駒井美智子編著『施設実習ガイド 保育者として成長するための事前事後学習』萌文書林						
学生へのメッセージ	意欲・積極性に富み、向上心のある保育士を目指しましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	児童福祉施設の役割、機能、関連法規 ①実習の意義と目的 ②実習の段階と内容
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
2	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	障害の理解と障害児(者)への対応 虐待の理解と被虐待児への対応
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
3	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	体験実習に関する指導(1)実習に向けての準備
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
4	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	体験実習に関する指導(2)実習中の諸注意と持参書類配布
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	10月実習の振り返りと学び(グループ討議)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	保育実習のマナー ①掃除 ②食事 ③言葉づかい
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	配属先施設に関する学習会(1)概要と種別の把握
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	配属先施設に関する学習会(2)利用者支援の方法
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	配属先施設に関する学習会(3)事例検討
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習オリエンテーション実施に向けての指導
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習の直前指導(1)レポートの指導
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習の直前指導(2)当日持参書類の確認・実習終了後の提出物について
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習中の諸注意と実習に臨む姿勢
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	評価表に基づく個人面談—実習の総括・評価—
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習終了後の反省と今後の課題の明確化・実習に関するアンケート—実習の総括・評価—
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	保育実習Ⅱ(保育所)				担当教員	吉田・星田 井上・小野・澤田・清水・三井	
科目番号	NT405D2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	2(80)	授業形態	実習	履修年次	2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	<p>保育所の保育を実践に実践し、家庭や地域の実態にも触れながら以下の目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 施設の内容と機能を理解する 2. 施設における乳幼児の姿や生活を観察し、実践的な接触を通して理解する 3. 保育士の役割、職務内容や保育の方法を理解する 4. 保育計画及び週案、日案の理解と実践を体験する 5. デイリープログラムの理解と実践を体験する 6. 保育士の指導下における乳幼児保育の担当を体験する 7. 発達段階での個人差の大きい子どもへの配慮とかかわりを体験する 8. 保育士と保護者の連携を把握する 9. 保護者の保育ニーズに基づく特別保育対策を理解する 						
概要	<p>保育所の現場でその機能や生活、保育士の役割について実際の体験を通して学習し、将来の保育士としての活動の源泉とする。(本実習は、実習現場の職員の指導に基づき行われる。)</p>						
到達目標	<p>保育実習Ⅱ(保育所)においては以下の①～⑥についての目標を達成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①保育計画及び週案、日案を理解した実践が出来る ②デイリープログラムを理解した実践が出来る ③保育士の指導下において乳幼児保育の担当が出来る ④発達段階での個人差の大きい子どもへ配慮したかかわりが出来る ⑤保育士と保護者の連携を把握した実践が出来る ⑥保護者の保育ニーズに基づく特別保育対策を理解出来る 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 25% (2)技能 25% (3)態度 25% (4)実践力 25%						
自己学習	合計10時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)実習						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して可否の判定を行う。						
課題へのフィード バック方法	各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。						
使用テキスト	『学生生活ハンドブック』						
参考図書	相馬和子・中田カヨ子編『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』萌文書林 ミネルヴァ書房編集部編『保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房						
学生への メッセージ	実習での学びは、とても重要です。学内での学習をもとに、実習では、目的を持った積極的な行動を心がけましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1～45	予習	具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の習得に努める
	内容	学外実習(2年次9月の10日間)。実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。
	復習	日誌の記録などから実践を振り返る

科目名	保育実習指導Ⅱ(保育所)				担当教員	吉田 百加利 星田 由哉	
科目番号	NT406B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	通年
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の教科や保育実習Ⅰ(保育所)での経験を基に課題を整理し、保育士としての総合的実践的能力を培う ・観察、記録、自己評価を踏まえた保育の改善について実践や事例を通して学ぶ ・保育士の専門性と職業倫理について理解する ・実習の事後指導を通して実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする 						
概要	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習での学びを踏まえ、実習における課題と意義を明確にする ・保育者の役割、保育士の職務、子どもについての理解をさらに深め、保育の意義について総合的に学ぶ 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもをより深く理解したうえでの責任実習指導計画を立案できる ・実習の中で意欲的に学ぶ姿勢と保育実践力を身につける ・実習先での学習を客観的に振り返り、今後につながる成果と課題を明らかにする 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 25% (2)技能 25% (3)態度 25% (4)実践力 25%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)実習・フィールドワーク (2)模擬授業・保育技術発表 (3)その他						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して合否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	第1回目に各自到達目標を設定し、講義終了後、その評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。						
使用テキスト	『学生生活ハンドブック』 *実習関連資料は、授業で配布します。						
参考図書	相馬和子・中田カヨ子編『幼稚園・保育所実習 実習日誌の書き方』萌文書林 ミネルヴァ書房編集部『保育所保育指針・幼稚園教育要領 解説とポイント』ミネルヴァ書房						
学生への メッセージ	就職を視野に入れ、授業は休まず出席し、提出物は期限までに出しましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	オリエンテーション
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
2	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	<事前指導の内容>保育実習Ⅱの目的とねらいについて
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
3	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	保育実習Ⅰの振り返りと実習課題の確認
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
4	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	保育所の機能と役割、実習先の理解
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
5	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	子どもの理解と日誌の書き方(保育記録のとり方)
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
6	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	子どもの理解と指導計画について
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
7	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	指導計画の立案・作成のための留意点(部分実習)
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
8	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	指導計画の立案・作成のための留意点(責任実習)
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
9	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習直前ガイダンス①
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
10	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習直前ガイダンス②
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
11	予習	実習を振り返り、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	<事後指導の内容>実習の振り返りと自己評価①
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
12	予習	実習を振り返り、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習の振り返りと自己評価②
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
13	予習	実習報告会への準備
	内容	実習報告会
	復習	実習報告会での学びを振り返り、知識と技能の定着を図る
14	予習	実習を振り返り、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	自己課題の明確化と今後の目標
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
15	予習	これまでの学びを振り返り、授業時に理解を深められるようにする
	内容	まとめ
	復習	これまでの学びを振り返り、授業内容について確認する

科目名	保育実習Ⅲ(児童館)				担当教員	三井・澤田 井上・小野・清水・星田・吉田	
科目番号	NT407D2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業	該当する		
単位数(時間)	2(80)	授業形態	実習	履修年次	2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	<p>・児童の健全育成施策の中心としての児童館の実態を知り、そこでの日常業務を通して展開される援助技術を学ぶ</p> <p>・児童館の現場でその機能や生活、児童館職員の役割等について実際の体験を通して学習し、将来の児童厚生員としての活動の源泉とすることを目的とする。具体的には次のとおり</p> <p>①児童館の役割と機能を理解する</p> <p>②児童館を利用する児童について、生活や遊びの観察と実践的な接触を通して理解する</p> <p>③児童館職員の役割と指導方法、職務内容について体験的に学習する</p>						
概要	児童館の現場でその機能や生活、児童館職員の役割について実際の体験を通して学習し、児童館での健全育成の意義について深く理解する。(本実習は、実習現場の職員の指導に基づき行われる。)						
到達目標	<p>①児童の放課後の活動を支える地域の小型児童館・児童センターで、児童館職員と同じ仕事を体験する</p> <p>②児童の理解を深め、児童の生活を援助する専門職員としての関わりを学ぶ</p> <p>③実習施設の概要を把握する(施設、設備、環境等が利用児の生活のためにどの様に工夫されているのか)</p> <p>④実習施設の1日の流れ及び利用児の生活の実際を理解する</p> <p>⑤実習施設の人的環境、物的環境を理解する(他の専門職職員との交流、生活の準備、環境設定の手伝いを通して現場での配慮や工夫を理解する)</p> <p>⑥施設職員としての児童館職員の職務内容、役割を理解し、担当職員の補助を行う</p> <p>⑦安全、疾病防止等に対する配慮、処置を学ぶ</p> <p>⑧家庭、地域社会、関係機関とのかかわりを理解する</p> <p>⑨コミュニティワーカーとしての児童館職員の姿を学ぶ</p>						
卒業認定・学位授与の方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との関連	(1)知識 10% (2)技能 10% (3)態度 40% (4)実践力 40%						
自己学習	合計10時間分(授業計画参照)						
アクティブラーニング	(1)実習・フィールドワーク (2)模擬授業・保育技術発表 (3)その他						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して可否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。						
使用テキスト	『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団						
参考図書	『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論』一般財団法人児童健全育成推進財団						
学生へのメッセージ	実習では、積極的な行動や学びの態度を心がけると同時に、健全育成についての理解を深めましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1～45	予習	具体的な実習課題を設定し、達成のために必要な知識・技術の習得に努める
	内容	学外実習(2年次8月～9月の10日間もしくは12月の10日間)。実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。
	復習	日誌の記録などから実践を振り返る

科目名	保育実習指導Ⅲ(児童館)				担当教員	三井 正人 澤田 由美	
科目番号	NT408B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	前期
卒業	選択	幼2種免	—	保育士	選択必修		
目的	児童厚生施設の意義、目的を知り、児童とかかわる上で必要な資質・能力・技術の習得に向け実践的学習を行う。また、地域社会に対する理解を深め、連携の方法や保護者への子育て支援についても具体的に学習する。						
概要	保育実習Ⅰでの経験を踏まえ、保育士としての専門性や現場での実践的知識をより高めるための事前準備・事後考察を行う。児童館の現状、児童、利用者の実態、施設の社会的ニーズ等多角的に保育をとらえる視点を養い、より良い実習につなげることを目指す。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の特性や、家庭と地域、児童厚生施設の実態を知る ・子ども家庭福祉ニーズに対する理解力、判断力、子育て支援に必要な能力を身につける 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	<ul style="list-style-type: none"> ○ (1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること ○ (2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること ○ (3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること 						
学習成果との 関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 40% (4)実践力 20%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)実習・フィールドワーク (2)模擬授業・保育技術発表 (3)その他						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して合否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	第1回目に各自到達目標を設定し、講義終了後、その評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。						
使用テキスト	『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ② 児童館論』一般財団法人児童健全育成推進財団						
参考図書	『児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ① 健全育成論』一般財団法人児童健全育成推進財団						
学生への メッセージ	遅刻、欠席をしない。積極的にボランティアにも参加し、児童とかかわる機会を持つ。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	オリエンテーション
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
2	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	保育実習Ⅰの振り返りと自己課題の設定
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
3	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	保育実習Ⅲ(児童館実習)の意義と目的
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
4	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	児童館の役割と社会的ニーズ
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
5	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	個別援助活動—児童の特性と発達に応じたかかわりや遊び①
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
6	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	個別援助活動—児童の特性と発達に応じたかかわりや遊び②
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
7	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	記録の書き方と活用①
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
8	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	記録の書き方と活用②
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
9	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習目標について
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
10	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習指導案の書き方と活用①
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
11	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習指導案の書き方と活用②
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
12	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習中の心構え・諸注意 実習持参書類の確認
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
13	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	事後指導について
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
14	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	実習報告会と事後指導
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る
15	予習	テキストや資料を読み、乳幼児の発達、遊びや生活と指導計画への理解を深める
	内容	総括
	復習	授業で学んだ内容を振り返り、新たな情報収集に努め知識の定着を図る

科目名	教育実習(幼稚園)				担当教員	清水・井上 小野・澤田・星田・三井・吉田	
科目番号	KT409D2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当する	
単位数(時間)	4(120)	授業形態	実習	履修年次	2年	開講時期	集中
卒業	選択	幼2種免	必修	保育士	—		
目的	(1)幼稚園の役割と機能を理解する (2)幼児期の子どもに対する理解(姿、生活、遊びなど)を深める (3)幼稚園教諭の職務内容や保育の方法、環境構成を理解する (4)幼稚園の教育内容の各領域を理解し、個々の指導技術を習得する (5)デイリープログラムの理解と実践を体験する (6)教育計画及び週案、日案の理解と立案の経験をする (7)教師の指導下における幼児教育の担当を体験する (8)子どもの発育、発達への個人差への配慮と援助の仕方を学ぶ (9)教師と保護者との連携を把握する						
概要	幼稚園の現場で、その機能や教育、教諭の役割等について実勢の体験を通して学習し、将来の幼稚園教諭としての活動の源泉とする。(本実習は、実習現場の職員の指導に基づき行われる。)						
到達目標	(1)幼稚園の役割と機能が理解出来る (2)幼児期の子どもに対する理解が深まった (3)幼稚園教諭の職務内容や保育の方法、環境構成を理解出来た (4)幼稚園の教育内容の各領域を理解し、個々の指導技術が習得出来た (5)デイリープログラムの理解と実践が理解出来た (6)教育計画及び週案、日案の理解と立案の経験をし、教師の指導下における幼児教育の担当が出来た (7)子どもの発育、発達への個人差への配慮と援助の仕方が理解出来た (8)教師と保護者との連携が把握出来た						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1)責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2)幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3)保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 10% (2)技能 20% (3)態度 50% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)実習・フィールドワーク						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して可否の判定を行う。						
課題へのフィードバック方法	各自実習到達目標を設定し、実習終了後、評価を教員とともに面談を通してフィードバックしていく。						
使用テキスト	『学生生活ハンドブック』 久富陽子編『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』萌文書林 *実習関連資料は授業で配布します。						
参考図書	保育とカリキュラム編集部編『新指針・新要領 イラスト図解ガイド～保育課程の参考例も解説～』ひかりのくに						
学生へのメッセージ	この実習には一日実習(責任実習)が含まれ、限られた期間で指導計画の立案、指導実践を行います。これまで以上に積極的・主体的な学びの姿勢で取り組みましょう。						

授業計画

回	授業概要	
1～45	見学・実習	<p>○幼稚園の概要を把握する。(実習園の沿革や教育の基本方針、ならびに立地条件、幼稚園内外の自然的環境等を把握する)</p> <p>○幼稚園の1日の流れを理解する。(時間と生活の流れ、およびその内容はどの様になっているのか)</p> <p>○幼稚園の人的環境(対象幼児の構成、職員組織など)、物的環境(建物、遊具、教具等、幼児の生活、遊びのためにどのような配慮や工夫がなされているか)を理解する。</p> <p>○子どもの遊びを観察する。(指導的態度ではなく、自由に遊んでいる子どもの中に参加し、子どもの遊びの方法や工夫、争いや協力の仕方等を観察する)</p> <p>○各領域がどのように達成されているかを知る。</p> <p>○教師の補助を行う。(遊具の活用、教材の準備、清掃の仕方等)</p>
	参加実習	<p>○指導担当教諭の指導を受け、助手的立場で、幼児や教育活動に直接働きかけ、教諭の教育活動を経験的に理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察、受け入れ、個別検査 ・歌の指導、お話、紙芝居、絵本の読み聞かせ、手遊び、ペープサート、エプロンシアター、パネルシアター等 ・自由遊びでのかかわり(遊びの様子を見ながら、鬼ごっこや童歌等の遊びを提案し、遊びがより発展するよう助言する) ・食事、排泄、着脱、清潔等の援助 ・その他 <p>○安全、疾病予防等に対する配慮、処置を学ぶ。(遊具の使い方、交通安全、避難訓練、食中毒等)</p> <p>○家庭、地域社会との関わりを理解する。(園の行事、地域の行事等に参加する)</p>
	部分実習	<p>○子どもの活動のある一部分を受け持ち、指導する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活指導、健康、人間関係、環境、言葉、表現等の活動の一部を受け持ち指導する。 ・一日の保育の流れを乱さないように、指導案(細案)を作成する。(対象児、内容、方法、時間等十分に考慮する) ・指導案(細案)を作成する場合は、指導担当教諭に相談し、助言を得る。
	一日実習	<p>○実習園の指導計画(月・週案)を理解した上で、一日の指導案(日案)を立てて、実際に指導をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導案は前もって、指導担当教諭の助言を得ながら早めに立て、期限厳守で提出する。 ・時間、活動等の配分や子どもの状況判断に十分留意して行う。
	実習現場で、実務を行う職員から直接指導を受ける。	

科目名	教育実習指導(幼稚園)				担当教員	清水 健 井上 聖子	
科目番号	KT410B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	1(30)	授業形態	演習	履修年次	1年～2年	開講時期	後期～前期
卒業	選択	幼2種免	必修	保育士	—		
目的	実習の基本的理解と実践的理解を養うとともに、実習への意欲を高め、より充実した実習となるように展開していく。						
概要	今までの講義や演習で学習した理論や技術をより実践的・具体的・総合的に実習園で実践できるような展開方法を学ぶ。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の基礎理解から子どものかかわりについて考える ・実習園の教育内容を知り、自分なりの視点を発表する ・責任実習指導案が立案できる 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 20% (2)技能 20% (3)態度 40% (4)実践力 20%						
自己学習	合計15時間分(授業計画参照)						
アクティ ブラー ニング	(1)グループワーク (2)プレゼンテーション (3)模擬授業・保育技術発表 (4)その他(模擬授業)						
評価方法	実習先からの評価票に基づき、各実習指導の成績等を総合的に評価して合否の判定を行う。						
課題へのフィ ードバック方法	各自のテーマごとに提出される課題につき、添削の上返却する。模擬授業はグループ内の相互評価を行う。(評価についてはルーブリック等の評価表を用いる)						
使用テキスト	『学生生活ハンドブック』 久富陽子編『幼稚園・保育所実習指導計画の考え方・立て方』萌文書林 安部孝編著『自分でつくるBOOK&NOTE—教育・保育実習でよりよい時間を過ごそう!』同文書院						
参考図書	文部科学省編『幼稚園教育要領解説 平成30年3月』フレーベル館						
学生への メッセージ	<p>実習はこれまでに学習した理論や技術の検証の場であると同時に社会人、職業人としての体験の場です。日々の授業の中で特に以下の事を意識して過ごしましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○遅刻厳禁！(チャイムと同時に出席確認を行うので要注意) ○課題及び提出物の期限厳守！(遅れ・未提出はいかなる場合であっても「—」評価となるので注意！) ○「実習の手引き」「テキスト」「実習日誌」は毎回持参する事。 						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	ガイダンスー教育実習の概要と事前事後指導の流れー ①実習の意義 ②幼稚園教育とは ③幼稚園教育要領の理解
	復習	実習園の特色について調べる
2	予習	課題の発表に向け準備をする
	内容	課題の確認・発表①
	復習	課題の発表について自身で振り返りを行う
3	予習	課題の発表に向け準備をする
	内容	課題の確認・発表②
	復習	課題の発表について自身で振り返りを行う
4	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習課題の立案・実習依頼書類作成(課題:デイリープログラムの理解、実習目標・調査書の作成)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
5	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習生としてのマナーと心構え・実習先内諾訪問について(課題:実習園開拓・訪問・内諾書の提出)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
6	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習生としての倫理事項(課題:性暴力、セクシャルハラスメント、パワーハラスメント等の加害・被害の防止について)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
7	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	指導案の作成①指導計画作成のポイント整理
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
8	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	指導案の作成②部分指導案の書き方(実践)(課題:各自がねらいを設定し、部分指導案(細案)の作成)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
9	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	模擬授業(1)造形遊び(課題:指導案の準備、教材研究、模擬授業の準備)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
10	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	模擬授業(2)運動遊び(課題:指導案の準備、教材研究、模擬授業の準備)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
11	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	模擬授業(3)自然・環境・音楽・言葉(課題:指導案の準備、教材研究、模擬授業の準備)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
12	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	模擬授業のまとめと振り返り
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
13	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	教育実習の課題と心構え(直前指導)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
14	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	実習終了後のアンケート及び反省会・事後指導(個別)
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る
15	予習	予めテキストを読んでおき、授業時に理解を深められるようにする
	内容	課題の整理と振り返り
	復習	ノートや資料を振り返り、知識の定着を図る

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)				担当教員	清水 健 井上 聖子	
科目番号	BO411B2	科目区分	専門教育科目	実務経験のある 教員等による授業		該当しない	
単位数(時間)	2(30)	授業形態	演習	履修年次	2年	開講時期	後期
卒業	選択	幼2種免	必修	保育士	必修		
目的	本授業では、卒業後に保育者として現場に立つ前に、今まで授業や実習などを通して学んできたことをまとめ、学生各自が今まで学んできたことを整理し、不足している学びについてはそれを補うことで、今後の保育者としての第一歩を確かなものとするを図る。						
概要	学生は各グループ担当教員に分かれ、グループワークを行う。ワークシートなどを利用することで、グループ内の学生同士の意見交換が可能となるようにする。そのことで、学生同士が互いの保育観を見つめ直させ、今までの学びをより深く定着させる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者として、今後とも研鑽していくべき課題を知る ・積極的に他の学生との意見交換を行うことで、自らの保育観をより深める 						
卒業認定・ 学位授与の 方針との関連	○	(1) 責任ある社会人として他者に配慮し、豊かな人間性と教養、マナーを身につけていること					
	○	(2) 幼児教育に関する専門的知識と保育技能を身につけ、学んだことを工夫して組み合わせ、自ら計画を立てて、創造性溢れる発表ができること					
	○	(3) 保育の課題を積極的に探究し、協働して解決する意欲をもっていること					
学習成果との 関連	(1)知識 40% (2)技能 10% (3)態度 30% (4)実践力 20%						
自己学習	合計60時間分(授業計画参照)						
アクティブ ラーニング	(1)グループワーク (2)ディスカッション・ディベート (3)PBL						
評価方法	(1)授業への取り組み 50% (2)課題レポート 30% (3)実習(討論含) 20%						
課題へのフィードバック方法	提出物について、互いに発表させて、意見交換を図る。						
使用テキスト	小櫃智子・矢藤誠慈郎他著『保育教職実践演習 これまでの学びと保育者への歩み 幼稚園保育所編』わかば社						
参考図書	授業内で適宜配布する。						
学生へのメッセージ	遅刻、欠席をしない。提出物の期限は絶対厳守。						

授業計画

回	授業概要	
1	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	オリエンテーション(授業の進め方の説明・確認)
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
2	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	保育者への歩みと足跡
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
3	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	子ども理解の方法と実際
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
4	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	気になる子どもの行動の理解と対応
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
5	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	教育課程および全体的な計画を考える
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
6	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	保育内容と保育方法の研究Ⅰ
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
7	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	保育内容と保育方法の研究Ⅱ
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
8	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	協同的な学びと育ちへ
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
9	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	保育の振り返り
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
10	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	保護者および地域との関係づくり
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
11	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	幼保小の接続
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
12	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	園の安全管理
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
13	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	保育者の専門性
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
14	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	自分の保育者像を目指して
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する
15	予習	テキストを読み、次回授業で行うことを確認する
	内容	総括
	復習	授業内で提出を要求された提出物を作成する

2025年度 帝京学園短期大学／シラバス

発行日 2025年4月1日
発行所 帝京学園短期大学
所在地 山梨県山梨市上神内川1150-1
TEL 0553-23-1240
FAX 0553-23-2101
編集者 帝京学園短期大学